

Conference
Agenda Report
WSC 2026: 3-9 May

Our Common Welfare



50 years of the
World Service Conference
1976-2026

World Service Conference Mission Statement



ワールドサービスカンファレンス（WSC）は、NAワールドサービスのあらゆる要素を結集し、NAの全体の福利をさらに促進する場です。

WSCの使命は、次のような場を提供することで、世界中のNAの一体性を高めることです。

- 参加者は、NAサービスのビジョンを推進する取り組みを提案し、フェローシップの合意（コンセンサス）を得ます。
- フェローシップは、経験・力・希望の分かち合いを通じて、NA全体に影響する事項について共同で意思を表明します。
- NAグループは、NAワールドサービスの活動を導き、方向づける仕組みを持っています。
- 参加者は、NAワールドサービスの各要素が最終的にサービスするグループに責任を負うことを確認します。
- 参加者は、利他的なサービスの喜びと、自分たちの努力が違いを生むことを知ることで、励まされます。



Our
Common
Welfare

お互いにNAに対して責任を持つとする強さが、私たちを結びつける一体性を生み出している。

NA全体の福利が持続できるかどうかは、世界の隅々まで広がるNAという仲間の集まりが成長を続け、健全さを保っているかどうかにかかっている

なぜ、どのように効果があるのか、伝統1

Conference Agenda Report

WSC 2026

3 – 9 May

Woodland Hills, California

2026 Conference Agenda Report
World Service Conference of Narcotics Anonymous

World Service Office
PO Box 9999
Van Nuys, CA 91409 USA
Tel: (818) 773-9999
Fax: (818) 700-0700
Website: na.org




World Service Office—EUROPE
B-1050 Brussels, Belgium
Tel: +32/2/646-6012

World Service Office—CANADA
Mississauga, Ontario

World Service Office—IRAN
Tehran, Iran

Twelve Steps and Twelve Traditions adapted and reprinted by permission of Alcoholics Anonymous World Services, Inc.

Narcotics Anonymous[®]

The name “Narcotics Anonymous,” the stylized initials “NA” alone or within a double circle , the four-sided diamond enclosed in a circle , and the Original NA Group Logo , are registered trademarks and service marks of Narcotics Anonymous World Services, Incorporated.

The NA Way is a registered trademark of Narcotics Anonymous World Services, Incorporated, for its periodical publication.

Twelve Concepts for NA Service copyright © 1989, 1990, 1991 by Narcotics Anonymous World Services, Inc. All rights reserved. *The Twelve Concepts for NA Service* were modeled on AA's Twelve Concepts for World Service, published by Alcoholics Anonymous World Services, Inc., and have evolved specific to the needs of Narcotics Anonymous.

na.org/conference

11/25

目次

私たち全体の福利

WSC 2026に向けたデリゲート準備

文献の価格設定

IP #21：孤立の中でのクリーン

NAワールドサービス戦略計画

今後の展望：NAワールドコンベンション

ジェンダー中立かつ包括的な言語

NAにおけるDRT/MAT：メンバーが根付くのを助ける

文献・サービス資料・IDTサーベイ

リージョンによるモーション

モーション、サーベイ、および議論質問：グループの良心収集シート

用語集

付録A—IP #21：孤立状態でクリーンを保つ

付録B—NAワールドサービス戦略計画

付録C—提案されたワールドコンベンションガイドライン

付録D—現行ワールドコンベンションガイドライン

付録E—公開済み資料一覧（カテゴリーと翻訳済みを示す）



ナルコティクス アノニマスの全ての活動は 我々の第一の目的に基づいている。

この共通意識で我々のグループは結ばれている。

私たちの展望：いつの日か

- 世界中のアディクトが、それぞれの母国語と文化に適応した形でこのメッセージを受け取ることができ、新しい生き方が見出せるように
- 回復を手にしたメンバーが、サービスを通じてスピリチュアルに成長し、充実感を得られるように
- 世界中のNAサービス機構が常に協力し合い、一体性を重んじて、グループのメッセージ活動をサポートするように
- 世界中でナルコティクス・アノニマスの活動と回復プログラムが認められ、人の役に立つように

正直、信頼、善意がNAサービスの基盤であるが

それは全て愛なるハイヤーパワーの啓示に信頼を置くものである。



私たち全体の福利

ワールドボードよりご挨拶

再びワールド・サービス・カンファレンスを共に創り上げる準備を進める中で、サービスのために集う喜びと期待は、私たちの前にある責任ある取り組みの重みと釣り合っています。

今年のテーマは「私たち全体の福利」です。これはテーマであると同時に、常に私たちの責務でもあります。

おそらくこれまで以上に、私たちは共同の責任感をもって未来を見据えています。――20年後、30年後、40年後にもNAがここにあり続けること、成長し続けること、そしてアディクトが私たちを見つけ、かつて私たち自身がそうであったようにメンバーとしての居場所を見いだせることを確かなものにするために。

『なぜ、どのように効果があるのか』は、次のように示しています。

「全体の福利を第一にすることとは、私たちが皆、NAの福利に対して対等に責任を負っていることだと言える。……仲間たちの支えがなければメンバーが生き残れないように、メンバーがいなければ、NAは生き残ることができない」

私たちがサービスのために集うとき、共有された目的意識とNAサービスのビジョンが、ワクワク感と切迫感を生み出します。やるべきことは山ほどあり、そして今この瞬間にも、多くのアディクトが切実に私たちのメッセージを必要としています。

日ごとに分断が深まっているように見える世界を背景にすると、その切迫感が容易にパニックへと加速してしまうこともあり得ます。

幸いなことに、私たちは心を安定させてくれる霊的原理に導かれています。

『ガイディング・プリンシパル』は、次のように私たちを安心させてくれます。

「岩だらけの海岸に立つ灯台が危険から私たちを導いてくれるように、NAの12の伝統は、私たちが原理、目的、そして進む道に沿って航行できるよう助けてくれる。」

だからこそ、私たちは一度深呼吸をし、なぜここにいるのかを思い出します。

私たちが主要な目的を果たす力は、私たち全体の福利にかかっており、

そして私たち全体の福利は、私たちの一体性にかかっているのです。

ワールド・サービス・カンファレンスの最も重要な役割の一つは、世界中から私たちが集い、一体性を体験し、さらに広げていくことなのかもしれません。

『It Works』は次のように伝えています。

「私たちは、同じ、ほとんど致命的であった大災厄を生き延びた者同士としての認識をもって、互いに挨拶を交わす。」

その最初のハグから、私たちは認識、信頼、共感を感じ取り、それが私たちを結びつけていきます。その厳しくも喜びに満ちた絆は、カンファレンスとして過ごしてきたこの数年間――シャットダウンから長い再建の道のりに至るまで――の経験をも映し出しています。

いま私たちに求められている仕事は、生き延びることが終わりではなく、始まりとなるような環境を築くことです。

私たち全体の福利は、何があっても共に働く力にかかっています。――どんなアディクトであっても、新しい生き方を見いだせる環境を創り出すために。

今年のカンファレンスでは、生き延びるための道具をいったん脇に置き、霊の創造的な行動へと踏み

出すことが私たちに求められています。

信念をもって一歩踏み出すとき、私たちは、ナルコティクス アノニマスは私たちすべてを支えられるほど強いということを学びます。

私たちは共に、持続可能で、滋養に満ち、成長し続けるナルコティクス アノニマスをどのように築いていくのかを考えます。——変化し続けるこの世界に耐えうるしなやかさを持ち、同時に時を超えた原理をしっかりと尊ぶフェローシップとして。

私たちは本当に、恨みや怒り、恐れを手放したいのでしょうか。多くの仲間は、恐れや疑い、自己嫌悪、あるいは憎しみにしがみついています。そこには、慣れ親しんだ痛みの中にある、歪んだ安心感があるからです。未知のもののためにそれらを手放すよりも、知っているものを抱え続けるほうが安全に思えるのです。

『ベーシック・テキスト』
第4章「どのように効果があるのか」

変化はわたしたちの信じる心を試す

「NAのプログラムならうまくいくし、いまもうまくいっている。その証拠に、NAはこうして存続しているではないか。だからこのプログラムは、どうやればいいのかと不安になったり杓子定規に考えたりするよりも、うまくいくということをもっと信じるべきだ。正しく取り組んでいけば、個人としてもグループとしても、いま知っていること以上に成長するだろう。わたしたちのサービスが本当に愛なるハイヤーパワーによって導かれていると信じていけば、手放して、プロセスの成るがままに任せることができる。解決に向かってみんなで協力すれば、成功がもたらされる。」

『リビング クリーン — クリーンで生きる旅は続く』

第7章：旅は続く

世界は変化しています。NAの原理、私たちのメッセージ、そして唯一の約束は変わりません。私たちの伝統は、ミーティングの扉の外で何が起きていようとも、安定した霊的基盤を確かなものにしてくれます。導きとなる原理そのものは変わりませんが、それをどのように実践するかは変化します。時に、私たちは長年のメンバーを冗談交じりに「恐竜」と呼ぶことがあります。もちろん恐竜は絶滅しています。私たちは、続けていくためには成長し続けなければならないことを知っています。私たちは、安易さや硬直という「タールピット（変化を恐れる安全地帯）」にはまり込むことなく、長く在り続ける方法を見いだしたいのです。進化とは、現在の状況に適応することです。ベーシック・テキストは「私たちは、何が現実であるのかを、よりはっきりと見えるようになる」と語り、そして私たちはそれに応じて行動します。

多くの地域でNAの成長が横ばい、あるいは減少していることを報告しなければならないのは、私たちにとって心の痛むことです。もはやそれを地域限定の問題だと装うことはできません。私たちが行っ

ていることが機能していないという居心地の悪い現実と直面するとき、私たちは変化を受け入れる意欲を持つようになります。これは私たち一人ひとりの回復の中でも経験することであり、フェロシップとしての歩みにおいても同様に、変化こそが前進する唯一の道となる分岐点に立たされることがあります。

ステップ6で語られる「完全にその準備ができる」までの道のりを説明する中で、ベーシック・テキストは、回復の進展を妨げうる変化や未知への恐れについて述べています。その恐れ——変化への恐れ、手放すことへの恐れ——は、私たちのサービスの取り組みにも現れることがあります。このCARは、私たち一人ひとりに、いくつかのものを手放すこと、意見が分かれやすいテーマについて話し合う意欲を持つこと、自分の見解に正直であること、そして同時に、今日ミーティングの扉をくぐってくる新しい仲間をどのように最善に助けられるのかについて、心を開いて考えることを求めています。その新しい仲間は、私たちが新人だった頃とは異なるニーズや懸念を抱えているかもしれません。時に私たちは、「自分が必要としなかったのだから、あなたも必要としないはずだ」という姿勢で新しいメンバーに接してしまうことがあります。このCARに含まれるディスカッション・クエスションは、私たちが知っている範囲を超えて歩み出し、互いに心を開いて耳を傾けることを促しています。

グループの良心について私たちが知っていることの一つは、それが個人一人ひとりよりも賢いということです。このカンファレンス・アジェンダ・レポートは、私たちの多くが慣れ親しんできたものとは異なります。あらかじめ用意された「賛成か反対か」という答えにたどり着くためではなく、まだ見つかっていない答えを見いだすために、私たち自身の経験や知恵、そして探求的で恐れのない姿勢を活かして、いくつもの問いについて話し合うことを求めているのです。

協働には対話が必要

効率よくサービスする方法については、誰もがいろいろな意見を持っている。したがって、行動指針を検討するとき、みんなの意見からどれを選べばいいのだろうか。最終決定を下すのはだれなのだろうか。それに対する答えとは、一体性をもたらす愛なる神に最終決定権があるということだ。この愛なる神とは、私たちが回復へと導いてくれたあのハイヤーパワーのことだ。

『なぜ、どのように効果があるのか』 伝統2

効果的な計画、そして話し合いを基盤とする会議は、互いの声に耳を傾け、合意を築いていくための時間と場があつてこそ成り立ちます。

WSC 2026で行われる多くの議論は、CARに掲載されている質問に対する皆さんの回答をもとに進められます。私たちは、関心のあるすべてのメンバーやグループからの回答を4月1日まで受け付けており、それらの意見をカンファレンス参加者に提供します。これにより、NA文献におけるジェンダー中立的かつ包摂的な言葉づかい、そしてDRT/MATとNA——メンバーが根を下ろしていくことを支えるための取り組み——についての議論を、より深めていきます。

CARサーベイへの回答や、皆さんがデリゲートに提出するその他の意見は、デリゲートが2026–2029年NAWS戦略計画を立ち上げ、次のサイクルに向けた計画づくりを始めるための助けとなります。WSC 2026では、2029–2032年計画において私たちが最も取り組む必要のある要素を特定するためのセッションも行われます。これは、今回のCARに掲載されている計画を生み出したプロセスを開始するために、2023年に行ったのと同じ取り組みです。

おそらく、私たちがどのように前進していくかを最もよく示しているのは、文献作成のプロセスでしょう。私たちはまず幅広いサーベイから始め、その後、より焦点を絞った質問を投げかけて意見を集めます。この初期段階、いわば「フロントエンド」で寄せられる意見は、しばしばプロジェクトの

このCARの後半にある『計画』のセクションでも述べているように：

ここで注記しておく必要があるのは、3年ごとのカンファレンス・サイクルは、2サイクルの試行（2023年～2029年）として承認されているという点です。2029年のワールド・サービス・カンファレンスでは、3年サイクルを継続的に採用するかどうかははかられます。2029年以降カンファレンス・サイクルの期間が不確定であることを踏まえ、ワールドボードは次期戦略計画を「2029～2032年計画」と表記するか、あるいは「2029～203X年計画」と表記するかについて検討しました。私たちは前者のアプローチ（2029～2032年）を採用することに決定しました。私たちは3年を前提として計画を立てますが、3年サイクルが承認されなければ、白紙に戻ってやり直さなければなりません。協働的な計画策定プロセスは、3年サイクルを前提条件としています。これほど大規模で、国際的かつ多言語にわたる組織においては、3年間でなければ、計画の各要素についてこれほど多くの対話、修正、検討——すなわち、このような往復のやり取り——を行うための時間を確保することはできません。

形や考え方そのものを変えます。いったん草案ができあがれば調整は可能ですが、プロジェクト全体を一から再構想することはより難しくなります。協働による創造的な行動が成果に最も直接的な影響を与えるのはプロジェクトの初期段階です。終盤の作業も重要な微調整をもたらしますが、方向づけがなされるのは、まさにその始まりのやり取りの中なのです。だからこそ私たちは、先を見据えるにあたり、自分たちの考えがまだ広く、少し曖昧な段階での意見こそが重要であると理解しています。こここそが、修正的になるよりも、想像力豊かであることが最も効果的に発揮できる場なのです。私たちは長年にわたり、「討議を中心としたカンファレンス」へと進化してきましたが、しばしば目前にある動議の数が多すぎて、最善の意図さえも圧倒されてしまっていました。CARを動議ではなく討議に焦点を当てることができた前回は2006年でした。その年に多くの学びはありましたが、当時は、カンファレンス・サイクル全体を通じて継続的な対話を生み出し、維持するための、現在私たちが持っているようなツールはまだ備わっていませんでした。

現在のプロセスは、より参加型で、焦点が絞られ、理解しやすくなっています。

前回のカンファレンスにおいて、参加者は3年サイクルを2回試行し、2029年に評価することに合意しました。この長いサイクルは、各プロジェクトにより余裕を与えるだけでなく、途中にバーチャルの中間カンファレンスや定期的なカンファレンス参加者ミーティングを設けることで、これまでで最も協働的で双方向的、かつ意欲的な計画プロセスを始動させることを可能にしました。

危機の時代に私たちをつなぎ続けてくれたのと同じテクノロジーが、今ではカンファレンス・サイクル全体を通して協働する機会を与えてくれています。つまり、ワールド・サービス・カンファレンスは一つの「イベント」であると同時に、サイクル全体を通して集い、創造し、意思決定を行う、継続的で参加型のサービス機関でもあるのです。

この取り組みはまだ初期段階ですが、すでに包括的で、透明性があり、そして—あえて言えば—機動力のあるプロセスが見え始めています。私たちはカンファレンスとして、私たち全体の福利のステュワード（託され、それを守り育てるもの）としてよりよく機能できる未来を共に計画しています。そのために、私たちは一体性の中で、リアルタイムに、共に考え、共に行動しているのです。

内容を詳しく見る

このカンファレンス・アジェンダ・レポートには5件のモーションが含まれています。そのうち3件はワールド・ボードから提出されたもので、2件はリージョンから提出されたものです。これらは内容においてだけでなく、想定される議論の性質においても、互いに大きく異なっています。（デリゲートの皆さん：これらのモーションに関する最初のストロー・ポールは4月18日頃に実施される予定です。それまでに、ご自身のリージョンまたはゾーンの良心について把握しておくよう計画してください。）

ワールド・ボードは、「IP#21『孤立の中でクリーンを保つ（Staying Clean in Isolation）』の改訂版」を、カンファレンスによる承認のために提出しています。全文は付録Aに掲載されています。また、ワールド・コンベンションの将来に関する動議があります。さらに、このサイクルにおいて多くの議論の対象となってきた戦略計画も含まれています。これらすべてについては、本レポートの後半で詳しく述べられています。加えて、受刑者向けにタブレットで利用可能な文献に関するアリゾナリージョンからの動議と、カンファレンスおよびカンファレンス参加者のウェブ・ミーティングにおいて、人間の通訳に代えてAIを使用することを求めるサウス・フロリダからの動議があります。CARでは、これらについても論じています。

さらに、CARサーベイには、フェローシップ全体から提出された文献プロジェクト、サービス・プロジェクト、ならびにイシュー・ディスカッション・トピック（Issue Discussion Topics）に関するアイデアが含まれています。カンファレンス参加者は、ワールド・ボードと協働して、これらのアイデアの取りまとめ、分類、優先順位付けを行いました。この方法は、これまで私たちが試みてきたものの中でも最も協働的なものであり、次回さらに良く行うための多くの学びを得ることができました。詳細は後述しますが、オンライン版のサーベイはランダム化されているため、選択肢の表示順はアクセスするたびに変わる点にご留意ください。今回は、優先順位を把握しやすくするため、選択肢に番号を付けています。

今サイクルに実施されてきたイシュー・ディスカッションを踏まえ、さらに発展させた形で、地域コミュニティで話し合っていたための質問付きトピックが2つあります。これらは動議ではなく、「はい／いいえ」で答える質問でもありません。私たちは、今後どのように前進していくかを共に考えるにあたり、経験、強さ、希望、そして開かれた心での対話を求めています。関心のあるメンバーであれば誰でも、4月1日までに、na.org/surveysに掲載される質問に回答することができます。繰り返しになりますが、カンファレンス参加者がカンファレンス本体でさらに議論を深められるよう、結果を集約・配布するため、リージョンおよびゾーンでのディスカッションも4月までに完了するようお願いいたします。今サイクルにおけるIDTへの意見から、これらの重要な課題について私たちがコンセンサスに至っていないことが非常に明確になりました。CARで問いを投げかけているのは、ローカル・コミュニティからの声を聞くためであり、皆さんの回答が、集まったときに対話を前進させる助けとなることを願っています。もしあなたがカンファレンス参加者であれば、このCARの「デリゲート準備（Delegate Preparation）」のセクションに特に注意を払ってください。本レポートには、今日からカンファレンス週を通して必要となる重要な情報が数多く含まれています。

今後の展望：カンファレンス承認トラックおよびその他の資料

CARは、カンファレンスに先立って発行される3つの出版物のうちの1つであり、CAT（Conference Approval Track [カンファレンス承認トラック] 資料）およびカンファレンス・レポートが順に続き

ます。CATは2月3日に公開される予定で、提案されている3年予算、プロジェクト計画、ならびにWSCのプロセスに関して決定が必要な事項が含まれます。ワールドボードは、WSCコファシリテーターを代表して、カンファレンスにおいていくつかの動議を提出します。

CATには、CARサーベイおよび私たちが共に行ってきたディスカッションに導かれ、カンファレンスで焦点が決定される回復文献、サービス資料、イシュー・ディスカッション・トピックに関するプロジェクト計画が含まれます。さらに、パブリック・リレーションズ・プロジェクト、3年カンファレンス・サイクルの計画、ジェンダー・ニュートラルかつインクルーシブな言語に関する計画などを含む、その他の計画も想定していますが、これらに限定されるものではありません。これらは現在も開発途上であるため、CATはCARよりもかなり後に発行されますが、ローカル・サービス・ガイドおよびグループ・ブックレットに影響を与える計画も含まれる可能性があると思込んでいます。3年予算には、そのサイクルにおけるカンファレンスおよびオフィス運営の詳細が含まれますが、提案されているWCNAの予算は含まれません。次回ワールド・コンベンションの開催候補地をまだ最終決定していないため、現時点では正確な数値を提示することができません。この状況は遺憾ですが、決定がなされ予算案が作成され次第、フェローシップおよびカンファレンス参加者に継続して情報を提供していきます。

最後に、カンファレンス・レポートはカンファレンス本体の数週間前に作成され、1週間のスケジュール、IDTおよびステップ資料サーベイからのインプットのレビュー、ならびに主としてカンファレンス運営に関するその他の情報が含まれます。

すべてのカンファレンス出版物および関連資料は、このウェブページに掲載されています：na.org/conference。この導入文に続くエッセイは、カンファレンス参加者——デリゲートおよびオルタネート——がWSCに向けて準備することを目的としています。

WSC 2026 に向けたデリゲート準備

このCARのセクションは、カンファレンス参加者一リジョンおよびゾーンのデリゲートとオルタネートにとって最も関連性が高い部分かもしれません。以下のページでは、各カンファレンスで行われる事柄のいくつかと、WSC 2026に対する私たちの期待について確認します。また、いくつかの重要な締切についても列挙します。

「あなたの献身とビジョンに感謝します。私たちは、あなたが十分に訓練され、私たちの明確なミッションを理解しており、次世代が、私たちの未来を形づくことに焦点を当てたWSCの成果を受け取ることになると確信しています。」

2008年に、将来のデリゲートに宛ててカンファレンス参加者によって書かれた「*Dear Delegate*」レターより

WSC 2026は、3年ぶりに対面で開催される初めてのカンファレンスであり、WSC 2023で開始された3年カンファレンス・サイクル採用の試みの中間点に当たります。私たちは、2018年にデリゲート1名とオルタネート2名がバーチャル参加したことから始まり、2023年にはデリゲート14名、オルタネート25名へと拡大した、真にハイブリッドなWSC開催の経験を、今後も積み重ねていきたいと考えています。私たちは、対面で参加できないすべてのデリゲートにとって、WSCの体験をより良いものにする方法を引き続き模索しています。

このWSCにどのような形で参加しているかにかかわらず、会議に持ってくるべき最も重要なものが、忍耐、善意、そして私たちがここでやるべきこと——「いまだ苦しんでいるアディクトに回復のメッセージを、より効果的に届けること」——への明確な集中であるという事実は変わりません。デリゲートおよびオルタネートは、サイクル全体を通じて膨大な量の作業を担っていますが、これはWSC 2023以降の期間において、これまでのどのサイクルよりも当てはまることだったかもしれません。というのも、世界中のデリゲートが、初めて協働的な戦略計画策定プロセスに参加したからです。2026年のWSCでは、2026～2029年NAWS戦略計画を採択するとともに、2029年WSC以降の私たちの取り組みを形づくる計画につながるプロセスを開始することで、このプロセスの集大成を迎えることになります。共に読むべき資料、咀嚼し、会議で話し合うべき内容は非常に多岐にわたりました。このプロセスにおける皆さんの粘り強さ、献身、そして信頼に、心から感謝の意を表します。以下に、注意を払い、対応する必要があるいくつかの事項を挙げます。

WSC 2026 カンファレンス登録および宿泊申込フォーム

このフォームでは、カンファレンスへの登録方法、ホテル予約の手続き、ならびに資金援助の申請方法について説明しています。フォームはWSCのウェブページ（na.org/conference）に掲載されています。ビザの状況や対面・バーチャルでの参加予定にかかわらず、できるだけ早く登録フォームにご記入ください。後で変更が必要になった場合は、サポートいたします。すべてのデリゲートおよびオルタネートは、2026年3月4日までにフォームを完了する必要があります。

WSC フライト情報

資金援助対象のWSC参加者のフライトは、2026年3月までに予約する必要があります。詳細はWSC 2026トラベル・メモに記載されており、すべてのカンファレンス参加者に送付され、CAR公開直後にWSCウェブページにも掲載されます。トラベル・メモの内容を注意深く確認し、可能な限り早くフライトを予約して、最も安い料金を確保してください。

リージョナル・レポートおよびゾーン・スナップショット

リージョンおよびゾーン・レポートの締切は、2026年2月28日です。これらのレポートから得られる情報は、カンファレンス・セッションの計画に役立てられます。また、将来の歴史的記録としても機能し、リージョンおよびゾーンの地図の更新に役立ち、私たちが把握している世界中のNAサービス活動の最も正確な姿を描き出す手助けとなります。締切までに提出されたリージョン・レポートは要約され、カンファレンス・レポートとともにWSCウェブページに全文掲載されます。過去のカンファレンスでは、ほぼすべてのシーティッド・リージョンが締切までにレポートを提出してきました。この傾向を維持するため、ご協力をお願いします。

また、シーティングされていないリージョンにもレポートの提出を強く推奨します。ゾーン内のシーティングされていないリージョンに連絡を取り、参加を促してください。

すべてのリージョンには、オンラインフォームを使ってレポートを提出するよう再度お願いしています。使用するソフトウェアでは、フォームを一部記入して後で完成させることが可能です。このオプションを選択した場合、未完成フォームへのリンクが記載されたメールが届きます。完成したフォームを提出すると、コピーがメールで送信されます。

また、各サイクルで全ゾーンから情報を収集しますが、こちらは別の手順で行います。各ゾーンに個別に連絡し、最新情報や新しい情報の提供を依頼し、それが「ゾーン・スナップショット」として公開されます。（2025年版は na.org/zones で確認できます。）

このように多くの情報を収集することは大変であることを認識しています。リージョンやゾーンの他の信頼できるサーバントの助けを借り、できるだけ早く情報の収集を開始することをお勧めします。皆さんが提供する情報は、WSCに対して私たちがサービスするフェロシップの全体像を示す手助けとなります。ご協力に感謝します。

CAR サーベイ

CARサーベイは、このCARに解説エッセイとともに含まれており、またサーベイページ (na.org/survey) に掲載されているため、どのメンバーでも記入できます。さらに、デリゲートには、自身のリージョンやゾーンの良心を反映させるためにサーベイへの記入をお願いしています。私たちは、メンバーからのサーベイ結果とリージョン／ゾーンからの結果の両方を集計します。両者の結果は並列して報告され、カンファレンス参加者が回復文献、サービス資料、イシュー・ディスカッション・トピックの優先順位を選定する際に使用できるようにしています。CARサーベイの結果は、常にWSC議事録の付録にも含まれます。メンバーおよびリージョン／ゾーンからの回答の締切は、2026年4月1日です。

その他のサーベイ：CARサーベイに加えて、カンファレンス参加者には、ローカル・ワークショップで以下の2つの特定のトピックについて議論に参加するようお願いしています——「NAに関連するDRT/MAT」と「NA文献におけるジェンダー・ニュートラルかつインクルーシブな言語」です。議論の指針となる質問を各トピックごとに本レポートの後半セクションに用意しています。2026年4月1日までに、na.org/surveys でフィードバックをお寄せください。CARサーベイと同様に、これらの質問への入力フォームは、どのメンバーでも意見を共有できるようになっています。集められた結果は、WSC 2026でこれらの問題についての議論を導くためにまとめられます。

WSC トピックのサーベイ

私たちは、WSC 2026で皆さんが何を議論したいかを把握するために、すべての参加者を対象にサーベイを実施します。これにより、カンファレンス参加者のニーズに即した、関連性の高いアジェンダを作成することが可能になります。サーベイが公開された際には、メールでお知らせします。

カンファレンスで何が行われるのか？

カンファレンスは、1つの計画サイクルの終了と次のサイクルの開始を示す場です。そのため、参加者の役割の一部は、前回のWSC以降に行われてきた作業を承認し、今後の作業の枠組みを整えることにあります。週の初めは、参加者の歓迎とCARに関連する議論・決定に費やされます。週を通じて、プレゼンテーション、小グループでの議論、意思決定セッションが行われます。週の終盤には、次期サイクルの予算およびプロジェクト計画に関する決定がなされ、新しいアイデアについての議論も行われます。

カンファレンス週の具体的な計画はまだ最終決定されていませんが、議題の一部を構成する可能性が高い項目は次の通りです。

- 参加者紹介と新たにシーティングされたリージョンからの報告の時間を含む歓迎セッション（WSCオリエンテーションはWSC前にオンラインで実施されます）

- 2029～2032年NAWS戦略計画の課題を整理し、2026～2029年計画策定に使用されたプロセスを評価するためのセッション
- ワールドサービスおよびヒューマン・リソース・パネルからの報告
- 次期サイクルの提案予算およびプロジェクト計画の提示、CARサーベイで特定された優先事項の議論を含む
- CARおよびCATに関連する議論と決定
- CARの質問への回答を踏まえたDRT/MATおよびジェンダー・ニュートラル文献に関する議論
- 「私たちのビジョンへの投資（Invest in Our Vision）」：NAWSの持続可能性に焦点を当てた議論
- デリゲートがサーベイを通じて優先付けしたトピックについて、時間の許す限り議論
- ゾーンが希望する場合のミーティングの時間とスペース
- ゾーンは短いビデオを提出するオプションがあり、カンファレンス週を通して上映可能
- ワールドボード、ヒューマン・リソース・パネル、WSCコファシリテーターの選挙
- WSCで提出された優先度の高い新しいアイデアに関する議論
- 今後の作業のレビューと必要な決定を行う総括セッション

私たちはまだ計画プロセスの初期段階にあり、このリストは完全ではありません。WSC直前に公開されるカンファレンス・レポートでは、カンファレンス週の詳細が示されます。

WSCのほとんどのセッションは90分間です。休憩は必要に応じて30分となります。これは、300名以上のメンバーが身体的な必要を満たしたり、コーヒーを取ったり、忘れ物を取りに自室へ行ったりするのに要する時間です。昼食も同様の理由で90分間です。WSCが真にハイブリッドとなって以来、各日には90分のセッションが4回組まれており、カンファレンス週には合計で27～28セッションの時間があります。

準備を整える

ワールド・サービス・カンファレンスの準備は非常に大きな仕事です。デリゲートおよびオルタネートは、CAR、CAT、アニュアル・レポート、カンファレンス・レポートを読むだけでなく、問題点を他者に説明し、自身のリージョンやゾーンの良心を集める能力も求められます。私たちは可能な限り多くの支援ツールを提供しており、ワークショップで役立つCAR資料の要約PowerPointやビデオも含まれます。これらはCAR公開後、できるだけ早くカンファレンスページ（na.org/conference）に掲載されます。

また、ワールドボードがファシリテートするよう依頼されたCARおよびCATワークショップの詳細も、カンファレンスページに掲載しています。

デリゲートに明確にしておきたい点が2つあります。まず1つ目は、WSC会議の前に、すべてのCARおよびCAT動議について初回ストロー・ポールが行われるということです。このストロー・ポールは、4月18日にオンラインで行われるWSCオリエンテーションの後に実施され、カンファレンス参加者には72時間の回答期間が与えられます。初回ストロー・ポールは、いずれの項目にコンセンサスがあるかを確認するため、これまで以上に重要です。CARワークショップを計画する際には、この点を考慮してください。リージョンやゾーンの良心を収集する場合は、4月18日までに完了するよう計画しましょう。CARはこれまでで最も早く公開されるため、リージョンやゾーンからの良心を集める時間は、これまでになく確保されています。

2つ目は、2016年以降、デリゲートはCAT資料およびカンファレンス・レポートに含めたいアイデアを提出するオプションを持っている、というリマインダーです。この仕組みは意思決定の代替手段ではなく、アイデアを可視化し、議論を生み出し、他の参加者に刺激を与える機会として提供されます。このオプションの締切もここに含まれています。

対面およびオンラインのカンファレンス参加者向けにオリエンテーション・ウェブミーティングを実施し、参加できない方のために録画を提供します。NAにおいては、経験豊富なメンバーに相談することが非常に役立ちます。もし経験豊富なデリゲートやオルタネートとペアを組んでいる場合、「カンファレンスシーズン」を通してメンタリングを受けることができます。ゾーン会議に参加する場合は、他のデリゲートの経験を聞き、質問できるように連絡先やメールアドレスを控えておきましょう。WSC参加者用ディスコース（Participant Discourse）掲示板も、質問や議論のためにすべてのCPが利用できます。そして忘れないでください：いつでもワールドボード（worldboard@na.org）にメールで問い合わせることができます。

繰り返しになりますが、読むべき内容や吸収すべき情報は多いことを承知しています。何かお手伝いできることがあれば、遠慮なくご連絡ください。皆さんのサービスに感謝します。

ひとときを楽しみ、愛を感じてください。
自分自身を大切にしてください。必要であれば、助けを求めることを忘れないでください。

2008年に、将来のデリゲートに宛ててカンファレンス参加者によって書かれた
「Dear Delegate」レターより。

重要な締切：すべて na.org/dates に掲載されています

- できるだけ早く：WSCへの登録
- 2026年1月3日：CATに含めるリージョンまたはゾーン資料の提出締切
- 2026年2月3日：CAT資料公開
- 2026年2月28日：リージョン・レポートおよびカンファレンス参加者からのカンファレンス・レポート用資料の提出締切
- 2026年3月3日：CARおよびCAT動議、シーティング動議の修正提出締切
- 2026年3月4日：カンファレンス登録、ホテル手配、資金援助申請の締切（締切ぎりぎりまで待たず、できるだけ早く登録してください）
- 2026年3月：資金援助対象参加者のフライト手配完了
- 2026年4月1日：CARサーベイ回答およびメンバー／リージョン・ゾーンからの議論用質問の提出締切
- 2026年4月18日：WSCプロセスに焦点を当てたWSCオリエンテーション
- 2026年4月18日以降：初回ストロー・ポール（ePoll）実施、CPは72時間以内に回答
- 2026年4月（日時未定）：オンライン参加者向けWSCオリエンテーション
- 2026年4月、WSC直前：カンファレンス・レポート公開
- 2026年5月3日～9日：第37回ワールド・サービス・カンファレンス

- **WSC開催中：新しいアイデア提案（WSCで議論するために参加者が優先順位を付けたアイデア）をWSC本体で提出。**カンファレンス・レポートには、カンファレンス週中のすべての締切が記載されます。

文献の価格設定

私たちは、サービス活動のほぼすべてのレベルでお金の話題を取り上げると、多くの場合ネガティブな反応を受けることを知っています。しかし、IP第24号および第28号が明確に示しているように、これは必要な議論です。フェローシップとして前進し続けるためには、お金が必要です。すべてのミーティング施設の家賃を支払うためにお金が必要であり、アディクトが常に訪れる場所を確保する必要があります。電話相談ラインやウェブサイトの運営費を賄うためにもお金が必要であり、潜在的なメンバーや専門家が私たちを見つけられるようにします。私たちは文献を購入し、しばしば配布もします。これは、新しく参加したメンバーが、病気と孤独に直面する間に何かを手にとることができるようにするためです。私たちはすべての資源を活用して、私たちのビジョンを実現し、まだ私たちを見つけられていないアディクトに回復のメッセージを届ける努力をしています。ある人は、資金の使い道のうち、どれがより精神的であるかを考えるかもしれませんが、多くの場合、メッセージを伝えるために必要なすべての費用は精神的であり、継続的なサービス活動のために不可欠です。例えば、受刑者とともにステップ作業を行うメンバーの関与を促す取り組み、受刑者用タブレット向けの文献、トラステッドサーバントのサービス出張費の補助、メッセージの翻訳などは、資源の使い方としては異なるように見えたり、同じ資金を争っているように見えたりすることもあります。いずれも、「まだ苦しんでいるアディクトに回復のメッセージをより効果的に届ける」という本質的な責任と意欲に基づくものです。

2023年、コストが上昇していたにもかかわらず、NAワールドサービスは、グローバルな閉鎖からの回復期間をグループに十分与えるため、IP、ブックレット、キータグ、チップの価格を引き上げないことを選択しました。その際、必要に応じて価格を調整するのに3年以上は待たないと明言しました。今後のサイクルおよびそれ以降におけるコストの継続的な上昇により、すべての製品カテゴリーにおける推定年間純収入の減少は約671,000ドルに達すると見込まれます。これが、2026年1月1日から文献価格を一律15%引き上げる決定に至った主な理由です。この推定される純収入の減少は文献販売にのみ関するものです。今回の価格改定は、印刷、製造、倉庫管理、物流、一般運営費など、すべての運営コストの累積的な影響を反映しています。WCNA 38は独自の赤字に直面しましたが、その経験は価格引き上げの決定に影響を与えた評価には含まれていません。幸いなことに、私たちは現金準備金を積み立てており、WCNAの赤字はその準備金から補填されました。私たちは常に経験から学ぶよう注意しており、ワールド・コンベンションの将来に関する情報も、本CARの後半により詳細に含めています。

ワールドサービスは、受刑中のメンバーや、支援が必要な他のメンバーやコミュニティに対して、無償および補助付きの文献を提供しています。2024会計年度にはその総額が75万ドルを超え（\$769,958）、過去5年間の平均は年間\$635,639となっています。

また、過去10年間の年間平均は\$607,864でした。直近の会計年度では、75万ドルを超える無償および補助付き文献を提供しており、年間70万ドルを大きく超える3年連続の傾向が生まれています。これらの数字には、文献の価格補助や値下げ（多くは無償）の費用、ならびに世界中のフェローシップに提供される文献の発送費用、関税、税金などの直接経費が含まれています。この数値は毎年、私たちの成長するフェローシップにおける発展支援への大きなコミットメント、そして大きなニーズを示して

います。NAワールドサービスが毎年発行するNAWS, Inc. アニュアル・レポートでは、この重要なサービスが取り上げられています。過去の発行物は na.org/ar で確認できます。

私たちは引き続き、すべてのIPおよびブックレットを60言語以上で無料で na.org/literature に掲載しています。ベーシックテキストの音声版も12言語で na.org/audio にて提供しており、An Introductory Guide to NA の音声版の公開も進めています。これらのリソースは、受刑者用タブレットでも無料で提供されており、対象は100万人以上の受刑中のアディクトに及び、今後も増加しています。翻訳、音声教材、身体に制約のあるメンバー向けのリソースの必要性は増え続けており、継続的かつ増加する投資が求められています。資料とメッセージを無料で提供したいという願望と、NAワールドサービスの持続可能性とのバランスを取ることは、ますます大きな課題となっています。

私たちは、これらすべてのサービスの主な資金源として文献販売に依存しており、その大部分の負担は米国のフェローシップが担い、ある程度はヨーロッパやカナダも担っています。さらに、長年のメンバーはすでに物理的な書籍、場合によっては電子版 (elit) も所有していることが多く、文献を購入する必要があるのは、新しく参加した人です。簡単に言えば、ニューカマーは文献販売において不可欠であり、多くの場合、治療施設やNAミーティングが彼らにベーシックテキストを提供します。新しく参加した人のために書籍が購入されることは、世界中のミーティングで日常的に行われています。しかし、以前も述べたように、米国におけるフェローシップの成長はせいぜい停滞しており、近年は減少傾向にあります。これは数字にも反映されています。その結果、文献販売は増えておらず、横ばい状態にとどまっています。過去20年間（2004年～2024年）で、文献販売の大部分を占めるベーシックテキストからの収入は\$33,444（約1.13%）増加したにすぎません。同期間の総費用は\$1,261,703

（15%）増加しています。IPおよびブックレットからの収入は、この20年間で17.83%減少しており、おそらく無料で提供されるデジタルコンテンツが影響しています。一般的な事業計画においては、これによりフェローシップへの提供サービスが減少するか、赤字を補填するために価格を引き上げることになります。例えば、収入回復のために無料提供を停止するといった対応です。

他の要因も影響しています。ヴァーチャルNAの普及により、多くのグループで物理的なIP、ブックレット、キータグ、チップの配布が減少しています。ヴァーチャルグループやサービス機関は通常、文献の在庫を持っていません。受刑者用タブレットでのデジタルアクセスは、ワールドサービスから提供されるものであり、本来なら矯正施設やH&I委員会、その他の取り組みが購入することで得られる可能性のある収入を減らしています。IPやブックレット、文献の音声版、その他先述のデジタル手段を無料で提供することは、NAWSの年間収入を減少させます。電子文献はメッセージの潜在的な配布範囲を大きく広がりますが、全体の利幅は低下します。

elit販売は全体的に減少傾向にありますが、2023～2024会計年度にはわずかな回復が見られました。ただし、elitの販売数は物理的な書籍の販売数のごく一部にすぎません。また、これらの書籍の価格は物理的書籍の価格に対する割合で設定されており、販売ポータルによる制約のため、より高く設定することはできません。電子書籍は制作コストが低いと考えられがちですが、実際には製造原価は高く、収益の大部分は配信する商業ポータルに支払われます。

NA Meeting Counts

	2008	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2023	Average Growth	Current percentage of Fellowship
Western Europe	2,557	2,664	2,820	3,038	3,282	3,591	3,918	4,487		
		4%	6%	8%	8%	9%	9%	15%	8%	6%
Iran	11,256	16,793	18,195	18,200	20,598	21,974	26,075	23,734		
		49%	8%	0%	13%	7%	19%	-9%	12%	33%
Middle-East	399	435	448	411	510	606	672	843		
		9%	3%	-8%	24%	19%	11%	25%	12%	1%
Africa	228	240	249	335	384	405	499	340		
		5%	4%	35%	15%	5%	23%	-32%	8%	0.5%
USA	25,613	26,881	27,804	27,317	27,375	27,677	27,005	23,511		
		5%	3%	-2%	0%	1%	-2%	-13%	-1%	33%
Canada	1,166	1,243	1,369	1,360	1,263	1,323	1,369	1,346		
		7%	10%	-1%	-7%	5%	3%	-2%	2%	2%
Central America	3,299	3,903	3,312	3,379	3,167	3,097	3,326	3,084		
		18%	-15%	2%	-6%	-2%	7%	-7%	0%	4%
South America	1,272	1,251	1,524	2,250	1,932	2,189	2,857	2,924		
		-2%	22%	48%	-14%	13%	31%	2%	14%	4%
Brazil	1,998	1,995	3,153	3,581	4,427	4,374	4,633	4,795		
		0%	58%	14%	24%	-1%	6%	3%	15%	7%
Eastern Europe	256	308	345	440	564	646	734	865		
		20%	12%	28%	28%	15%	14%	18%	19%	1%
Russia	340	523	909	1,042	1,657	2,072	2,726	3,904		
		54%	74%	15%	59%	25%	32%	43%	43%	5%
Asia Pacific	1,458	1,533	1,639	1,649	1,747	2,061	2,261	2,382		
		5%	7%	1%	6%	18%	10%	5%	7%	3%
Total Meetings	49,842	57,769	61,767	63,002	66,906	70,015	76,075	72,215		
		16%	7%	2%	6%	5%	9%	-5%	6%	

私たちは、資料やメッセージを無料で提供したいという願望と、NAワールドサービスの持続可能性とのバランスを取ることがますます難しくなっています。ウェブやタブレットで無料提供している資料（コミュニティに無償または補助付きで提供される文献とは別）は、年間収入で100万ドル以上の減少をもたらしています。これに加えて、コスト上昇による純営業収入の減少があるため、ここ数年を乗り越えられた唯一の理由は、NAメンバー、グループ、サービス機関からの直接寄付の増加に一部依存していることです。これらの寄付がなければ、今回の価格引き上げや、提供するサービスの削減の決定はすでに行われていたことでしょう。直接寄付は確実に違いを生み出します。

私たちには一冊の本があります！

NAの成長は、初期の段階から一貫して繰り返されるテーマを持っていました。「限られた資源で、いかににより多くのことを成し遂げるか」です。WSO（ワールドサービスオフィス）が前任者の家や車のトランクに保管されていた時代から、店舗の小さな事務所での初期の頃まで、私たちは持てるものでなんとかやりくりし、多くの人が想像できる以上に成長することができました。長年にわたり、すべての活動をどう資金面で支えるかという議論は常に存在してきました。ベーシックテキストが承認される前、ワールドサービスオフィスは常に財政的困難に直面していました。1983年4月にベーシックテキストが出版・リリースされるまで、オフィスの成長や財政健全性は見込めませんでした。本のリリース時に、価格は原価の2倍以上とし、その半分はさらなる書籍の製作に、残りの半分はWSOによるフェローシップ支援サービスの資金に充てるという決定がなされました。当時の価格は8ドルで、過去40年以上の米ドルのインフレ率を考慮すると、現在では26ドル以上に相当します。

1983年4月のベーシックテキスト出版後、次のカンファレンスでは書籍価格を下げる動議や低価格版を製作する動議が提起され始めました。1983年以降、CARおよびWSCにおいて、テキスト価格を下げる、あるいは割引を増やす動議が19件提起されました。カンファレンスは何度もこれらの動議を否決、委任、または手続き不適格として扱いました。いくつかのケースでは、動議に賛同者がなく廃案となったり、CARには記載されても正式な議事には提出されなかった例もあります。1990年代には、スウェーデン地域がベーシックテキストの価格を上げる動議を提出したことも2回ありました。ワールドサービスは1980年代および1990年代にこの問題に関する複数の報告を発行し、過去数十年にわたりさまざまなコミュニケーションで取り上げており、直近では Bulletin #35 (na.org/fipt掲載)でも言及されています。低価格版を求める動きの一部は、1980年代にベーシックテキストに関する決定をめぐって生まれたワールドサービスへの持続的な不信感に起因しています。ベーシックテキストは5版と1回の改訂をわずか5年余りで経ており、その改訂プロセスはしばしば論争を伴いました。これらの決定は最終的にフェローシップによって承認されましたが、NA内にはその正当性を認めない派閥も存在します。フェローシップは繰り返し、NAワールドサービスがNA文献の唯一の出版者および配布者であり、最新の版のみがNAミーティングで使用する承認版であることを確認しています。それにもかかわらず、1980年代初期以降、一部のメンバーは第3版改訂版の最初の10章と、第2版の第4および第9トランザクションのエッセイを組み合わせたベーシックテキストの独自版を出版してきました。低価格版を提供するために、他のメンバーはフェローシップ承認の文献やアーカイブ版を印刷して提供したり、簡易な外部翻訳で低コストまたは無償の版を作成し、発展途上のコミュニティに配布したりしています。これら外部翻訳、特に機械翻訳には潜在的な問題があります。文化的・言語的ニュアンスは、メンバーが協力して作業する際に特に重要であり、NAの文脈では欠かせません。NAワールドサービスは、各コミュニティが独自の翻訳を作成するのを支援し、ほとんどの場合、文献を無償で提供しています。これらの取り組みは単なる言葉の翻訳ではなく、メッセージの中心である精神的原則や回復の概念を伝えるものです。もちろん、低価格のベーシックテキストを求める多くのメンバーは、単にニューカマーや潜在的なメンバーにできるだけ安くベーシックテキストを提供したいだけです。このようなメンバーには、購入可能なメンバーやサービス機関からの文献販売収入が、購入できないメンバー向けの無償・補助付き文献の資金源となっていることを説明します。カンファレンスの決定により、この長年にわたる低価格版要望への一つの解決策として、『An Introductory Guide to NA』が作成されました。

NA文献への手頃な導入として、『An Introductory Guide to NA』は、10種類のIPと12ステップに関するベーシックテキストの章を収録しています。価格は\$2.45（2026年1月1日より）で、オンラインで無料でも入手可能であり、メンバーや潜在的メンバーに文献を広く届けるための有効な手段です。また、英語版およびスペイン語版の音声版を na.org/audio に掲載する作業も進めています。

ベーシックテキスト自体は、現代のほとんどの書籍と比べても安価であり、出版当初の価格に照らしても手頃です。米国労働統計局によると、1983年4月のベーシックテキスト初版の価格\$8.00は、2025年8月時点で\$26.29に相当します。つまり、現在の価格\$15.65はすでに低価格であり、さらにワールドサービス収入の大部分を占めています。2024会計年度には401,464部が販売され、配布された書籍の39%を占めました。1983年の初版以来、ベーシックテキストは13,405,012部販売され、NAが販売したすべての書籍の51%を占め、年間平均326,952部となっています。

NAの著作権保護された資料が許可なく掲載、複製、配布されると、販売数量に大きな影響があります。このような行為は、フェローシップの決定を無視するだけでなく、まだメッセージを必要としている人々に届けるというNAワールドサービスの活動にも課題を生じさせます。

答えは？

スチュワードシップ（管理責任）は難しいものです。私たちトラステッドサーバントは、自分の地域のサービス機関やグループのために最善を尽くすと同時に、そのサービスが隣人やそれ以外にも届けられることを望んでいます。財政面で儉約することは、私たちに託されたスチュワードシップを実践する最も簡単な方法のひとつです。NAワールドサービスは、財務責任を果たすために懸命に取り組んでいます。時折噂が流れることはありますが、豪華な視察旅行や専用機などは存在しません。その代わりに、私たちの主要な目的を支援するために数えきれない時間を犠牲にして働く多くの信頼されたサーバントやスタッフがいます。

残念ながら、ソーシャルメディアはNAWSを誤解させる声を増幅させることがあり、私たちの活動に詳しくない人々に混乱をもたらすことがあります。例えば、文献の価格を引き上げる必要がある場合、グループは自分たちの回復メッセージを伝える努力を妨げられる決定だと感じるかもしれません。自分の身近な環境だけで「害がある」と見てしまうのは簡単ですが、視野を広げて地域全体やコミュニティに必要なことを考えると、共通の福利のために必要な判断であることがわかります。価格を上げないことは、他の地域のアディクトが受けられるサービスの減少につながり、結果として苦しむことになるかもしれません。こうした決定を批判するのは簡単ですが、一歩下がって共感の気持ちを持ち、私たちが皆、同じ成果を目指して努力していることを認識することが大切です。

**全体の福利を第一にすること
とは、私たちが皆、NAの福利
に対して対等に責任を負っ
ていることだと言える**

なぜ、どのように効果があるのか 伝統1

ワールドサービスと同様、多くのサービス機関やグループは、バスケットや直接寄付から必要な資金を集めることに苦労しています。多くのサービス機関や一部のグループでは、資金の流れやバスケットからの不足分を補うために、文献の価格に上乗せをして収入を得ています。いくつかのコミュニティは、この上乗せに加え、Tシャツ販売やコンベンション、その他のイベントで得られる収入に依

存して、活動資金を賄い、請求書を支払っています。フェローシップとしては、このような代替的な収入源によって自己支援や直接寄付に対する意識が緩むことがあり、メンバーからグループ、さらには他のサービスレベルへと資金が流れる「仮想的」な資金の流れに頼るのではなく、他の収入源に依存してしまう傾向があります。

ワールドサービスはその歴史を通じて、文献の販売によってサービスの資金を賄ってきました。WSC（ワールドサービスカンファレンス）がWSO（ワールドサービスオフィス）と別組織であった時でさえ、収入不足を解決する必要がありました。1997年には、『A Financial History of the World Service Office of Narcotics Anonymous（NAワールドサービスオフィスの財務史）』という109ページの報告書が発行され、今日も直面する課題が詳細に記され、フェローシップがサービス資金の調整を行い、文献販売収入に依存するのではなく、より持続可能で自己支援的な直接寄付の流れに移行する必要があることが指摘されました。1990年、当時退任するオフィスマネージャーはこう書いています。「解決策は三つあります：WSOの活動を削減する、価格を上げる、またはメンバー、グループ、エリア、地域から直接寄付を受け取る。どの解決策を選ぶかはわかりませんが、世界中のアディクトのニーズを満たすための資金を増やさなければ、彼らは早期に死を迎える運命にあります。NAは唯一の解毒剤であり、その使用の鍵を持っているのはあなた、メンバーだけです。」直接寄付を増やす必要性を訴える私たちの継続的な努力は、文献販売への依存を減らすに足る成果はまだ得られていません。1987年には、同様のテーマに関する短い報告書『ベーシックテキストの価格を下げるための報告』が発行されました。その報告書によると、当時WSOには米国に38名のスタッフがおおり、そのうち3名はパートタイムまたは臨時、さらに1名の欠員がありました。1987年当時、世界中には11,082のNAミーティング、1冊のNA書籍、4言語で文献が出版されていました。今日では、米国に37名のスタッフがおおり、ヨーロッパ、イラン、カナダ、インドにも追加のスタッフと文献配布拠点があります。WSC 2023時点では、72,215のミーティング、7冊のNA書籍、58言語で文献が出版されています。この情報を考慮すると、どんなビジネスでも避けられないコスト増にもかかわらず、ワールドサービスは「少ないものでより多くを成し遂げる」、あるいは少なくともスタッフを増やさずにより多くを行う能力を維持する上で非常にうまくやってきたと言えます。1987年にはスタッフ1名あたり292ミーティングを担当していましたが、今日では1名あたり1,952ミーティングという比率です。しかも、今日の世界では、他者とのコミュニケーションははるかに容易かつ迅速になり、情報への欲求も以前より大きくなっています。

理想的には、収入の大部分がメンバー、グループ、サービス機関からの直接寄付で賄われる世界に住みたいところですが、現実はそのではありません。このため、価格引き上げ、サービス削減、直接寄付の増加といった決定は、私たちがフェローシップ、特にワールドサービスの資金調達に関する考え方や信念をグローバルに転換しない限り、今後も繰り返し議題に上るでしょう。直接寄付の必要性を伝える努力は続けており、最近の24時間ヴァーチャル・ユニティデイでの短い講話やWCNA 38での大規模な聴衆への発表などでも行われましたが、期待していたほどの成果はまだ得られていません。私たちは、この呼びかけに答えてくださった皆さんに心から感謝しています。過去数年間、多くのメンバー、グループ、サービス機関がNAワールドサービスへの継続的な寄付者となってきました。史上2回目および3回目となる2024年および2025年度（未監査）の会計年度では、フェローシップからの寄付がそれぞれ約200万ドルに達しました。以前にも述べた通り、これらの寄付がなければ、もっと早くより大きな問題が生じていたことでしょう。そのため、私たちは感謝しています。その影響は無視されておらず、しかしながら必要性は依然として存在します。

新たに進化した協働的計画プロセスにおいて、私たちは行うべき業務の概要を示すだけでなく、その業務を実現するために必要な財政面を支える責任も共有しています。お互いにこの必要性を行動への

呼びかけとして共有し、友人やホームグループ、サービスコミティに次のステップを促すことができますでしょう。私たちは創造的な自由を活かすことで自律性を発揮しますが、同時に、NA全体に影響を与えるのは行動だけでなく、行動しないこともあることを忘れがちです。私たちは皆、より大きな全体の重要な一部であり、全体の福利を最優先にしなければならないことを思い起こさせられます。それぞれの立場で、まだ現れていないアディクトのための場所を確保する責任を負っています。今こそ、お互いの間で、グループやサービス機関で、資金の流れを変える必要性について話し合いを始める時です。フェローシップの利益のために、サービス資金調達への努力は、そのサービス自体への必要性と同じ情熱で行われることが不可欠です。任意のメンバー、グループ、サービス機関は na.org/contribute で直接寄付を行うことができます。すでに行動してくださった皆さんに感謝します。現在、ワールドサービスの目標は、月次の定期的な寄付者数を3,000に増やすことです。これは直接寄付による持続可能性への小さな一歩です。本稿執筆時点で、その数は約1,000名、平均寄付額は28ドル少々です。この平均額で計算すると、完全な自己支援を達成するには2万人以上のメンバーが必要です。回復の恩恵を共有し、能力のあるメンバーは簡単に直接寄付を開始することができ、ワールドサービスを文献販売に依存させない解決策の一部となることができます。

私たちの全体の福利

「福利」という言葉は、理解されるよりも頻繁に使われています。

一般に「福利」は、健康、快適さ、幸福を指します。この言葉の多くの定義には、安全や幸福も含まれています。第一の伝統が「私たちの全体の福利を最優先すべき」と示唆しているとき、それは個人の欲求よりもグループの健全性がより重要であることを私たちに伝えてくれます。フェローシップとして、私たちは皆、互いに、そして私たちの個人的な回復を可能にするフェローシップに対して、共通の責任を共有しています。

ガイディングプリンシパルズ 伝統 1

改めて、大きな規模で私たちの資金提供の呼びかけに応えてくださった皆さんに、十分な感謝の気持ちを表すことはできません。皆さんの努力によって、私たちのメッセージを届けることが可能になっています！しかし、私たちはさらに行動を続ける必要があります。というのも、少なくとも過去20年間言い続けている通り、現在の収入モデル（すべてを賄うために文献販売の収益に依存するモデル）は持続可能ではないからです。

IP #21: 孤立の中でのクリーン

2020年、カンファレンスがIP#21『孤立の中でのクリーン（The Loner: Staying Clean in Isolation）』の改訂を優先事項としたとき、私たちはこれから何が起こるのか全く知りませんでした。ほかのサイクルと同様に、文献サーベイは2019年11月にCARとともに配布されました。カンファレンス前の3月に、世界的なシャットダウンが始まりました。その時点では、それがどれほど続くのか、またどのような影響をもたらすのかは分かりませんでした。ヴァーチャルカンファレンス後、このテーマに関する最初のサーベイを開始し、意見収集を始めたとき、多くのメンバーが初めて孤立の中でクリーンでいることを経験していました。緊急事態という状況の性質上、このプロジェクトはいったん棚上げされましたが、2023年に再び優先順位が付けられ、再開したときには、フェローシップとしての私たちの経験は大きく変容していました。

このプロジェクトの時機がいかに幸運であったかは強調してもし過ぎることはありません。もしこれをもっと早い時期（最初のカンファレンスサイクルを含めて）に書いていたなら、印刷される前にすでに時代遅れになっていたでしょう。カンファレンスによる優先化と、予期せぬ遅延があったことで、それ以前には存在しなかった資源や経験を活かすことができました。2020年から今日までの間に、ヴァーチャルミーティングはフェローシップにおいて当たり前のものとなり、私たちの共同の生活は、ある意味でかつてないほど相互につながるようになりました。現在では、1980年代初頭にこのIPが最初に起草された当時には想像もできなかった、孤立したメンバーのための資源が存在しています。当時、世界中のアディクトからワールドサービスオフィスに手紙が殺到し始めたことを受け、WSOは孤立したメンバー同士をつなぐためにローナーグループを設立しました。匿名性を守りメンバーを保護するため、文通相手や長距離スポンサーとして定期的に連絡を取り合えるよう、コード化された仕組みが作られました。想像できる通り、その作業量は膨大でした。最終的に二つの出版物が生まれました。受刑中の人々のための『Reaching Out』と、距離、身体的・精神的な課題、介護や軍務などの理由で対面ミーティングに参加できない人々のための『Meeting by Mail』です。当初から、孤立の中で回復している人たちは必ずしも「孤独者」ではなく、さまざまな理由で孤立しているメンバーであることが明らかでした。中には、現在では成長しているNAコミュニティを立ち上げた人もいれば、困難な時期を通じて回復を維持した人もおり、また、手紙のやり取りやカセットテープの送付などを通じた長距離スポンサーシップの価値と実践を学んだ人もいました。IP#21が最初に作成された際、カンファレンスはこれらのメンバーに声をかけ、彼らの経験はその文書に不可欠なものでした。幾度かの改訂を経て最終的にテーブルに上がった版は当時を思い起こさせる印象深いものですが、すでに存在しない資源（『Meeting by Mail』は1990年代後半に絶版）を含んでおり、その後数十年にわたり対面ミーティング以外の形で回復を見いだしてきた多くのメンバーの資源や経験は含まれていませんでした。

私たちは2020年の時点でそのことを理解していましたが、状況がフェローシップ内外でどのように改革を促進するのか、孤立の経験の層がどれほど広がるのか、そしてこのテーマがこれほど多くのメンバーにとって重要なのかを知ることはできませんでした。2022年2月から8月にかけてサーベイを実施し、33か国45州から500件を超える回答が寄せられ、いくつかの驚くべき結果が示されました。回復における孤立を報告した人のうち、地理的な孤立が原因であったのは25%未満であり、テクノロジーが急速に状況を変えていることが明らかになりました。このデータについては、2023年カンファレンスレポートで報告しました。

2023-2026年のサイクルにおいて、私たちは以前に収集した意見に加え、新たな呼びかけによって寄せられた回答をもとに作業を行いました。ワールドサービスは、プロジェクト作業やフォーカスグループへの参加に関心のあるメンバー向けにボランティアフォームを掲載しました。私たちは、そのフォームでこのテーマへの関心を示した85名のメンバーの中から、（私たち全員が直近で経験したことを超える）孤立の経験を持つ人たちを招き、二つのフォーカスグループに参加してもらいました。合計で約35名のメンバーです。これらのヴァーチャルな対話の中で、参加者には、どのような経緯で孤立に至ったのか、孤立の経験の中で何が困難だったのか、その経験の中で何が変容をもたらしたのか、そしてどのようなツールや資源が役立ったのかを分かち合ってもらいました。寄せられた意見は美しく、素晴らしく、そして非常に感情に満ちたものでした。参加できなかった人や、さらに伝えたいことがあった人たちからは、文書による意見も寄せられました。私たちは世界中のアディクトから声を聞き、加齢によって孤立に至った多くのメンバーや、新しいコミュニティで私たちのメッセージを切り開いているメンバーとも、心温まる対話を行いました。その中には、インターネットを通じて支援や資源を見いだしている人もいれば、テクノロジーの届かないところでメッセージを運んでいる人もいました。私たちは、IP第21号の以前の版の基本構成を維持しました。サーベイとフォーカスグループの両方で強く聞かれたメッセージの一つは、地理的条件以外にも人が孤立に至る理由は数多くあり、どのような理由であれ、「ローナー（孤独者）」と呼ばれることをあまり好まない、ということでした（特に、ベーシックテキストには、回復に会う前の私たちの一部は「ずる賢く、怯えた孤独者だった」と書かれているためです）。この意見を受けて、最大の予想外の変更点は、そのスティグマを伴う言葉をタイトルから外したことです。改訂版IP第21号『孤立の中でクリーンでいること』は、距離、病気、介護、加齢などによって孤立しているメンバーの経験・力・希望を提供し、オンラインミーティングからna.orgでのガイダンスに至るまで、豊富な資源を提示しています。

私たちが切実にNAを必要とする時があり、どうしてもミーティングに行けないことがあります。オンラインや電話でつながるにせよ、手を伸ばすにせよ孤立するにせよ、自分の周りに新しいNAコミュニティを築くにせよ、自分の内側に新しい安全な場所を築くにせよ、プログラムは常に私たちと共にあります。なぜなら、それは私たちの中に生きているからです。

改訂されたIP#21『孤立の中でのクリーン』を、皆さんの承認のために提出できることを、私たちは感謝とともにお伝えします。

動議 1 付録Aに含まれる改訂版IP#21『孤立の中でのクリーン』を、現在のIP第21号『ザ・ローナー—孤立の中でクリーンでいること』に代わる、フェローシップ承認の回復文献として承認する。

提案者：ワールドボード

意図：1986年に承認された本IPを、現在のフェローシップの経験を反映した内容に更新するため。

財政的影響：現時点ではなし。

影響を受ける方針：なし。

NA ワールドサービス戦略計画

多くのメンバーにとっては馴染みがないかもしれませんが、NAWS（NAワールドサービス）の戦略計画そのものは新しいものではありません。新しいのは、この計画をフェローシップとして採択することが求められているという点です。NAワールドサービスは20年以上にわたり戦略計画に基づいて運営されてきました。各カンファレンス・サイクルごとに計画は改訂・更新され、その中の優先事項が今後の活動内容を形づくってきました。これまでのサイクルでは、NAWS戦略計画はカンファレンス承認トラック（CAT）の資料に含まれていました。今回、初めてフェローシップの承認を得るためにカンファレンス・アジェンダ・レポート（CAR）に含まれており、またカンファレンス全体によって作成された初めての計画でもあります。

WSC 2023において、カンファレンスは3年サイクルを試行的に採用することを決定しました。（2000年から2020年までは、カンファレンス・サイクルは2年でした。）このより長いサイクルによって、各ゾーン・フォーラムでの計画セッションを含む、真に協働的な計画プロセスのための時間が確保されました。カンファレンス参加者（CP）は、別紙Bにある計画を共同で創り上げるすべての段階に関わってきました。これまでにないレベルでCPが関与したことで、この計画はNA全体のニーズを反映した、集合的に作成された計画となっています。

先に進む前に、まず感謝を伝えたいと思います。協働的な計画を可能にするために力を合わせて取り組んだCPの皆さん、そしてこのエッセイ、計画、CARを読み、プロセスに関わるために時間を割いてくださっているあなたのようなメンバーの皆さんに、心から感謝します。

戦略計画を集合的かつ協働的に作成し、採択することは、動議主導のサービス文化から、対話と合意形成を特徴とする文化への、より大きな転換の一部です。私たちはこのことを何十年も語り続けてきました（そのタイムラインを疑うなら、2006年のCARを読み返してみてください）。年々少しずつ前進しながら、今回のCARに含まれる戦略計画とディスカッション・クエスチョンにおいて、私たちはついにその努力の成果をはっきりと目にしています。

戦略計画とは？

計画という考え方は、アディクトにとっては抵抗感を覚えやすいものかもしれません。私たちはそれを、先のことを決めつけることや、コントロールしようとする 것과混同してしまうことがあります。しかし実際には、計画を立てることは、今この瞬間を生きながら、これから起こりうることに備えるための手段です。

「決して組織化されるべきではない」という言葉は、私たちが何の計画性も予測性もなく行動する、という意味ではありません。私たちのミーティングは決まった時間と場所で行われ、ミーティングリストやウェブサイト、電話ラインを作り、維持しています。成長し回復していくためには、ある程度の構造が必要です。

管理は統治とは同じではなく、私たちがサービスの中でつくる構造は、この伝統が問題にしているような「組織」ではありません。私たちはサービスの取り組みやミーティングの予定、イベントのカレンダーを確かに組織化しています。

しかし、決して組織化されないものがあります。それは最も大切な部分、つまり、あるアディクトが別のアディクトを助け、手を差し伸べ、心から心へと分かち合うことです。言葉を越えた共感のコミュニケーションこそが、NAを機能させているものです。これがなければ、私たちが行っている他のすべては意味を失ってしまいます。

計画を立てることで、私たちは一歩ずつ前に進み、方向性や進捗を確認することができます。NAの魔法は、私たち同士のスピリチュアルなつながり「それ自体」にあります。それは決して組織化されるべきではないものです。サービスを計画することは、グループを支え、その魔法が起こる舞台を整える自由をグループに与えます。

戦略プランは、変化の指針となるものです。ワールドサービスが行っていることの大部分は、このプランには含まれていません。NAワールドサービスでは、日々、膨大な量の業務——書簡のやり取り、電話、Eメール、翻訳、定期報告、ウェブミーティング、レイアウト、制作、発送、著作権対応、テクノロジー、ワークショップなど——が、継続的な活動として行われています。このプランに含まれている目標やアイデアは、NAの内外に存在する要因のうち、私たちがより良く対応していく必要があるものに関わっています。ここに示されている目的や解決策は、日常業務に「加えて」実施したい、新しい取り組みやアイデアについてのものです。

このプランが対象としているのは、これから迎える一つのカンファレンス・サイクルのみです。示されている解決策や目的は、今この時点で焦点を当てられると私たちが考えている断片にすぎません。つまり、ここに書かれている多くは「最初の一步」であり、今後3年間で達成できるかもしれないことを示しているのであって、考え得るすべての可能性を網羅しているわけではありません。ここに含められなかったアイデアは無数にありますし、やるべきことは常に、使える時間やリソースよりも多いのです。

課題や目的が、多少の修正を加えながらサイクルを越えて引き継がれることもあります。私たちは毎サイクル前進しようと努めていますが、いくつかの目標は大きく、プランに含まれる解決策は、優先順位を踏まえ、次のWSCまでに達成可能だと考えられる段階的な前進を示しているにすぎません。たとえば、「世代的・文化的多様性」という課題の下で、このプランに挙げられている解決策は、若いメンバーや新しいテクノロジーに焦点を当てています。次のサイクルでも課題そのものは同じかもし

私たちのフェローシップを生かし、自由であり続けさせている原則は普遍的であり、そのおかげで私たちは驚くほど柔軟でいることができます。NAは、世界中のさまざまな文化や状況の中で、成長し、繁栄することができます。

12の伝統は交渉の対象ではありません。つまり、それらは買われたり、交換されたり、取引されたり、売られたりするものではないということです。

しかし、それは私たちが硬直していて、柔軟性がなく、成長できないという意味ではありません。むしろ、伝統を制限として捉えるのではなく、自由への道を指し示すものとして理解する必要があります。

私たちの指針となる原則は、落とし穴を避ける助けとなり、成長と変化を続けていくことを可能にしてくれます。

れませんが、計画には、世代よりも文化的多様性に重点を置いた、異なる目的や解決策が盛り込まれるかもしれません。

要するに、私たちはどれほど望んでも、すべてを一度に行うことはできません。戦略プランの解決策は、「次に何をするか」に焦点を当てたものなのです。

計画の内容

2026–2029年のプランを読み進めることで、NAがどのように変化し、進化しているかの一端を垣間見ることができます。プランには、オンラインおよびハイブリッド環境におけるメッセージの伝達、資金の集め方、サービスの提供方法について多くが盛り込まれています。また、テクノロジーを活用してコミュニケーションやつながりを向上させること、NA以外の場で義務づけられたり処方されたりする治療の形態にかかわらず、すべてのアディクトがNAの中で安心して回復できる場所を見つけられるようにすること、そして、すべてのアディクトがNAに居場所を見いだせるよう、私たちの言葉遣いをより包括的にしていく探求を続けることなどが含まれています。

サービスに関わり始めたばかりのメンバーから最もよく聞かれる質問の一つは、「なぜ（ ）にはこんなに時間がかかるのですか？」というものです。NAは確かに進化しますが、速くはありません。私たちが急激に変わらないこと、あるいは「時代遅れ」であることは問題ではありません。私たちは本質的に、また実践としても伝統を大事にしています。テクノロジーの最先端を走る必要はありませんが、メッセージを石に刻まなければならないほど遅れてしまうことは避けたいのです。

どのサイクルにおいても、プランには実際に取り組める量以上の内容が含まれています。私たちはまず優先順位が付けられた事項に取り組み、その進捗についてはサイクルを通じてカンファレンス参加者と共有していきます。



用語について

戦略プランを理解するためには、そこで使われている用語に慣れることが必要です。以下は、このプランを構成する要素です。

- 主要成果領域（Key Result Areas）

主要成果領域とは、「NAサービスのビジョン」を実現するために、私たちが重点的に取り組む必要のあるサービス分野です。これらは、戦略プランを支える四つの柱であり、サイクルが変わっても、ほとんど変わることはありません。

- 課題（Issues）

課題とは、今サイクルにおいて取り組むことが最も重要であると、カンファレンス参加者が共同で決定した要素です。

- 目標（Objectives）

目標は、私たちが目指す到達点を示し、現在の状況に即した解決策を考える助けとなります。目標は、「どのように達成するか」ではなく、計画サイクルの終わりまでに「何を達成したいのか」を表現するものです。

- 解決策（Solutions）

解決策とは、目標を達成するための道筋です。これらは、NA全体を代表してワールドサービスが取り組むことを私たちが望む作業です。解決策は、ある目標に対して進展をもたらす得るすべてを含む必要はなく、プロジェクトが優先事項として位置づけられた場合に、次のサイクルで取り組みたいステップのみを含みます。解決策は、私たちがどのようにして目標に到達しようとしているのかを、大まかに説明するものです。

- プロジェクト計画（Project Plans）

成果物、タイムライン、媒体など、解決策の詳細はプロジェクト計画に示されます。

- チャージフォーム（Charge Forms）

場合によっては、プロジェクト計画をどのように運営・管理するかといった詳細が、「チャージフォーム」と呼ばれる文書に含まれることがあります。これは、特定のプロジェクトに取り組むスタッフやボランティアに指示を与えるために、ワールドボードが使用するものです。

たとえば、サービスマテリアルや回復文献に関する一般的なプロジェクトで、WSCにおいて具体性が与えられる場合、カンファレンスはそのプロジェクトの焦点を決定するまでは、タイムラインやその他の詳細を策定することができません。（このプロセスについては、下記のCARサーベイのセクションを参照してください。）

計画の全体を通して、皆さんが抱くかもしれない疑問やコメントに対応し、また、この計画の内容の背景にある考え方を明らかにするために、説明的な段落を随所に盛り込んでいます。

プランニング（計画）のプロセス

この計画を作成するプロセスは、WSC 2023から始まりました。これは対話的なプロセスであり、つまりゾーン、カンファレンス、ワールドボードといったサービスボディの間での、行き来する対話を通して、2年半以上かけて形づくられてきた計画です。

3年サイクルとなったことで得られた追加の時間により、私たちはカンファレンス全体として協働し、この計画を作り上げることができました。カンファレンスのウェブページにある「プランニング」セクションには、このサイクルを通じた進捗に関するレポートが掲載されています。na.org/planning

これまでのステップは以下のとおりです。

- 会議参加者（CP）が、メッセージを運ぶ私たちの能力に影響を与え得る、NAの内外の要因を特定するインベントリーを開始— WSC 2023
- CPがサーベイを通じて、それらの要因に優先順位を付ける— WSC 2023以降
- 世界中のすべてのゾーンが集まり、特定された要因によって提起された課題や、考えられる解決策について話し合う— 2024年2月～5月
- ワールドボードが、これらすべてのディスカッションノートを基に目的（オブジェクティブ）を起草し、あわせてワールドサービスの構造および運営に関する目的案を作成— 2024年6月
- 会議参加者が、課題（イシュー）と目的について話し合う— 中間WSC
- ワールドボードが、中間WSCでのCPの議論を踏まえて目的を修正し、解決策（ソリューション）を起草— 2025年7月
- 会議参加者が、解決策について話し合う— 2025年8月 CPウェブミーティング
- ワールドボードが、CPの議論を基に解決策を修正し、計画案を最終化— 2025年9月

WSC 2026において、デリゲートがそれぞれのリージョンおよびゾーンを代表して、この計画を採択することが求められます。

計画の実施

前述したとおり、ソリューションをどのように実施するかという具体的な内容は、プロジェクト計画および「チャージ」シートに明記されています。NAWS戦略計画から派生したプロジェクト計画は、カンファレンス・アプルーバル・トラック（CAT）の資料に含まれています。

CAR サーベイ

カンファレンス・アプルーバル・トラック（CAT）の資料に含まれているプロジェクト計画の中には、回復文書、サービス資料、課題ディスカッショントピック（IDT）に関する「空白」の計画が含まれています。2016年以降、CARサーベイの結果が、これらのプロジェクトの焦点を選択するうえで、カンファレンス参加者を導いてきました。

これら二つのアイデアの流れ——CARサーベイと戦略的計画プロセス——は、別々に作られたものであり、常に完全に噛み合うわけではありません。それでも最終的には、これらが一つにまとまり、次のサイクルにおける作業の方向性を形づくる必要があります。

CARサーベイおよびプロジェクトのプロセス、また2016年以降のプロジェクト一覧についての詳細は、カンファレンスページのプランニング・セクションに掲載されている「Project Process and Status」文書をご覧ください。（注：この文書の最終更新は2024年7月です。WSC 2026前に再度改訂される予定です。）

協働的な計画づくりは、カンファレンスにとってまだ新しい取り組みであり、今後もプロセスの改善を続けていきます。計画プロセスの評価と改善は、WSC 2026で話し合われる多くのテーマの一つです。次のサイクルでは、CARサーベイと戦略計画とのより良い連携を築きたいと考えています。それまでの間、CARサーベイの各項目の横に目標番号を記載し、CARサーベイの項目と戦略計画の目標との関連性を示しています。中には関連が明確なものもあれば、やや無理があるものもあります。

作業における協働

多くのサービス資料や回復文献のプロジェクトは、フェローシップ全体を対象とした何らかのアンケートから始まります。これは、メンバーがそのプロジェクトにどのような内容を含めたいか、または検討してほしいかを明らかにするためです。そのようにして、フェローシップ全体が、戦略計画のソリューションに列挙されたアイデアの焦点を定める手助けをします。

私たちは、作業を進めるにあたり、常設のワークグループではなく、主にヴァーチャルなフォーカスグループを用いてきました。これは、より低コストで柔軟性が高く、参加の多様性を広げられる方法だからです。名前が示すとおり、フォーカスグループは通常、特定のテーマについて話し合うために集まります。2023–2026サイクルでは、フォーカスグループがウェブサイトの再設計、IP #21の改訂、「ヴァーチャル・サービス・ベーシックス」や「H&Iベーシックス」の草案作成など、多くの作業を支えてきました。

とはいえ、今後のサイクルにおいて、リージョンやゾーンがプロジェクトに取り組まなければ、私たちは成功することができません。やるべきことがあまりにも多いからです。たとえば、『グループ・ブックレット』や『NAにおけるローカルサービスのガイド』の改訂について、多くのカンファレンス参加者から提案が寄せられています。これらのプロジェクトが承認された場合、ゾーンやリージョンのサービスボディに対して、ワークショップの開催、ベストプラクティスの収集、草案のレビューといった形でプロジェクトへの参加をお願いすることになります。計画に含まれる多くのソリューションの進展は、ゾーンやリージョンとの協働にかかっています。NAワールドサービスがワールドレベルのプロジェクトにおける集約点となるのは、ワールドボードがカンファレンスによって選出された機関であること、そして105の言語を話し、143か国に広がるフェローシップからの意見を調整するという物流的な課題が、リージョンやゾーンに求められる範囲を超えているからです。言うまでもなく、ゾーンやリージョンにはそれぞれ独自の仕事もあります。

実際のところ、私たちはNAワールドサービス戦略計画がローカルなプロジェクトを刺激することを期待しています。これらの目標の枠内に収まるソリューションの中には、ローカルレベルで取り組めるものもあるでしょうし、この計画が、より多くのローカルサービスボディが独自の計画に取り組むきっかけになるかもしれません。たとえば、あるカンファレンス参加者は、目標2における対象として学校を挙げました。ワールドボードは、このサイクルでは、NAにアディクトを紹介する主要な公共セクターに焦点を当て、対象をこれ以上増やさない判断をしましたが、次のサイクルでは、PRの取り組みを学校に向けることを選択するリージョンやゾーンがあるかもしれません。これは一例にすぎません。私たちは、リージョンやゾーンが、計画に含まれるいくつかのソリューションを、自らのローカルなサービス努力に合わせて応用してくれることを期待しています。

WSC 2026

このサイクルを通して、私たちは計画の歩みを「一緒に進むロードトリップ」にたとえてきましたが、実際には計画プロセスは循環的なものです。計画が循環的であるということは、この計画を承認すると同時に、次の戦略計画づくりを始める必要があるということでもあります。2026年ワールド・サービス・カンファレンスでは、デリゲートは、2023年に今回の計画に至るプロセスを始めたのと同じように、次の取り組みを開始するよう求められます。CARに含まれる動議が少なくなったことで、WSC 2026ではディスカッションにより多くの時間を割くことができ、その中には、今後の年（2029–2032）にNAに最も影響を与え得る、NA内部および私たちを取り巻く世界の要因に焦点を当てた話し合いも含まれるでしょう。

WSCで参加者が話し合う問いは、次のようなものになるかもしれません。

私たちが「今ここにいるアディクト」、そして「これからやって来るアディクト」に備えてサービスしていくために、どのような課題、挑戦、そしてニーズに取り組む必要があるのでしょうか？

もしこの問いがあなたの中に何かアイデアを呼び起こしたなら、その考えをあなたのデリゲートと共有するか、エリアやリージョンのCARワークショップで分かち合ってください。



三年

ここで付け加えておきたいのは、**3年制のカンファレンス・サイクルは2サイクル（2023–2029）の試行として承認された**という点です。2029年のワールド・サービス・カンファレンスでは、3年制サイクルを恒常的に採用するかどうかが諮られます。

2029年以降のカンファレンス・サイクルの長さが不確定であることを踏まえ、ワールドボードでは次期ストラテジック・プランを「2029–2032 プラン」と呼ぶべきか、それとも「2029–203X プラン」とすべきかを検討しました。その結果、前者（2029–2032）を採用することにしました。

私たちは3年間を想定して計画を立てますが、もし3年制サイクルが承認されなかった場合は、計画を一から練り直す必要があります。**協働型のプランニング・プロセスは、3年制サイクルが前提**となっています。これほど大規模で、国際的かつ多言語の組織体においては、少なくとも3年という期間がなければ、これほど多くの対話、修正、レビュー——計画の各要素についての往復のやり取り——を行う時間を確保することはできません。

動議

NAWSストラテジック・プランは非常に大きく、多くの詳細を含んでいますが、個々の部分ごとではなく、全体として採択することが求められています。皆さんのデリゲートは、これから先の3年間にワールドサービスが最も取り組む必要のある仕事何かを、このプランが的確に示すものになるよう、文字どおり何年もかけて共に作業してきました。

このプランには、私たち一人ひとりの個人的な情熱がすべて反映されているとは限りません。しかし、私たち全体としてのニーズと優先事項を確実に反映しているものです。個人として（あるいはグループ、エリア、リージョンとして）、ある表現は別の言い回しのほうがよいと感じたり、ある目的やソリューションで少し違う強調点を望んだりすることはあるでしょう。それでも安心してくださ

い。このプランのすべての要素は、カンファレンス参加者—デリゲート、オルタネート、そしてワールドボード—によって議論されてきました。私たちは本当に数え切れないほどの話し合いを重ねて、このプランを形にしてきました。これはまさにコンセンサスに基づくプロセスでした。

『NAワールドサービス・ガイド（A Guide to World Services in NA）』には、次のように書かれています。

「コンセンサスは、誰もが真実の一部を持っており、誰一人としてすべてを知っているわけではない（たとえ自分こそが一番わかっていると思いたくなくとも！）という信念に基づいている。コンセンサス・プロセスとは、合意に至るまでにグループがたどる過程であり、『私たちは一人ではできないことを、共にならでできる』という考えをサービスの場で具体化する方法である」

（GWSNA「WSCにおける意思決定」より）

その精神に基づき、このプランを、善意と信頼のもとで採択してほしいと私たちはお願いしています。

今回の動議で「承認」ではなく「採択」という言葉を使っているのは、多くのメンバーにとっては初めて目にする内容であっても、このプラン自体は何年にもわたる協働の中で共同創造されてきたものだからです。私たちは、皆さんの共通の福利のために、デリゲートが皆さんに代わって共に創り上げてきたこのプランを、フェローシップとして引き受け、主体的に受け取ってほしいのです。

約300人近いカンファレンス参加者がいる中で、コンセンサスを築くには膨大な対話が必要です。これほど大規模なグループでの協働は、どんな文脈でも極めて珍しく、私たちにとっても新しい挑戦であり、世界的に見ても稀なことです。カンファレンス全体が一体となってワールドサービスのストラテジック・プランを構築するのは、これが史上初です。

よく言われるように、「インクルージョンとは、パーティーに招かれることだけではなく、ダンスに誘われること」

さあ、踊りましょう。

動議 2 付録Bに含まれる、協働によって作成された2026–2029年NAワールドサービス・ストラテジック・プランを採択すること。

提案者：ワールドボード

意図：WSC 2023に始まり、本サイクルを通じてゾーンおよびカンファレンス参加者の関与のもと継続されてきた、協働的プランニングの成果を承認すること。

財政的影響：直接的な財政的影響はありません。将来発生し得る費用については、プロジェクト計画または予算の中で明示されます。

影響を受ける方針：なし。

NAワールドコンベンションの今後に向けて

WCNAの歴史

50年以上にわたり、ワールドコンベンションはフェローシップにとって、一体性と回復を祝う場であり続けてきました。

初期の頃、フェローシップの人数はまだ少なく、主にアメリカ南西部に集中していたため、コンベンションはカリフォルニア中心のものでした。1970年代後半になってようやく、ワールドコンベンションはカリフォルニア州外で開催されるようになり、さらにアメリカ国外へと踏み出したのは、1986年のWCNA16が初めてでした。

1980年代はNAにとって活気に満ちた時代であり、WCNAはメンバーシップの多様性を表現する場でもありました。

1971年から1996年まで、ワールドコンベンションは毎年開催されていました。1990年代半ば、当時のワールドコンベンション・コーポレーションは、新たな「ゾーン制」ローテーション計画の導入と、開催頻度を2年に1回とする変更を求める動議を提出し、これらはWSCで採択されました。この新しい計画は、WCNA26（ミズーリ州セントルイス）以降に開始されることになりました。

このローテーション計画の理想的な目標は、コンベンションを隔回で北米以外の地域に移すことで、世界的な参加を促進することでした。

しかし、この計画には独自の課題も伴いました。最大の課題は、ワールドコンベンションが主に北米のメンバーによって支えられてきたという点であり、北米以外の地域で開催することで、フェローシップの大きな部分にとって参加が難しくなる可能性があったことです。その後、ローテーション計画は9ゾーンから6ゾーンへと若干修正され、1998年から2009年の期間に、北米での開催地が2回追加されました。

出席者数、有効な計画立案、そして財務上の収支に関する継続的な課題に直面する中で、ワールドボードは新たなローテーション計画を提案し、この計画は2012年のWSCで採択されました。この改訂された計画では、開催地を米国と米国外で交互にし、ワールドコンベンションを3年ごとに開催することとされました。これは、ワールドコンベンションが北米では6年に一度、北米以外でも6年に一度開催されることを意味します。WCNA 34および35はすでにサンディエゴとフィラデルフィアでの開催が計画されていたため、この新たなローテーションは、中南米ゾーンでの開催が予定されていたWCNA 36から開始されました。WCNA 36は最終的にリオデジャネイロで開催されました。

国別WCNA 38事前登録数



WCNAの歴史に関するさらなる情報は、na.org/wcnaで見つけることができます

サンアントニオで開催されたWCNA 32を除けば、北米で開催されたコンベンションの傾向は良好でした。WCNA 34および35はいずれも参加者数が多く、控えめながら利益を上げました。2018年にオーランドで開催されたWCNA 37の成功は際立っていました。このコンベンションには21,000人以上が参加し、100万ドルを超える大きな収益を生み出しました。これは主に、会場契約の条件が有利であったことと、参加者数の多さによるものでした。

2020年の世界的パンデミック以前、NAワールドサービスはWCNA 38をオーストラリア・メルボルンで開催する計画を立てていました。世界的なロックダウンの後、ワールドボードはデリゲートと状況について協議し、コンベンションを1年延期して再評価することを決定しました。再評価の結果、COVIDによる渡航および健康上の懸念に加え、NAワールドサービスの財政的・人的資源への負担が重なり、オーストラリアでのコンベンションを中止することが最も責任ある判断であると考えられました。

現在

WSC 2023 に向けて、WCNA 38 は 2024 年にワシントンD.C.で開催される計画が進められていました。これは、約 40 年前に開催された WCNA 15 と同じ開催地への回帰でした。しかし、ワールドサービスは、ローテーション計画の実行可能性や、ワールドコンベンションの今後について、依然として不確実さを抱えていました。

現行のポリシーは、比較的安定した状況を前提としていますが、世界的なシャットダウンによってコンベンションが中止され、イベント企画に伴う費用が急騰するような状況は想定されていませんでした。こうした不安定な状況を受けて、2023 年の WSC では、今後のワールドコンベンションについて、何が可能で現実的なのかを調査・検討する時間を確保するため、2024 年以降の WCNA ローテーション・ポリシーを一時停止するという、ワールドボードが提出した動議が承認されました。

動議 8：COVID パンデミックの結果として、2024 年以降の NA ワールドコンベンション（WCNA）のローテーション・ポリシーを一時停止し、今後何が可能で現実的であるかをワールドボードが検討した上で、カンファレンス参加者の承認を求めること。

提出者：ワールドボード

意図：すでに生じている WSC および WCNA のローテーションの混乱、イベント開催費用の増加、そしてパンデミックによってもたらされたその他の変化を踏まえ、将来に向けて何が可能で現実的であるかについてワールドボードが評価を行い、その結果についてカンファレンス参加者の承認を得られるようにするため。



WCNA 38（ワシントンD.C.）から私たちが学んだ最も大きなことの一つは、コンベンションを取り巻く状況がいかに大きく変化し、参加者数の予測がどれほど不確実になっているか、という点でした。過去2回の北米開催のWCNAの傾向、6年間WCNAが開催されていなかったこと、そしてワシントンD.C.がNAの参加者数が特に多い地域から車で容易にアクセスできる場所に位置していることを踏まえると、参加者数がオーランドを上回る可能性があると考えるのは妥当であり、その前提で計画を立てることに論理的な理由がありました。多くの場合、過去の実績は将来の結果を示す指標となりますが、今回はそうではありませんでした。私たちは、パンデミックがフェローシップに与えた影響のいくつかを過小評価していました。

パンデミック以前、多くのメンバーは、特にWCNAのようなイベントに参加するために移動することでしか、NAメンバーシップの多様性を体験していませんでした。バーチャルNAの広がりによって、今日ではメンバーは世界中のどこであっても、いつでも、オンラインミーティングに参加することで、自分の電話一つでNAの多様性を体験することができるようになりました。主要ミーティングを無料でストリーミングできる選択肢や、他のNAコンベンションやイベントの増加も、ワシントンD.C.での対面参加を見送るという判断に、追加的な影響を与えた可能性があります。WCNA 38でストリーミング提供された11のミーティングには、合計37,563件の接続がありました。

現在の経済状況における財政的な圧迫に加え、特に高齢のメンバーの間で続いている健康や安全に対する懸念といった要因も、D.C.における全体的な参加者数に影響を与えた可能性があります。WCNA 38は参加者数24,000人を想定して計画されましたが、実際の登録者数は18,000人余りでした。参加者数の予測に苦慮しているのは、私たちだけではありません。AAも最近インターナショナル・コンベンションを開催しましたが、参加者数は想定のおお半分にとどまりました。6年前のオーランド大会には21,000人が参加していたことから、その数を上回る可能性を見込むことは合理的に思われました。

2024年アニュアル・レポートで報告されたとおり、WCNA 38の最終的な収支は、収入を上回る支出が956,129ドルとなりました。幸いにも、準備金を増やすためのワールドサービスの取り組みによって、不利な結果に備えることができていました。必要な業務は大きな混乱なく継続されましたが、この結果は、今後のコンベンションのあり方を形づくる議論や意思決定に、大きな影響を与えました。

Final Financial Report for WCNA 38					
31-Mar-25					
EVENT-SPECIFIC as of March 31, 2025					
EVENT-SPECIFIC INCOME	YTD ACTUAL	YTD BUDGET	VARIANCE	VARIANCE%	ANNUAL
WCNA-38 INCOME					
REGISTRATION	\$ 3,031,586	\$ 4,261,000	\$ (1,229,414)	-29%	\$ 4,261,000
SPECIAL EVENTS	550,969	663,750	(112,781)	-17%	663,750
NEWCOMER DONATIONS	48,467	15,000	33,467	223%	15,000
MERCHANDISE	964,070	798,584	165,486	21%	798,584
OTHER SALES	328,764	242,765	85,999	35%	242,765
Total Event-Specific Income	\$ 4,923,856	\$ 5,981,099	\$ (1,057,244)	-18%	\$ 5,981,099
EVENT-SPECIFIC EXPENSE					
WCNA-38 EXPENSE					
REGISTRATION	\$ 2,381,281	\$ 2,463,000	\$ (81,719)	-3%	\$ 2,463,000
SPECIAL EVENTS	558,636	387,910	170,726	44%	387,910
PROGRAM	337,932	385,000	(47,068)	-12%	385,000
MERCHANDISE	834,506	399,292	435,214	109%	399,292
FACILITIES	1,376,584	900,000	476,584	53%	900,000
SUPPORT COMMITTEE	12,222	50,000	(37,778)	-76%	50,000
ADMINISTRATION	378,822	400,000	(21,178)	-5%	400,000
Total Event-Specific Expense	\$ 5,879,984	\$ 4,985,202	\$ 894,782	18%	\$ 4,985,202
Total Event-Specific Excess Revenue/Expense	\$ (956,129)	\$ 995,897	\$ (1,952,026)	-196%	\$ 995,897

これからのこと

WSC 2023 で採択された、WCNA の現行ローテーション・ポリシーを停止する動議により、ワールドサービスには、今後何が実際的に可能であるのかを調査・評価するための時間が与えられました。この動議では、ワールドボードがその結果についてカンファレンス参加者の承認を求めることが規定されています。議論に必要な情報を収集し、どのようなポリシー変更が最も妥当であるかについて合意に至るまでには、過去 18 か月の大半を要しました。

提案されているガイドラインでは、ローテーションや開催地に関する意思決定の責任の多くがワールドボードに委ねられています。これは、NA の内外を問わず、不確実な要素が非常に多いためです。カンファレンス業界全体が変化しており、メンバーの行動も変化しています。そして、数年先にどのような状況になっているのかを予測することは不可能です。

WCNA 38 における赤字といった過去のワールドコンベンションの結果に加え、ワールドサービスは、イベント関連コストの市場動向など、さまざまな要因を検討しました。全体的にイベント費用は増加しており、特に私たちが大きく依存している音響・映像制作に関連する費用は上昇し続けています。国際的な移動に伴うコストの増加や複雑化も考慮する必要があるとあり、とりわけ北米以外でイベントを開催する場合には重要な要素となります。というのも、開催地にかかわらず、WCNA の参加者の大半は通常、米国のメンバーだからです。

コンベンションの将来に関する提言を検討するにあたり、ワールドボードは、世界的な政治・経済状況、イベントがもたらす PR および資金開発上の利点、見込まれる収益または損失、米国内および米国外開催におけるコンベンションの規模など、数多くの点について議論しました。加えて、NAWS は、NA メンバーが WCNA に参加する理由（あるいは参加しない理由）に共通する傾向があるかどうかを把握するため、アンケート調査を実施しました。予想どおり、3,616 件の回答の大多数は、移動費用やその他の経済的要因、そして開催地が、参加するかどうかの判断に最も大きな影響を与える要素であると回答しました。受け取った回答のほぼ半数（48%）は、これまで一度も WCNA に参加したことのないメンバーからのものでした。このアンケート結果の詳細については、WSC 2026 に先立って発行されるカンファレンス・レポートで報告します。

ワールドボードが合意に至った項目の一つは、各ワールドコンベンションを収支中立のイベントとすることでした。私たちは常に、少なくとも「収支中立」であることを目指してきましたが、これまでしばしば、広報やフェローシップの発展という点でイベントがもたらす機会を重視し、地域社会にとって意義深い開催であれば、支出が収入を上回ることも受け入れてきました。現在の状況において、財政的に慎重なコンベンションを計画するためには、参加人数の上限を設ける必要がある場合があります。私たちが直面している最大の課題の一つは、実際に何人がコンベンションに参加するのを見積もることができない点であり、それが施設を効果的に利用する計画をほぼ不可能にしています。この点についてよく聞かれる懸念は、新しい仲間がミーティングに参加する機会を制限してしまうのではないかと、いうものです。しかし、それは事実とはまったく異なります。新しい仲間向けの登録枠を用意していることに加え、現在の施設利用計画では、登録を必要としないミーティングが、少なくとも一つ以上の近隣施設で常開催されるようになっています。さらに検討されている案として、配信されるミーティングについては登録制としつつ、WCNA ユニティ・デイのイベントは無料または低価格に保つ、というものもあります。

また、開催頻度を 3 年ごとではなく 5 年ごとにするということについても合意が得られました。コンベンションの開催間隔を長くすることで、より特別な出来事となり、メンバーが計画を立てるための時間も十分に確保できると考えられています。メンバーが早い段階から準備できるという利点に加え、ワールドサービス側にとっても、同様に計画期間を延ばすことが可能になります。2028 年から 5 年ご

とに WCNA を開催することにより、NA の節目となる記念年を祝うこともできます。2028 年のコンベンションは、NA 創立 75 周年を記念するものとなります。

最後の要素はローテーション計画です。かつてのローテーション計画は、WCNA を隔回で北米以外で開催することを目標としていましたが、もはや現実的な計画枠組みではありません。特に長期的な視点で見た場合、世界はあまりにも予測不可能です。最も妥当だと考えられるのは、現在のコンベンション・ゾーン・ローテーション計画を撤廃し、意思決定をワールドボードに委ねることです。開催地については、その時点での世界的な政治状況や財政状況を踏まえ、慎重かつ可能な範囲でローテーションが行われるよう検討されます。現在、2 か月に 1 度カンファレンス参加者向けのウェビナーを開催する体制が整っていることにより、今後はこのプロセスにおいて、世界中のデリゲートとの対話が可能となっています。開催地決定のプロセスについては、別紙 C に記載されている「提案されているワールドコンベンション・ガイドライン」の「開催地選定」の項に詳しく記載されています。これらのガイドラインが承認された場合、別紙 D に掲載されている『NA ワールドサービス・ガイド』の該当ページに取って代わることになります。ワールドサービスは、NA が世界的なフェロシップであるという認識のもと、引き続き「ワールド」コンベンションに取り組んでいきますが、イベント計画のはるか前に開催地を決定することは、もはや現実的でも实际的でもないと考えられています。現代の世界は、NA の歴史のどの時点よりも一貫性に欠けており、そのことがイベント計画をこれまで以上に困難なものにしています。ローテーションへの取り組みの一例として、2028 年のコンベンションはヨーロッパで開催する予定であり、本レポートを執筆している現在、開催地の最終調整を行っています。

提案されているガイドラインが明確にしているように、WCNA は単なる大規模イベントではなく、私たちの一致、多様性、そして回復を祝う場です。NA ワールドサービスは、将来の WCNA に向けて、慎重な計画、透明性のあるコミュニケーション、そして世界的な参加に引き続き取り組んでいきます。フェロシップとして共に、これからも多くのワールドコンベンションを迎えることを楽しみにしています。

2028 年、ヨーロッパでお会いできることを願っています！

動議 3 2028 年から、ナルコティクス・アノニマスのワールド・コンベンション (WCNA) を 5 年ごとに開催する。開催地は、少なくとも収支中立となることに資する財政的および地理的な考慮事項に基づき、ワールドボードによって決定される。(GWSNA における WCNA ガイドラインへの具体的な変更は付録 C に示されている。)

提案者：ワールドボード

意図：世界的に大規模イベントの性質が変化している現状を反映し、フェロシップの資源を慎重に活用することを支援するワールド・コンベンション (WCNA) のガイドラインを設けること。

財政的影響：直接的な財政的影響はない。将来発生する可能性のある費用については、プロジェクト計画または予算において明示される。

影響を受ける方針：付録 C で提示されている方針は、付録 D に示されている GWSNA (46～48 ページ) の現行の WCNA ガイドラインに取って代わる。

ジェンダー中立かつ包括的な言語

ジェンダー包括的な言語というテーマは、いまだ苦しんでいるアディクトの中に、ナルコティクス・アノニマスのミーティングにおいて自分は完全には受け入れられておらず、包括されていないと感じている重要な集団が存在する、という事実を端を発しています。ミーティングをどのようにすれば、より歓迎的なものにできるのかという問いは、新しいものではありません。以下の2008年版CARからの一節は、今日書かれたものであっても不自然ではありません。

「NAの多くの美しい側面の一つは、私たちのプログラムが、年齢、人種、経済状況、信条体系などにかかわらず、あらゆるアディクトに機能するという点です。私たちは『大きなテント』のフェローシップです。私たちの課題は、そのことを他者にどのように伝えるかです。私たちは、自分たちのコミュニティにいるすべての人々に対して、私たちが開かれた多様なフェローシップであることを、どのようによりよく示すことができるでしょうか。そして、すべてのアディクトが私たちの部屋の中で等しく安心していられるようにするために、何ができるでしょうか。」

ジェンダー中立の言語という具体的な課題は、直近二つのカンファレンス・サイクルにわたり、フェローシップの関心事項となってきました。このテーマを扱った動議は2020年のCARに掲載されましたが、パンデミックによる制約のため、WSC 2020では審議されませんでした。2023年には、WSCにおいて動議14が可決されました。「NA文書におけるジェンダー特有の言語を、ジェンダー中立で包括的な言語へと変更すること、またはそのための追加表現について調査するプロジェクト計画を、次回WSCで検討できるよう作成することを、ワールドボードに指示する」。

それ以降、カンファレンス参加者はNAWS戦略プランに盛り込むための目標と解決策を特定する作業を共に進めてきました。戦略プランの目的7は、「多様なフェローシップにおける包括性に関する意識を高め、対面およびヴァーチャルのミーティングにおいて、すべてのメンバーおよび潜在的メンバーが安全で、歓迎され、受け入れられていると感じられるよう支援するためのツールを開発すること」としています。これに対応する提案された解決策の一つが、「NA文書におけるジェンダー特有の言語を、ジェンダー中立で包括的な言語へと変更すること、またはそのための追加表現について調査すること」です。

NA文書におけるジェンダー中立の言語は、2023年WSCにおいてイシュー・ディスカッション・トピックとしても選ばれ、このサイクルを通して調査が公開されてきました。5,500人を超えるNAメンバーが意見を共有し、この問題に対して多くのメンバーが強い思いを持っていることが明らかになりました。回答者全体のうち、50%はNA文書の表現をジェンダー包括的に変更することが肯定的な影響をもたらすと考えていると回答しました。一方、約45%は文書の変更を支持していませんでした。フェローシップとして合意を形成するためには、さらなる対話が必要であることは明らかであり、その対話はWSC 2026でも継続されます。注目すべき点として、ロシアから多くの回答が寄せられましたが、同国では現在の法律や政治的圧力により、ジェンダーやアイデンティティに関する問題が特に困難な状況にあります。ある意味で、ロシアからの回答は、NA文書に関連して私たちが扱っている変更の性質とは異なる課題の影響を受けている可能性があります。ロシアからの回答を除くと、NA文書に対するジェンダー中立の変更を支持する割合は62%に、反対は32%に変化します。NAのように多様で国際的なフェローシップにおいて、集合的な意思決定を行うことは困難を伴います。検討されている変更の正確な性質を明確にし、この問題についての対話を継続することが、フェローシップとしての合意形成に役立つことを私たちは願っています。2026年カンファレンス・レポートには、このイシュー・ディスカッション・トピックに関する調査データの集約が含まれる予定です。

ジェンダー中立の言語について話すとき、私たちは実際には三つの異なる事柄を議論しています。それは、メンバーおよび潜在的メンバーを表現するために用いる言葉、神を表現するために用いる言

葉、そしてステップおよび伝統の文言です。これら三つは単一の問題として扱うべきではなく、それぞれ個別に取り上げる必要があります。というのも、それぞれがNA文書に異なる影響を与え、特にステップと伝統については、異なる改訂プロセスが必要となるからです。WSC 2026に向けた出発点として、私たちはまず、メンバーおよび潜在的メンバーを表現するために用いられている言語のみに焦点を当てる予定です。ワールドボードは、動議14の指示に基づき、このテーマに関するプロジェクト計画を提示します。このプロジェクト計画は、2月に発行されるカンファレンス承認トラック（CAT）資料に掲載されます。2025年の中間WSCでは、新規または改訂される回復文書、サービス文書、またはIDTに関する提案は、動議ではなくCARサーベイを通じて提出することが決定されましたが、動議14で求められているプロジェクト計画は、これらのいずれのカテゴリーにも当てはまりません。この動議は即時の改訂を行うことではなく、変更について調査するプロジェクトを求めているため、私たちはこれを独立したプロジェクト計画として扱うことにしました。

メンバーおよび潜在的メンバーに関して、私たちが意味するジェンダー中立の言語とは

NA文書をジェンダー中立にすることに賛成しない意見の中には、NAの文書におけるジェンダー中立の言語が実際に何を意味するのかについて、いくつか誤解に基づいていると思われるものがありました。その明確な例が、IP #7『私はアディクトだろうか?』の最初の段落に見られます。そこでは次のように書かれています。

「ごく簡単に言えば、アディクトとは、人生が薬物によって支配されている人のことである。」

これは、ミーティングでよく読まれているホワイト・ブックの「アディクトとは?」にある次の表現とは異なります。

「簡単に言えば、アディクトとは、人生が薬物によって支配されている男または女（日本語版では人間）のことである。」

「男または女」と「人」という違いは、取るに足らないものに見えるかもしれませんが、私たちの多くにとっては、まさにそのとおりで、区別のない違いです。しかし、あるアディクトにとっては、それが決定的な違いになります。ジェンダー中立の言語は、多くのメンバーが気づきもしない形で、自

NAのミーティングでは、フェローシップで承認された文書であれば、どれでも読み上げることができることをご存じですか。

従来のリーディングカードの代わりに、ジェンダー中立な表現が用いられているNA文書の

（改変していない）抜粋を共有しているグループもあります。私たちは、グループのリーディングをより包括的にしたいと考えている他のグループのために、そうしたアイデアを集めました。詳しくはこちらをご覧ください。

na.org/gender

また、あなたのアイデアを wb@na.org までお送りください。

己同一化への道をなだらかにします。実際、2012年に『Living Clean』が発行されて以降、新しいNA文書がよりジェンダー中立な表現で書かれてきたことに気づいていない人も多くいます。

2023年のWSCにおいて、カンファレンスは『NAサービスのビジョン』を改訂し、「彼または彼女自身の言語と文化」という表現を「彼ら自身の言語と文化」に変更する決定を行いました。この動議（動議5）はコンセンサスにより承認されました。このビジョン・ステートメントは、この議論が本質的に何を意味しているのかを端的に示しています。すなわち、世界中のすべてのアディクトが、私たちのメッセージを体験する機会を持つということです。

私たちの言葉を見直し、NAという“大きなテント”をさらに広げる

一部のメンバーにとって、私たちの『ベーシックテキスト』の文言を変えるという考えは、NAが長年培ってきた強さを失うのではないかという懸念を呼び起こします。彼らは、誰かが表現の仕方を気に入らなければ、そのたびに文献を改訂する前例を作ることを心配しています。文言変更に反対の意見を寄せた人々の一般的な見解は、要するに「壊れていないものを直す必要はない」というものです。しかし、NAの文言が「壊れている」わけではなくとも、実際には全てのアディクトに機能しているわけではありません。NAWSには、文献の性別を意識した表現によって自分が排除されていると感じるメンバーからの声が増えています。特にグループリーディングは、多くのアディクトがNAに初めて触れる機会であり、そこが最初の印象になります。さらに、メンバー調査だけでは最も重要な声を拾いきれません。それは、最初のNAミーティングに行ったものの「自分はここに属していない」と感じ、二度と戻ってこなかった苦しんでいるアディクトの声です。2024年のメンバーシップ調査によれば、メンバーは初めてのNAミーティングを非常に重要と認識しています。「NAに留まろうと思った理由」を尋ねたところ、回答者の83%が「自分に重なる体験（identification）」を重要な要素として挙げています。会話に参加していない潜在的メンバーを無視することはできません。

歴史を振り返ると、『ベーシックテキスト』はまさにこの理由で改訂されてきたことがわかります。

「より多くのアディクトがメンバーとして歓迎されていると感じられるように」するためです。オリジナルの章「How It Works」には、「最初の一度の使用（fix, pill, or drink）を取らないこと以外に、習慣化を防ぐ方法はない」と書かれていました。フェローシップが進化し成長する中で、あるアディクトが声を上げました。「最初の使用」という表現では自分の体験に合わない、と。そこで、より包括的な表現が必要であることが明らかになりました。1986年のワールドサービスカンファレンスでは、『ベーシックテキスト』の文言を次のように改訂する動議が可決されました。「The only way to keep from returning to active addiction is not to take that first drug（盛んに使っていたところのアディクトに逆戻りしない方法はただ一つ、それは最初の一回に手を出さないことだ）」。

このシンプルな変更により、文章の重みは何も失われませんでした。一方で、「fix, pill, or drink」という具体的な言葉に共感できなかったアディクトに対しては、受容と所属感が生まれました。調査回答者の大多数は、「a society of men and women」を「a society of people」と変更することも、同様の効果をもたらすと考えているようです。

～を問わず

私たちは回復の過程で、違いではなく共通点に目を向けることを学びます。しかし、新しく参加したメンバーは、自分自身を「絶対に特別」と考え、違いばかりに注目してしまう傾向があります。私たちが古い文献をより包括的な表現に変えることの意味を議論するとき、精神的な原則である「一体性」が私たちを導きます。包括的な言葉は分断を生むのではなく、むしろその逆です。私たちは人々の社会であり、私たちの主な目的はまだ苦しんでいるアディクトにメッセージを届けることです。個々の信念に関係なく、私たちは世界中のアディクトが歓迎されていると感じられるようにしたいと願っています。私たちの全体の福利が最優先されるべきです。その具体的な実践のあり方については、世界中のワークショップで情熱的で考えさせられる議論が交わされています。

ディスカッションのための質問

2026年WSCでは、会議参加者がこの問題について話し合う時間を持ちます。議論の参考になるように、CARワークショップでこの質問について話し合い、2026年4月1日までに na.org/surveys でフィードバックをお寄せください。

これらの質問の目的においては、CARエッセイで説明されている通り、NA文献におけるジェンダー中立の言語に焦点を当てます。つまり、人々（メンバーや潜在的メンバー）を表す言葉の変更であり、ハイヤーパワーを表す言葉の変更ではありません。例えば「男性と女性」を「人々」に変えるといった言葉の変更は、文献のメッセージの意味を変えるものではなく、より多くの人が共感できるようにするものです。ステップや伝統の言葉遣いについては、将来の議論の対象となります。

私たち全員が、誰もが回復できる安全で歓迎される包括的なフェロシップ（...に関わらず）を提供したいと考えていることを踏まえ、メッセージをより効果的に伝えるために、このような文献上の変更を検討することに同意できますか？もし同意できない場合、その理由は何ですか。

NAにおけるDRT/MAT：メンバーの定着を支援する

今サイクルの各課題討論トピック（IDT）において私たちは、ナルコティクス・アノニマス（NA）における共同生活に深く影響する課題に直面してきました（na.org/idt）。

このワールドサービスカンファレンスにおいて、我々の全体の福利を考えるにあたり、我々の未来は、メッセージが明確であり、ナルコティクス・アノニマスへの扉がすべてのアディクトに開かれていることを確実にすることにかかっていることを認識しています。

誰がNAに来るのか、どのように私たちを見つけ、そして留まるのかという問題は、言うまでもなく私たち全員にとって重要です。私たちは奉仕活動に従事しているのはこのフェローシップを愛し、その存続を願っているからです。IDT「メンバーの定着支援」はアディクトが私たちの門をくぐった後に何が起るのか、そしてどのようにして人々が「定着し続ける」つまりナルコティクス・アノニマスのメンバーになる決断を下すのを支援できるのかを問いました。このIDTへの意見は豊富で感情的なものだった。依存症治療に用いられる薬物問題は20年以上にわたり分断を生む争点であり、多くのメンバーが固執した立場を取っている。回答にはあまりにも多くの痛みと情熱が込められており、読むのが辛いものもあった。850件以上の回答の中には、多くの賢明で思慮深い意見が多様な視点にわたって寄せられていました。しかし特に際立っていたのは、これらの異なる立場から共通して感じられた傷つきと切迫感でした。

多くのメンバーにとって、これは依存症に苦しむ個人とフェローシップそのものの存続に関わる問題のように感じられています。

そして生存をかけて戦う時、私たちは最も心を開くことは稀だ。現時点で最も必要なのはこの問題を取り巻く回復の雰囲気を出することだ。共通基盤は多く存在し、その土台の上にこの対話のための新たな基盤を築き始めることができる。私たちの精神的原則から始めよう。この二極化した世界で、この非常に感情的な問題において、私たちは今のところ、愛と思いやり、そして対立する見解を尊重する意思を持って互いに耳を傾けることに合意できるだろうか？

この問題を議論してきた年月の中で、特に米国におけるNAの成長は横ばい、あるいは減少さえしている。

私たちのメンバーシップサーベイは、より定着したメンバーによって回答されることが多い（去っていった人々の声は捉えられない）。しかし、私たちの人口統計は高齢化が進んでいることがわかる：メンバーの約半数は50歳以上であり、47%のメンバーは10年以上のクリーン歴を持っている。最近のメンバーサーベイは、米国には30歳未満のメンバーが少なく、依存症治療薬を服用してNAにきたメンバーが、フェローシップの他の地域よりも少ないことを示した。米国では治療プログラムが拡大している一方で、それらのプログラムとNAとの関係は弱まっている。

調査によれば、米国では30歳未満のメンバー数が他の地域より少なく、依存症治療薬服用中にNAに参加したメンバーも少ないことが判明した。米国では治療プログラムが拡大しているもののNAとの連携は次第に希薄化している。ロングタイマーを誇りに思う一方でNAの未来はニューカマーや将来のメンバーにかかっていると認識している。

継続するメンバーの82%は、他の仲間との共感と受け入れてもらえた感覚が継続理由だと回答しています：「ニューカマーが長期メンバーとなる機会を得られるよう確保することが極めて重要です」 WCNA 38において、広報セッションに参加した専門家たちはNAへの依存症患者紹介に対する懸念を率直に表明した。彼らが躊躇する主な理由は、薬物依存症治療薬を服用中の依存症患者がNAミーティングで敵意や拒絶的な雰囲気を経験した事例があることだと明確に指摘した。

また、このIDTへの回答として、多くのメンバーが、私たちの完全な誠実さを求めるプログラムにおいて、臨床医だけでなく他のメンバーやスポンサーからも、処方された（場合によっては法的義務として服用を義務付けられた）薬物について共有しないよう助言されたと述べました。あまりにも多くの場所で、私たちはその重要な歓迎や一貫した希望のメッセージを提供できていません。そしてどうやら我々は、アディクトが真実を語ることを恐れるような雰囲気を作り出しているようだ。我々がそうではないことを望もうとも、我々の病を薬物で治療するという考えは消え去る心配がない。むしろ医療的治療は拡大し、ますます精巧になっている。多くの場合、メンバーがそのような治療を受けていることを我々が知る可能性は低い。彼らが自ら話さない限りは。この課題は、ある意味で現在のIDTの動機となった。

どうすれば、門をくぐったアディクトが、我々が持つものを望むほど長くNAに留まるのを助けられるか？この課題は、ある意味で現在のIDTの動機となった。新たなアディクトがNAの扉をくぐった後、私たちが持つものを自ら望むほど長くNAに留まるよう、どう支援できるか？回復を求めるアディクトたち——現時点でNAで聞くメッセージとは全く異なる専門家の助言を受けているかもしれない者たち——が、私たちの生き方を選ぶよう、どう支援できるか？そしてNAを、私たちの誠実さやメッセージを損なうことなく、そうしたアディクトたちにとって歓迎される環境にできるだろうか？

私たちは長年、何らかの形の薬物代替療法について議論してきた。1990年代にはボードがこの問題に関する通達を出した。2006年、私たちはNAのメッセージとは異なる専門家の助言を受けているかもしれない回復を求めるアディクトたちが、私たちの生き方を選ぶよう、どう支援できるか？そしてNAを、私たちの誠実さやメッセージを損なうことなく、そうしたアディクトたちにとって歓迎される環境にできるだろうか？

私たちは長年、何らかの形の薬物代替療法について議論してきた。1990年代には理事会がこの問題に関する通達を出した。2006年、私たちはNAのメッセージとは異なる専門家の助言を受けているかもしれない回復を求めるアディクトたちが、私たちの生き方を選ぶよう、どう支援できるか？そしてNAを、私たちの誠実さやメッセージを私たちは長年、様々な形態の薬物置換療法について議論してきた。

1990年代には理事会がこの主題に関する通達を発行した。

2006年、IDTで「私たちのミーティングから誰が欠けているのか？」と問うた際、薬物依存症治療薬を服用している人々が、私たちが維持できていない層として認識された。

2012年には、第三の伝統（メンバーシップの唯一の要件は使用をやめたいという願望である）に関するIDTが行われ、2012年には第三の伝統に関するIDT（国際開発チーム）会議が開催され、「メンバーシップの唯一の条件は使用をやめたいという願望である」と再確認されました。

2014年には「すべてのメンバーを歓迎する」と題したIDT会議でこの問題が議論の優先事項であると改めて認識されました。

2018年には会議参加者が「DRT/MATがナルコティクス・アノニマスに関連するものとして」と題したIDT会議でこの問題に真正面から取り組みました。

2023年には、このテーマが「ナルコティクスアノニマスに関連するDRT/MAT：メンバーの定着支援」として再掲・拡充された。

2026年カンファレンス議題報告書・長年にわたり多くの議論を重ねてきたにもかかわらず、薬物依存治療薬に関する諸問題への対応について合意に近づいてはいない。しかし一定の進展はあった。ナルコティクスアノニマスに関連するDRT/MAT「メンバーの定着支援」では合意が形成されている。

長年にわたる議論を重ねたにもかかわらず、依存症治療薬に関連する数々の疑問への対応について合意に近づいたとは言えません。しかし一定の進展はありました。団結、歓迎の姿勢、そして私たちのメッセージといった基本的な原則については合意が得られています。

私たちは主に以下の点で合意に至っています

入り口（フロントドア）について：私たちは誰であれナルコティクス・アノニマスへ歓迎し、彼らがここに属するかどうかを決断し、ここで「根を下ろす」方法——すなわち、メンバーとなり新たな生き方を見出す方法を見つける手助けをしたいと考えています。しかし、それらのアディクトがここに来た後、主に奉仕と祝賀（セレブレーション）を巡って困難な問題が生じます。あるメンバーがIDTへの回答で最も的確に述べています（一部要約）：

ニューカマーが初めてNAに参加すること——あるいはMAT治療を受けながら定期的にミーティングに出席すること——自体が問題なのではありません。第三の伝統は確立された原則です：私たちは全ての人を歓迎します。これがフェローシップが直面する正確なジレンマではありません。

真のジレンマは「彼らはメンバーか」あるいは「回復への意志があるか」ではない。「メンバー」とは本人がそう表明した時点で成立し、その意志は測り知れない価値を持つ。

核心は「薬物治療法（MAT）を受けるメンバーを、NAの原則に則り『クリーン』かつ『完全な禁断状態』と認めるか」という点にある。これは単なる意見の相違ではない。

多くのメンバーにとって、これはナルコティクス・アノニマス（NA）の本質と、我々の回復が意味する核心に関わる問題だ。

多くの私たちにとって、これはナルコティクス・アノニマス（NA）とは何か、そして私たちの回復が何を意味するのかという理解の核心に関わる問題です。

この問題を軽視したり、この課題を覆い隠せるかのように装ったりすることはできない。解決する立場にないと言うことは、多くのメンバーにとってこの問題の重大さを認めることだ。これは実際に生死に関わる問題である：もしどちらかの立場を選ぶならば、アディクトは去り、死ぬだろう。そして立場を固めた多くの人々にとって、答えは明白で明らかに見える。

もしこれが簡単に解決できる問題なら、何年も前に解決していたはずだ。何サイクルも前にこの議論を始めた時、私たちはいつか一つの答えに辿り着けると信じていた。つまり、フェローシップが禁断の定義全般と薬物依存症への薬物療法的アプローチに対する立場について、一つの見解にまとまるといふNAにおけるDRT/MAT：メンバーの定着支援、私たちのフェローシップの歴史において、ある問題について合意に至れなかった重要な瞬間が幾度かあった。こうした瞬間は時に論争や分裂によって特徴づけられてきた。

依存症治療のための薬物療法に関する問題において、我々は再び気づいた。薬物依存症の治療のために薬を服用している人が「クリーン」であるかどうかについて、我々には合意が存在しないのだ。サービスパンフレットやニュースレターで提示してきた回答は、メンバーの心と魂の中でこの問題を解決しておらず、アディクトにとっての結果は時に深刻なものとなってきた。

しかし私たちは、今日では、互いに一致と恵みをもって共に生き、回復するための手段を持っていると信じています。たとえ私たちが愛するプログラムの理解に差異があってもです。

このような重大な差異をいかに乗り越えるかを考えるとき、私たちは精神的原則に立ち返ります。それはまず、認めることと委ねることから始まります。

禁酒がNAプログラムと私たちのメッセージに不可欠であることについては、合意が得られています。現時点で明らかなのは、禁断状態を具体的に構成する要素についてメンバー間の合意が依然として存在しないことだ。

我々の多くは回復過程で様々な理由から薬物治療を必要とする経験を持っている：これらの問題の多くは小冊子『*Time of illness*』やIP #30『回復期のメンタルヘルス』で扱ってきた。

我々の多くは薬物治療を依存症という疾患の治療と完全に別個のカテゴリーと見なしているがこれらの薬物（もはや単なるオピオイドやオピオイド遮断薬ではない）が変化するにつれ、ある種の薬物と別の薬物の境界線を引くことはますます困難になっている。私たちは依然としてクリーンを信じるがメンバーはそれを異なる形で定義し経験するそして禁断を構成するものの決定は最終的に回復中の依存者がスポンサーと彼らのより高い力との対話の中で行うものである。回復中に薬物治療を必要とした経験を持つ私たちは厳格な誠実さと説明責任が回復を維持する上で極めて重要だと気づいている。医療提供者、スポンサー、そしてHPとの対話を通じて、私たちは意識的かつ情報に基づいた決断を心がける。それは、私たちの健康と幸福を維持するために最小限の薬物を最短期間で服用するという決断だ。しかし、私たちの健康と幸福は回復に不可欠であり、医療的介入も時にその一部となる。多くの人にとって意外に思えるかもしれないが、この現実への降伏は、あらゆる降伏と同様にある種の自由をもたらす。そしてあらゆる降伏がそうであるように、合意に近づいていないという自覚こそが、この対話に異なるアプローチを取る自由を与えてくれるのだ。禁断に関する多様な視点は、私たちのプログラム内における回復への多様なアプローチを物語っている。しかし私たちが皆知っているのは、このプロセスが機能すること、そしてたとえ長い時間がかかろうとも、このプロセスが真実へと導いてくれると信頼できるということだ。

しかし、私たちのグループの完全性やメッセージが疑問視されていると感じるとき、プロセスを信頼することは簡単なことではない。薬物依存症回復プログラム（NA）に対する薬物依存症治療への挑戦は、これまで見てきたように、第三の伝統と第五の伝統を通して語られることが多い。薬物治療主導の治療がNAに投げかける課題は、これまでのIDTで見てきたように、しばしば第三と第五の伝統を通じて枠組みづけられる。

第三の伝統は、メンバーシップの唯一の要件は使用をやめたいという願望であると告げる；『それは機能する』は「私たちの任務は、その炎を煽ること、消すことではない」と私たちに思い出させる。ミーティングに足を踏み入れるあらゆるアディクト、たとえ使用中の者であっても、軽視できないレベルの意欲を示している」と述べています。第三の伝統に直接的・間接的に焦点を当てた問題討論では、私たちは様々な治療形態に対する意見だけでなく、『ガイディングプリンシプル』が指摘するように、互いに対する懸念点にも向き合いました。NAグループを誰にでも開かれた場所にするには、私たち一人ひとりが役割を果たす必要があります。そのためには、他者の回復に対する懸念を検証することが求められます。新参者は若すぎる、あるいは年を取りすぎているように見えるかもしれません。十分に打ちのめされていない、あるいは十分な苦しみを得ていないように見えるかもしれません。間違った薬物を使用していた、あるいは十分な治療を受けていないと思われるかもしれません。

NAグループを誰にでも開かれた場所にする役割を担っている。そのためには他者の回復に対する我々の懸念を点検する必要がある。新参者は若すぎる、あるいは年を取りすぎているように見えるかもしれない。打ちのめされすぎている、あるいは十分に苦しんでいないように見えるかもしれない。間違った薬物を使用していた、あるいは我々とは異なる使用方法だったかもしれない。まだ保護観察中かもしれない。あるいは我々が意見を持つ薬物を服用しているかもしれない。回復中のアディクトというモデルも、苦しむアディクトのプロファイルも存在せず、メンバー資格に求められる条件は「回復への渴望」のみである——それはアディクトと彼らのより高い力との間に存在する。 私たちの伝統の精神、第三の伝統NAにおけるDRT/MAT：メンバーの定着を支援する

第五の伝統では、私たちの第一の目的——「アディクトなら誰でも薬物使用を止め、使用欲求を失

い、新たな生き方を見出せる」というメッセージを伝えること——を考察する。私たちのDRT/MATに関する対話は、メッセージを伝えることに集中するとき、ある程度、それを聞く人々をコントロールしたいという欲求を手放し、各人が自らのタイミングで理解に至ることを許容できることを思い出させてくれます。これらの対話は重要でしたが、実際の課題は伝統二にあるようです：この問題がNAを「壊す」のではないかと恐れている。私たちの共同体が多様性の中でも生き残るだけの強靱さを持つと信じることは信仰をもって踏み出すことを求める。私たちはいくつかの建設的な合意点を見出してきた。この問題と格闘してきたこの長い年月——数十年にわたり——私たちが結束して共に働き続けてきたことを認めたい。次を取る行動は新たな始まりではなく、その取り組みの継続です。

私たちのコンセンサスはどこに

ベーシックテキストにおけるシンボルの説明では「外側の円は普遍的かつ包括的なプログラムを表し、その中に回復する者のあらゆる表現が収まる余地がある」と記されています。今日、私たちの活力に満ちた多様なプログラムはそれを体現している。そして、フェローシップ全体にわたる私たちの信念を掘り下げてみると、意見や実践の相違が大きい多くの点があるにもかかわらず、私たちは結束して共に回復を続けている。

- ・ 私たちのメッセージは希望と自由の約束である。私たちは、多くの者にとって、この扉をくぐる時、完全な断酒が最初の目標ではないことを理解している
- ・ あるメンバーの言葉によれば、「着陸する前に長い間空港上空を旋回する者もいる」。メンバー資格に必要なのは使用を止めたいという願望だけであり、メンバーの階級は存在しない。誰が何を使用するか、あるいはそれとの関係性を決めるのは我々の仕事ではない。スポンサーとより高い力の導きのもと、メンバー自身がその問いに答えを見出す手助けをすることが我々の役割である。
- ・ 私たちは永遠に非専門家であり、ある意味で組織として、依存症治療分野で行われている議論から自らを排除する選択をしています。依存症治療がほぼ常に活動的な依存状態から何らかの回復形態への移行過程にある人々を対象としていることを理解しています。NAのアプローチは安定化で終わるものではありませんが、多くの点でここから始まります。私たちはこの分野の専門家を尊重し、彼らのアプローチが時代や分野によって変化することを認識しています。私たちのアプローチは変わりません。私たちは共に回復を求めるアディクトであり、提供するものは他者との交わりにおける霊的な道です。私たちは回復を求めるアディクトであり、提供するものは他者との交わりにおける精神的道筋です。
- ・ ナルコティクス・アノニマスはスピリチュアルなプログラムであり、人々の交わりであり、行動のプログラムです。科学ではなく、科学の実践にも関与しませんとはいえ、自らのレンズを通して私たちが自らに映し出してくれた研究者には感謝しています。
- ・ もし私たちが人々をNAに導き、ここに留まらせることができれば、私たちのメッセージは十分に魅力的であり、多くの人々が最終的にクリーンになりたいと願うでしょう。メッセージを理解する前に、あるいは所属感の芽生え後に彼らを追い払うことは致命的です。彼らがメッセージを理解する前や、所属意識をわずかに感じ始めた後に追い払うことは致命的だ。ある古参メンバーはこう語った。「我々は〔薬物依存治療薬を服用する人々〕を、AAの〔初期メンバーが我々を扱ったように〕扱っている！」メンバーを烙印を押すことは、人をクリーンにしない。そして治療専門家の考え方を変えることもない。ただメッセージが届きにくくするだけだ。

プログラムのスピリチュアルな活動はそれ自体が進行する。その作業に深く取り組めば、クリーンになりたいと願うようになる。私たちの任務は、この作業がメンバーを必要な場所に導くと信頼することだ。こうした対話が伝統へと導くことはわかるが、答えは究極的にはステップにあるのかもしれ

ない。

メンバーの定着を支援するこの対話を「正しいか間違っているか」という問題を超えて広げ、代わりにどのようにして人々にNAでのメンバーシップを体験してもらうかを問うことができます。私たちは歓迎の重要性について共通の理解を持っています。依存症という病と闘うすべての人を歓迎したいのです。そして私たちは、そのアディクトのための空間を保ちたいのです：彼らが禁酒・断薬が自分にとって何を意味するのかを理解するまで留まり、自らそれを選択する勇気を持ち続けるために——たとえそこにたどり着くのには一日かかろうと十年かかろうと。私たちはアディクトが再発している時にはこれを理解しています。しかしアディクトが薬物治療に基づく治療を受けている時には、忍耐強くあることが難しいようです。私たちは、人々が「禁酒・断薬は自分にも可能だ」と信じられるほど、慈愛に満ちた受け入れを実践できるだろうか？

物語を変える

私たちの多様性は強みである。それは人口統計学的側面だけでなく、回復へのアプローチにおいても同様だ。これは私たちのメッセージが「薄められている」という意味ではなく、私たちの経験がまさにこれであることを示す：私たちのベーシックテキストはこう語る。私たちは各自でプログラムを理解し、多様な理解を持ちながらも第一の伝統の精神のもと平和に共存する。合意できない点が多いが、私たちは一つのメッセージ、一つの目的、一つのプログラム、そして深い海を導く一連の原則を共有している。一致団結して共に生きることを学ぶには——全員一致ではなく——平静さを実践することが求められます。

今こそ、私たちのメンバーがMATについて互いに同意していないという理解のもと、対話の在り方を変える時です。私たちが同意できる点に焦点を当てることで、前進することが可能になります。NAコミュニティがサービスやお祝いの問題を互いに異なる方法で扱うように、スポンサーが薬物療法を互いに異なる見解で捉えることもあるでしょう。そして、それはおそらく問題ありません。一方で、私たちは前進することができます。その間、私たちは合意を再確認し、アディクトを歓迎し、支え、彼らが自ら理解に至るまで留まるようエネルギーを集中できます。

メンバーがNAに根を下ろす手助けをどうするか問う過程で私たちは重要な事実を確認した：私たちの根はすでに深く絡み合っているのだ。回復する者のあらゆる現れが一体となって集う時、私たちのシンボルは告げる「基盤が広ければ広いほど（数と連帯で一体となるほど）ピラミッドの側面は広がり、頂点は高くそびえる」自由の頂点を。私たちは感謝しています。周囲にこれほどの分断が存在するこの時代に、あらゆる差異を抱えながらも共に立つという強大な能力を示してきたこのフェロシップに共にいられることを。私たちはこの対話を継続し、既に示されている結束を認めつつ、それを基盤により広い扉、より広い基盤、そしてここからいかに成長するかというより深い理解を築いていくことを楽しみにしています。まず、地域コミュニティの実体験を求める非常に基本的な質問から始めます。

ディスカッションの質問

WSC 2026では、CPがこの問題について議論する時間を設けます。議論の参考とするため、CARワークショップでこれらの質問について話し合い、2026年4月1日までにna.org/surveysからフィードバックをお寄せください。

- あなたのグループやエリアでは、メンバーがお祝いやサービスに立つ際、薬物依存症治療薬（MAT）を服用しているかどうかを確認していますか？確認した場合、次にどのような対応を取っていますか？
- 私たちの違いを踏まえ、どのようにして結束を育み、各メンバーの回復プロセスを尊重できるでしょうか？自分自身の懸念を乗り越え、回復プロセスが自分と異なる新メンバーが地域コミュニティに根を下ろすのを、どのように支援できるでしょうか？

文献・サービス資料・IDT調査

2016年以降、会議では会議議題報告書（CAR）内の調査を通じて、回復文献・サービス資料・議題討論トピック（IDT）の優先順位設定を参加者が行う際の指針として活用してきました。この方法で優先順位を付ける利点は、フェローシップと会議が全てのアイデアをまとめて検討できることです。個々の動議を単独で投票すると、他の議題や最初に取り組むべき最重要事項、特定のサイクルで達成可能な範囲などが考慮されません。

調査の構成方法

今年は、会議参加者（CP）がCAR調査の主要な作成作業を担当しました。2025年中間WSCは動議（#5）「現在の会議サイクルに限り、以下の事項を採用する：

今年、会議参加者（CP）がCAR調査をまとめる中心的な作業を行いました。このCAR調査では、回復文献、サービス資料、および議題討論トピック（IDTs）に関するアイデアを検討します。2026年会議アジェンダ報告書向けに、特定のサービス資料、回復文献、またはIDTsを作成するプロジェクト計画の動議を提出する代わりに、会議参加者は、2026年CAR調査への掲載候補としてそれらのアイデアを提出します。」

2023年WSCで承認されたプロセスとタイムラインの詳細は、『NA世界サービスガイド』21ページに記載されています：na.org/gwsna/

会議参加者が共同でCAR調査を作成し、サービス資料・回復文献・議題討論トピックのアイデアを可能な限り広く収集する意図でした。オンラインフォームを通じてCPやフェローシップメンバーから提案を受け付けます。会議は白紙状態からの開始を決定しました。2023年版CAR調査は参考資料として配布されましたが、会議参加者または他のメンバーが要請しない限り、そのアイデアは自動的に引き継がれませんでした。

500件以上のアイデアが寄せられたため、ワールドボードは類似したアイデアを統合し、より広範なトピックの短いリストを作成しました。例えば、フェローシップ発展に関するサービス資料について、6件の異なる意見が寄せられました。これら全てのアイデアは、調査項目「新たなサービス基本/サービスパンフレット：フェローシップ発展」にまとめられています。提案内容には、アウトリーチのベストプラクティス、FD（フェローシップ発展）の定義、委員会ガイドラインなどが含まれます。

この手法は合意形成の精神に沿ったものです。まず全員が合意できる広範なアイデアから始め、その後具体的な内容を発展させるのです。リストがまとめられた後、会議参加者は優先順位付けを2回行いました。過去数年間、多くのメンバーからリストが長すぎるとの声が寄せられたため、CPはより短いリスト作成を目的に優先順位付けを行いました。その結果が、以下に示すリストです。

このプロセスを用いてCAR調査を作成するのは今回が初めてです。過去にはメンバーからの提出を

求めましたが、オンラインフォームは存在しませんでした。ワールドボードはサイクル全体で提出・聴取された全てのアイデアを統合・編集し、フェローシップのニーズを反映すべく最善を尽くしました。その結果、より少ないアイデアからより長い調査票が作成されました。通常は調査票草案をCAR掲載前に会議参加者に意見募集として送付していましたが、CPはアイデアの優先順位付けやリストの絞り込みを行わず、今回のサイクルのように複数回のレビューに関与することはありませんでした。

会議が新プロセス継続を選択すれば確実に改善されるでしょう。例えば会議参加者はCAR調査プロセスの初期段階でウェブ会議や何らかのフォーラムをアイデア議論の場として希望していることが判明しています。今サイクルでは実施できませんでしたが次サイクルでは実施することでプロセス改善につながる可能性があります頻繁に寄せられたもう一つの意見は、CAR調査の名称を、メンバーにとってより説明的で魅力的なものに変更すべきだということです。いくつかのアイデアは集めましたが、現時点で寄せられた案のいずれも、CAR調査の全容を捉えたものではありません。会議が新プロセスを継続的に実施することを決定した場合、次回に向けて何を改善すべきか、皆さんと話し合うことを楽しみにしています。

CAR調査の結果はどのようなのか

NAワールドサービス業務の大半は各サイクルでほぼ一貫しています——出版物制作、報告業務、翻訳、発送、必要とするメンバーやコミュニティへの資料送付、広報ウェブ会議など多岐に渡ります

また、ワールドサービス会議で承認されたプロジェクトも実施しています。プロジェクト作業はサイクルごとに異なり、目標達成や目的遂行が目的です。この種の作業の大半はNAWS戦略計画（付録B）に記載されています。戦略計画の解決策の多くは、WSC（2月3日開催）の90日前に公開される会議承認トラック資料に含まれるプロジェクト計画につながります。資料の概要は、本CARの序文（4ページ参照）で簡潔に説明されています。

2016年以降、理事会は回復文献・サービス資料・議題討論トピックに関する一般的なプロジェクト計画を、特定の焦点なしに提示してきました。CAR調査結果は、これらのプロジェクトの焦点に関する会議の決定を導く助けとなります。

（19～24ページ参照）で説明している通り、我々は新たな共同計画プロセスを開始したばかりで、CAR調査はまだ我々が望むほどプロセスに統合されていません。CAR調査とNAWS戦略計画は、本質的に、次のサイクルで必要な作業を示す二つの異なる方法であり、これらをより良く「連携させる」方法を見つける必要があります。

今後のサイクルでは、計画とCAR調査のよりシームレスな連携を期待しています。その間、各項目と戦略計画目標の関連性を示すため、CAR調査に戦略計画目標番号を記載する列を追加しました。関連性が明らかな場合もあれば、必ずしもスムーズに一致しないケースもあります。項目優先順位付けの検討材料として、目標番号を参考情報として提供しています。また、次ページ以降の各セクション導入部にもいくつかの考察を記載しています。CAR調査および計画プロセス（過去のプロジェクト進捗状況を含む）の詳細については、会議ページ（na.org/planning）の計画セクションに掲載されている「現行プロジェクトの進捗状況」文書をご覧ください。本CAR（2025年10月号）作成時点において、プロジェクト状況文書は2024年7月以降更新されていません。WSC開催前には更新を予定しています。

調査票の記入方法

関心のあるメンバーの皆様は、本CARに掲載されている調査票およびna.org/surveyに掲載されている調査票に記入してください。

各カテゴリーから2項目を選択してください。オンライン回答はランダム化されているため、オンライン調査を記入する際の順序はここに記載されている順序とは異なります。そのためリストに番号を振っています。番号は重要度を示すものではなく、各項目を素早く識別するためのものです。したがって、45番と67番（実際の番号はここまで高くありません！）を選択した場合、オンライン調査記入時にこれらの番号を探せばよいことになります。代議員はまた、na.org/surveyで調査に記入する際、所属地域・ゾーンの良心に基づいて回答してください。

私たちは二種類の結果をまとめます――メンバーからのものと、会議参加者（議席を持つ地域・ゾーン）からのものです。結果は世界サービス会議（WSC）で配布され会議議事録の付録として含まれます。

2026年4月1日までにアンケートにご回答ください。そうすれば、会議で検討するために皆様の回答をまとめる時間が確保できます。

優先事項を選ぶ際、理想的には個人の好みやグループ・地域の好みだけでなく、NAの広い世界全体に利益をもたらすものを考慮すべきです。時には、十分な支援や代表を得られていない層を考えることも必要です。もし全員が自己の利益を優先していたら、「若年依存者」や「追加的ニーズ」を持つ人々向けのIPは決して出版されなかったでしょう。また、優先順位をすべて満たす時間がない可能性もまた、優先順位付けされた全てを実行する時間的余裕がない可能性がある点も念頭に置いてください。ニーズは常にリソースを上回ります。それが私たちの活動の本質なのです。

回復文献

以下に挙げる項目の多くは継続的なフェローシップの議論および／または会議での行動の対象となってきました。

「破壊的・搾取的行動への対応」は前回のサイクルにおける議題討論テーマでありフェローシップからの意見はこのテーマに関する新規または改訂資料への要望を明確に示していました。

今回のサイクルにおける別の議題討論テーマは「NAに関連するDRT/MAT：メンバーの定着支援」でした。本CAR掲載の論考が示す通り、当フェローシップはこの問題に関して意見が分かれているようです（33ページ参照）。2026年WSCで本テーマに関する議論を行う予定であり、na.org/surveyに議論用質問を掲載したアンケートを公開しています。

NAにおけるジェンダーニュートラルかつ包括的な言語文献は、このサイクルにおける第三の議題討論トピックでした。ここでもまた、フェローシップはこのトピックについて合意に達していないようです。NAに関連するDRT/MATと同様に、本号CAR（30ページ参照）に論考と討論質問を掲載し、2026年WSCでこのトピックについて討論を行う予定です。会議承認トラック（CAR）資料内のプロジェクト計画案の一つは、2023年の動議#14「ワールドボードに対し、次期WSCで審議するためのプロジェクト計画案を作成し、NA文献における性別固有の表現からジェンダーニュートラルかつ包括的な表現への変更および/または追加文言を検討するよう指示する」の指示に基づき、このテーマに関するものとなります。

ステップ資料の改訂に関する動議が承認されました。補足説明：ご記憶の方もおられるでしょうが2023年のCAR調査には新規・改訂ステップ資料に関連する項目が複数含まれていました。「新規・改訂回復文献プロジェクト計画」で会議が承認した重点事項の一つはフェローシップへの調査を通じてメンバーが求める新規・改訂ステップ関連資料を特定することでした。調査は実施されましたがフェローシップへの調査を実施しましたが、明確な方向性は見られませんでした。新規メンバー向け資料を希望するメンバーもいれば、長期メンバー向け、収監中のメンバー向けを望むメンバーもいます。

既存資料の改訂を希望するメンバーもあり、合意は形成されていません。さらに、NAサバイバルキットが刊行される前にメンバーを対象に調査を実施したため、その刊行物によってメンバーが表明したニーズの一部は満たされる可能性がある。代わりに、今後のサイクルではサービス資料の改訂に多くの努力を集中させたいと考えている。これについては本調査の次節で詳しく述べる。

ステップワーク教材に関する調査結果は、『カンファレンス・レポート』で報告される予定だ。同様に、議題討論トピックの要約も掲載される。

今後の作業／プロジェクト計画における優先順位設定の参考とするため、以下の各カテゴリーから最大2つまで選択してください。

リストの右欄には、CAR調査項目とNAWS戦略計画（付録B）の関連性を示す戦略計画目標番号が記載されています。

新たな回復文献（最大2つ選択）

1	新規IP/小冊子：破壊的・搾取の行動。行動の特定方法や安全な環境構築のアイデアを含む。	7
2	新規IP/小冊子：バーチャル回復。画面上でのクリーン達成法、オンラインミーティング用グループ小冊子、バーチャルメンバー制度と奉仕の基本、オンラインミーティング行動指針のアイデアを含む。	3
3	新規書籍/ワークブック/学習ガイド：『12の概念』。アイデア例：概念実践ガイド、奉仕委員会向け指針原則。	4
4	新規IP/小冊子：DRT/MAT（薬物依存治療）。明確な立場の確立、クリーン/禁断の定義、奉仕資格の明確化、外部問題としての位置付け、命を救い根付かせる支援、個人の経験の共有、PRとMAT、その他の医療治療（医療用マリファナ/治療用サイケデリクス）などを含む。	8
5	新規ステップガイド：回復の基盤。回復の基盤となるステップの理解を深めるためのガイド。	7
6	新規IP/小冊子：回復中の女性。男性中心のコミュニティでのメッセージ伝達、母性、更年期、経験共有など女性特有の課題を含む。	7
7	新規IP/小冊子：ニューカマーの受け入れと定着支援。アイデアにはニューカマーの対応方法とニューカマーへの接し方を含む。	7
8	新規回復文献は作成しない。	

目標はNAWS戦略計画の一部であり、付録Bに含まれる

回復文献の改訂（最大2つ選択）

1	冊子『壁の向こう側』（1990年）を更新。アイデアには、利用可能なサービスの追加	7
2	第11の伝統を改訂し「ソーシャルメディア」を含める	1
3	小冊子『病気の時』（2010年）を更新。提案：医療用マリファナ、サイケデリック薬の治療的利用、処方薬に関する明確化についての情報を追加。	8
4	性中立的な表現。NA文献における性別固有の表現から、性中立的かつ包括的な表現への変更および／または追加表現を検討。	7
5	ステップワークガイドを改訂。提案：誘導質問の削減、ステップ1の質問数の削減、日記執筆の促進、プロセスの効率化、質問への番号付け。	7
6	P #26『特別な支援を必要とする方々のためのアクセシビリティ』（1998年）の更新。提案事項：最新技術の認知、非可視的障害に関する内容の追加。	7
7	文献全体における「神」の言及を「より高い力」に置き換える	7
8	IP #24「金銭問題」（2010年）を更新する。提案事項：ゾーンフォーラムとデジタル寄付に関する情報を追加する。	6
9	文献の改定の必要なし	

サービス資料

2023-2026年度第4回議題討論トピックは「サービス委員会の再構想と活性化」であった。このトピックに関するフェローシップからの意見は『計画の基本』の更新を繰り返し示唆する内容であった。回復文献セクションの冒頭で説明した通り：「破壊的・搾取的行動への対応」は前サイクルの議題議論トピックであり、フェローシップからの意見は明らかに、このトピックに関する新規または改訂された資料への要望を示していました。新しいサービスツールのアイデアは貴重であり、それらを聞きたいとは思いますが、現在の経験と現実を反映するために更新が必要な非常に古いサービス資料も数多く存在します。今回の共同計画の過程で、私たちは繰り返し、『グループブックレット』と『地域サービスガイド』の改訂が、計画の複数の目標に向けた進展につながるという意見を聞きました。これらの項目を優先すれば、理事会はゾーンや地域と連携し、フェローシップ全体からベストプラクティスを収集し、改訂草案がNAで効果を上げている実践を反映させることができます。これは次サイクルの注目の大部分を占めるでしょうが、多くのニーズに応える作業となるでしょう。サービス資料セクションは、回復文献と同様に、新規資料のアイデアと改訂案に分けました。

新しいサービス資料（最大2つ選択）

1	新サービス基本/サービスパンフレット：奉仕におけるメンターシップ。アイデアには実践的なトレーニングや奉仕団体におけるメンターシップの実施方法が含まれます。	5
2	新サービス基本/サービスパンフレット：フェローシップ開発。アイデアにはアウトリーチのベストプラクティス、FD（フェローシップ開発）の定義、委員会のガイドラインが含まれます	
3	新規奉仕活動基本事項/奉仕パンフレット：バーチャル奉仕活動。バーチャルプラットフォームのガイドライン、広報活動、バーチャルエリア・地域、バーチャルグループと奉仕体制の連携、バーチャルまたはハイブリッド形式の奉仕集会など	3
4	新規サービス基本/サービスパンフレット：ソーシャルメディア。アイデアには、広報活動におけるAIの活用やソーシャルメディアにおける伝統の適用が含まれます	1
5	新規サービス基本/サービスパンフレット：GSRオリエンテーション/ワークショップガイド	4
6	新規サービス基本/サービスパンフレット：グループインベントリ/年次レビュー実施用グループパンフレット	4
7	新規サービス基本/サービスパンフレット：エリアサービス基本	4
8	新規サービス基本/サービスパンフレット：グループ及びサービス組織向け電子資金管理ツール	6
9	新規サービス基本/サービスパンフレット：信頼される奉仕者の育成	5
10	新規サービス基本/サービスパンフレット：政府/刑事司法向け広報ツール	2
11	新規サービス基本/サービスパンフレット：全レベルでのサービス協力	4
12	新規サービス基本/サービスパンフレット：サービスにおけるローテーションと継続性	5
13	新規サービス資料なし。	

サービス資料の改訂（最大2つまで選択）

1. 『地域サービスガイド』の改訂。提案事項：『地域サービスガイド』に代わる現代的なサービスツールの作成、時代遅れの情報削除、地方・遠隔地域に関する情報の追加、ゾーンに関する情報の追加、ベストプラクティスの拡充。	4
--	---

2. 『グループ小冊子』の改訂。提案事項：捕食的行動への対応、メンバーの受け入れ方、バーチャルNA、伝統と概念研究ミーティングの重要性、共通ニーズミーティング、信頼される奉仕者の役割に関する詳細情報の追加	7
3. 『SP 破壊的・暴力的行動』の改訂。提案事項：捕食的行動に関するセクションの追加、オンラインミーティングへの対応、IDTからのテキスト追加	7
4. SPソーシャルメディア改訂。提案事項：オンラインミーティング情報追加、ソーシャルネットワーキング指針更新、PR及びH&I情報を含むこと。	1
5. H&Iハンドブック改訂	1
6. PRハンドブック改訂	1
7. 計画の基本改訂	4
8. サービス資料の改訂なし	

議題討論トピック

議題討論トピックとは、まさにその名の通りフェローシップ全体で会議と会議の間に議論される課題です。これらの議論の結果はNAのベストプラクティスの一部となり複数のサービスパンフレットやその他のツール・文献の基盤を築いてきました。これには「強固なホームグループ構築」ワークシートや「サービスにおける原則とリーダーシップ」「破壊的・暴力的な行動」「資金管理IP」などが含まれます。下記の選択肢から最大2つを選択することで、WSCが次期サイクルの議題討論トピックを選定する際に役立ちます。NAサービスにおける原則とリーダーシップや破壊的・暴力的な行動、資金管理IPなど、数多くのサービスパンフレットやその他のツール・文献の基盤を築いてきました。下記の選択肢から最大2つ（2）を選択いただくことで、WSCが次期サイクルの課題討論テーマを選定する際の参考となります。再度お願いいたしますが、2026年4月1日までにna.org/survey の調査にご回答ください。ご協力に心より感謝申し上げます。

IDT（最大2つまで選択）

1. メンバーをサービスに誘致する。	5
2. 意思決定／委任 — 提案には合意に基づく意思決定およびNAサービスに対する責任と権限が含まれる。	4
3. 破壊的・捕食的行動 — 提案には保護方針、サービスミーティングでの攻撃的行為、人種差別、性的捕食行為、安全で包括的な環境の構築、法的決定とグループ決定の境界線、携帯電話の使用、ミーティングへの子どもの参加が含まれる	7
4. 結束 — 外部政治の影響を受けずNAの結束を維持する方策	7
5. アディクトがNAを見つける支援 — アディクトとミーティング、参加者同士を繋ぐ技術活用	7
6. 資金の使用・流れ・調達 — 50/50ラッフル、資金の流れにおける障害、電子資金における匿名性などが挙げられる	6
7. ソーシャルメディア — グループの活用や広報ツールとしてのソーシャルメディアなどが挙げられる	1
8. ベテランメンバーの維持	7

リージョナルモーション

このCARにおいてリージョンから2件の動議が提出されたことはWSCの常態とは言えないが、より協力的で議論を重視した会議への転換を示す兆しかもしれない。NAの歴史上初めて、会議全体が戦略計画を共同で作成し、暫定WSCは動議5を可決しました。これは実験として、新規および改訂された回復文献やサービス資料に関する全てのアイデアをCAR調査に含めることを決定したものです。これにより、それらのアイデアはCAR動議として個別に議論されるのではなく、互いに並べて検討され優先順位が付けられるようになりました。議論と決定のための動議がわずか2件しかないため、討論と決定のための動議がわずか2件に限定されたことで、WSC期間中に参加者がNA全体に影響する課題について話し合う時間をより多く確保でき、共同計画の次なるステップを練り上げる作業に充てる時間も増える見込みです。CAR調査とNAWS戦略計画の詳細は、本会議議題報告書の該当セクションをご参照ください。

リージョン／ゾーン動議プロセス

CARへの動議草案提出期限は2025年7月1日、最終草案は2025年8月3日でした。7月1日時点で9件の動議草案が提出されました。その後1か月間、理事会は動議作成者と連携し、動議を「CAR対応」とするための支援を行いました。『ワールドサービスガイド』（na.org/gwsna）の19～20ページに、動議が「CAR対応」となる要件が説明されています。

今回のサイクルでも同様、ワールドボードは動議作成者との協議を通じて会議の採決を必要としない解決策を模索することが多かった。我々は複数の合意に達しその他の提案については既にCAR調査に含まれる項目で対応済みであることを説明した結果、今回のCARに掲載されている2件の地域動議が最終案となった。

本WSCで提出されたものの手続き上不適格だった2件の動議は、第11の伝統の変更に関するものでした。現在動議5で採択された実験期間中であるため、このような変更はCAR調査に提出されるべきであり、この案は既に調査に含まれていました。動議提出者は、CAR調査で既に対処されているため、動議を提出しないことが論理的であると合意しました。

三件（3）の動議草案は、追加の年次「スペシャルデイ」の設置に関するものでした。2018年WSCで採択され、スポンサーシップ・デーとサービス・デー創設の根拠となった動議は、これらの「スペシャルデイ」を定義する権限をワールドボードに付与していました。この理解に基づき、ワールドボードと動議提出者は、追加日の設定に関する決定はCARへの動議提出や正式な会議決議を経ずと対応可能であることに合意した。ボードは、今回のWSC終了後、適切な時期にCPを対象にアンケート調査を実施し、追加の「スペシャルデイ」設定の要望があるかどうかを確認することに合意した。

もう一つの動議案はWCNAの「手頃な価格の」一日登録に関するものでした。ワールドボードはWCNAの登録料金設定に責任を負っており、この提案を今後のWCNA計画の参考として受け入れています。

最後に、ボードが動議に代わる形で一つのリージョンと合意した事項は、ワールドサービスによる世界的な文献供給の途絶えぬ継続へのコミットメントに関するものです。このWSC後、理事会は文献配布・販売方針を策定し、現行の慣行を説明した上でna.orgに掲載します。これら全ての合意は、WBとの協力方法の優れた事例です。多くの場合、アイデアや懸念事項はCAR動議を必要とせず解決可能です。WBは、関心のあるメンバーがいつでもwb@na.org宛にメールで連絡を取り、対話を開始するこ

とを常に推奨しています。WBは、関心を持つメンバーがwb@na.org宛てのメールで対話を開始するよう常に推奨しています。これはサイクル中のいつでも可能であり、WSCに先立つCAR動議の締切を待つ必要はありません。多くの状況では、動議が起草されるずっと前に解決策を見出すことができます。

WSC審議のためのリージョン動議

動議4 WBに対し、2029年WSCで審議するためのプロジェクト計画を作成するよう指示する。既存の第五版ベーシックテキストのIP版および音声版に加え、受刑者用タブレット端末において書籍規模の文献を提供する機会と障壁を調査・検討する。

提案者：アリゾナ地域

共同提案者：フロリダ、オハイオ、北カリフォルニア、南カリフォルニア、スウェーデン、英国、ユタ

意図：会議とフェローシップが、受刑者向けタブレット端末への書籍規模の文献提供に関する機会と障壁を有意義に議論する能力を付与すること。

リージョン別根拠：ナルコティクス・アノニマスは、壁の向こうにいるメンバーを含む、回復を求めるすべてのアディクトに希望と自由のメッセージを伝えるために存在する。矯正施設が物理的な書籍から安全なデジタルタブレットへ移行するにつれ、多くの収監中のアディクトは『今日だけ』『HOW & WHY』『リビンググリーン』といった長編NA文献から遮断されつつある。対策がなければ、この移行により最も孤立したメンバーの一部が私たちのメッセージの基盤に触れる機会が制限される恐れがある。

本動議を承認することで、ワールドボードは刑務所タブレットシステムを通じてフェローシップの書籍級文献を提供する実践的かつ原則に則った方法を模索するプロジェクト計画を策定できるようになります。この計画では、物流・法的・財政的・フェローシップ関連の課題を検証し、フェローシップ知的財産信託（FIPT）に明記された自己支援の原則を遵守し、NAの知的財産の完全性を維持するアプローチを確保します。

多くの収監メンバーは既に、施設の政策や地理的条件によって文献へのアクセス格差に直面しています。デジタルオプションの模索は、変化する環境に適応しつつ、こうした不平等に対応する上でフェローシップの助けとなります。また、矯正施設との信頼される奉仕者としての関係を強化し、経済的資源が限られている人々にもNA文献が確実にアクセス可能となる機会をもたらします。

本動議を支持することで、WSCは、状況にかかわらず全てのアディクトへのメッセージ伝達へのコミットメントを再確認し、ワールドボードが積極的に行動し、フェローシップによる検討と承認のための情報に基づいた選択肢を持ち帰ることを可能にします。

財政的影響：プロジェクト計画の作成には最小限の費用しかかかりません。WSCが計画を採択し優先する場合、NAWSの費用はプロジェクト自体にかかることになります。

影響を受ける政策：なし

影響を受ける方針：なし

WBの見解：WBは、収監者を含む全てのアディクトがNA文献と回復のメッセージにアクセスできることを確保するという提案者の決意を共有します。矯正施設における印刷書籍からデジタルタブレットへの移行が機会と課題の両方をもたらすことを認識しています。

本動議は不要であると考えます。NAワールドサービスはすでに、自己支援とフェローシップ知的財産信託（FIPT）の完全性を維持しつつ、矯正施設での文献アクセスを実現する継続的取り組みを進めている。現在、ベンダーや関係部門と連携し、na.orgで既に利用可能な資料を無償で提供している。ベ-

シック・テキストは12言語で音声版が利用可能であり、IP（回復のステップと12の伝統）、小冊子、翻訳資料は61言語でアクセス可能です。

受刑者向けタブレットアクセス申請方法の詳細情報が必要なH&I（回復の支援）の信頼された奉仕者は、na.org/prを参照してください。

タブレットでの書籍全文提供は単純な解決策ではありません。矯正環境は大きく異なり、多くの施設では依然として物理的な書籍が必要です。私たちが無料で提供する資料に対して課金する営利目的のタブレット企業とは契約しません。我々の焦点は商業化ではなく、アクセシビリティにあります。

NAワールドサービスは依然として文献販売によって主に資金調達されており、その相当部分が収監中のアディクトを支援する取り組みから得られていることを認識することが重要です。我々は多くのリソースを無料で提供しています。それは我々の使命を深く信じているからです。同時に、そのメッセージを世界中に伝えるサービスを持続可能に保つことも必須です。かつて主要タイトルのPDFをオンライン提供していましたが、大規模な無断流通により削除せざるを得ませんでした。現在、受刑者用タブレットで最も頻繁にアクセスされるリソースは音声教材、特にスペイン語版です。

この状況が最近の録音プロジェクトの方向性を決定づけています。20年以上にわたる慣行通り、NAWSは引き続き収監中のメンバーから要請があれば無料で文献を提供し、継続的な連絡後にベシック・テキストを提供します。

また、施設内へのミーティング導入や社会復帰支援（薬物依存治療薬を服用するメンバーがNAで受け入れられるよう支援を含む）におけるH&I活動の重要性を認識しています。

デジタルツールは進化を続ける一方、技術・人的つながり・財政的責任を組み合わせたバランスの取れたアプローチこそが、メッセージを伝える最も効果的な方法であり続けます。本動議の趣旨は、NAワールドサービスで既に進行中の取り組みと合致しています。

動議5 ワールドボードに対し、WSC会議（対面・オンライン双方）にて現行の人間による言語通訳に代わり、人工知能（AI）通訳ソリューションを導入するよう指示する。

提案者：サウスフロリダ地域共同提案者：イラン、アメリカ

提案者：南フロリダ地域

共同提案者：イラン、英国、ネパール

趣旨：言語障壁を排除し、世界中の全ての声が確実に届くようにするとともに、業務会議におけるコミュニケーションと時間効率を向上させる。本施策はまた、セッション中の人間による通訳ミスや欠席リスクの低減も目的とする。

リージョン別根拠：本施策の意図について補足説明を行う。

我々の目的は、英語を第一言語としない地域代表（RD）及び地区代表（AD）が、直接議論において母国語で自らの見解をより効果的に表明できるよう支援することである。これにより通訳への依存度が低下する。さらに、このアプローチは第二の理念と整合します：サービス構造はグループから精神的ガイダンスを含む指導と資源を求めるものであり、この文脈では良心の問題と捉えています。

財務的影響：本技術導入の財務的影響は重大と予想されますが、詳細な分析待ちのため未確定です。

影響を受ける方針：なし

WBの見解：WBは、特に英語を第一言語としないメンバーにとって、WSCにおけるコミュニケーションと参加の改善という目標を共有しています。参加の障壁を取り除くことは、私たちが深く重視するものです。

しかしながら、この動議は、会議が適応し、タイムリーな運営上の決定を行う能力を制限すること

になります。私たちは、アクセシビリティと効率性を高めるための新技術の試行を支持しますが、この動議は特定のツール—AI通訳—を人間の通訳者に代わるものとして義務付けるものです。その代替が懸念されます。人間の通訳者は、ほぼ常にNAのメンバーであり、正確性をもたらします。アクセシビリティと効率性を高める新技術の実験は支持しますが、本動議はAI通訳という特定ツールを義務付け、人間通訳者を置き換えることを求めています。この置換が懸念点です。人間通訳者（ほぼ常にNAメンバー）は、技術では再現できない正確性、文化的理解、精神的繋がりを提供します。彼らを置き換えることはWSCにおける効果的なコミュニケーションを損なうでしょう。

私たちは長年、WSC参加者が自らプロセス変更を検証・決定するのが最適だと主張してきた。2023年CAR対応書にも明記されている通り：「WSC会議に影響するプロセスに関する決定を参加者に委ねることは、CARを通じた変更よりもはるかに柔軟である」技術の急速な進化を考慮すれば、硬直的な方針よりも柔軟性の方が現実的である。

AIツールは小規模な場や会議間の補助手段として—代替ではなく—検討の余地はあるが、試験運用や研究なしに現時点で義務化するのは時期尚早だ。WSC通訳者は単なる翻訳を超え、回復の概念、感情のニュアンス、理解に不可欠な文化的背景を伝達する。またセッション間の参加者支援を通じ、AIが未だ提供できない双方向コミュニケーションを確保している。

会議の議論には機密事項が含まれる場合がある。AIシステムは潜在的なプライバシーリスクを伴い、人間の通訳者が持つNAの伝統への理解を欠いている。現行技術は正確性、速度、文脈理解——特に我々の専門的な回復用語——においても課題を抱えている。

WBは、コミュニケーション支援のための新ツールの継続的探求を支持するが、人間通訳者の代替として義務付けるものではない。WSCの成功は、柔軟性、包括性、そして精神的な繋がりに依存しており、自動化ではない。技術の進化が続く中、会議レベルでの継続的な実験と対話を奨励する。

動議、アンケート、討論質問

グループの良心収集シート

本シートは、会議議題報告書（CAR）の動議、アンケート、討論質問に対する回答を収集するために作成しました。CARは会議ウェブページna.org/conferenceからダウンロード可能です。動議とアンケートに加え、CARには重要な関連内容を含むエッセイが収録されています。CARの公開後間もなく、その要約動画がna.org/conferenceで公開されます

動議 MOTIONS

1	付録Aに含まれる改訂版IP #21「LONER」を、現在のIP #21「孤独な者—孤立状態でのクリーン維持」に代わるフェローシップ承認回復文献として承認する 提案者：ワールドボード 意図：1986年に当初承認された本IPを、現在のフェローシップの経験に基づいて更新する 本テーマの詳細はCAR17ページを参照のこと。	YES	NO	ABS
2	付録Bに収録された共同作成による「2026-2029年NAワールドサービス戦略計画」を採択する。 提案者：ワールドボード 趣旨：WSC2023で開始され、本サイクルを通じてゾーン及びカンファレンス参加者の関与を得て継続された共同計画の成果を承認する。 本議題の詳細はCAR19ページを参照のこと。	YES	NO	ABS
3	ナルコティクス・アノニマス世界大会（WCNA）を2028年より5年ごとに開催すること。開催地は財政的・地理的要因（最低限収支均衡が図れる条件）に基づき世界理事会が決定する。（GWSNA WCNAガイドラインの具体的な変更点は付録Cに記載） 提案者：世界理事会 趣旨：世界規模の大型イベントの変容する性質を反映し、フェローシップ資源の慎重な運用を支えるWCNAガイドラインを確立するため。 本テーマの詳細はCAR25ページを参照のこと。	YES	NO	ABS

4	<p>世界理事会に対し、2029年WSCで審議するためのプロジェクト計画を作成するよう指示する。既存の第五版ベーシックテキストのIP版・音声版に加え、受刑者用タブレット端末で書籍規模の文献を提供する機会と障壁を調査・検討するものとする。</p> <p>提案者：アリゾナ地域</p> <p>共同提案者：フロリダ、オハイオ、北カリフォルニア、南カリフォルニア、スウェーデン、英国、ユタ</p> <p>趣旨：会議およびフェローシップが、受刑者向けタブレット端末への書籍規模の文献提供に関する機会と障壁を実質的に議論する能力を付与すること。</p> <p>このトピックの詳細については、CARの4参照のこと。</p>	YES	NO	ABS
5	<p>ワールドボードに対し、WSC会議（対面・オンライン双方）において、現在の人間による同時通訳に代わる人工知能（AI）通訳ソリューションを導入するよう指示する。</p> <p>提案者：南フロリダ地域</p> <p>共同提案者：イラン、英国、ネパール</p> <p>趣旨：言語障壁を解消し、世界中の全ての声が確実に届くようにするとともに、業務会議におけるコミュニケーションと時間効率を向上させる。本イニシアチブはまた、セッション中の人間による通訳ミスや潜在的な欠席のリスクを低減することを目的とする。</p> <p>本議題の詳細については、CAR（会議規則）46ページを参照</p>	YES	NO	ABS

	新しい回復文献（最大2点まで選択）	目標
1.	新しいIP／小冊子：妨害的および捕食的行動。アイデアには、行動の特定方法や安全な環境を作る方法が含まれます。	7
2.	新しいIP／小冊子：バーチャル環境でのリカバリー。アイデアには、オンライン上でのクリーン維持、オンラインミーティング用のグループ小冊子、バーチャルメンバーシップとサービスの基本、オンラインミーティングでの行動指針などが含まれます。	3
3.	新しい書籍／ワークブック／学習ガイド：12の概念。アイデアには、「概念ワーク・学習ガイド」や「サービスコミティのための指針」が含まれます。	4
4.	新しいIP／小冊子：DRT/MAT。アイデアには、明確な立場や姿勢を示すこと、クリーンまたはアブスティネンス（abstinence）の定義、誰がサービスできるかの明確化、これを外部の問題として位置付けること、命を救いメンバーが根付くのを助けること、個人的経験の紹介、PRとMAT、その他の医療的治療（医療用マリファナや治療目的の幻覚薬など）が含まれます	8
5.	新しいIP／小冊子：回復中の女性。アイデアには、男性優位のコミュニティでメッセージを伝えること、母親業、更年期など女性に特有の問題、経験の共有などが含まれます。	7
6.	新しいステップガイド：経験豊富なメンバー向けに特化	7
7.	新しいIP／小冊子：ニューカマーを歓迎し、根付くのを助ける。アイデアには、ニューカマーとして何をすべきか、ニューカマーへの接し方が含まれます。	7
8.	新しい回復文献はなし。	

	改訂回復文献（最大2点まで選択）	目標
1.	小冊子『Behind the Walls（1990年版）』の改訂。アイデアには、利用可能なサービスの追加や、外でクリーンを維持する方法の記載が含まれます。	7
2.	伝統11を改訂し、「ソーシャルメディア」を含める。	1
3.	小冊子『病気の時に In Times of Illness（2010年版）』の改訂。アイデアには、医療用マリファナ、治療目的での幻覚薬使用、処方薬に関する明確な情報の追加が含まれます。	8
4.	ジェンダーニュートラルな言語。NA文献のジェンダー特有の表現を、ジェンダーニュートラルかつ包括的な表現に変更・追加する可能性を調査する。	7
5.	ステップ・ワーキングガイドの改訂。アイデアには、誘導的な質問を減らす、ステップ1の質問を減らす、ステップ4の質問を増やす、ジャーナリング（気づきや体験を日記に書くこと）を促す、プロセスを簡略化する、質問に番号を付ける、などが含まれます。	7
6.	IP #26『追加ニーズを持つ人のためのアクセシビリティ（1998年版）』の改訂。アイデアには、現行の技術を考慮することや、目に見えない障害に関する内容を追加することが含まれます。	7
7.	文献全体で「神」の表記を「ハイパーパワー」に置き換える。	7
8.	IP #24『マナーに関する事項（2010年版）』の改訂。アイデアには、ゾーンフォーラムやデジタル寄付に関する情報の追加が含まれます。	6
9.	回復文献の改訂はなし。	

	新しいサービス資料（最大2点まで選択）	目標
1.	新しいサービス基本資料／小冊子：サービスにおけるメンター制度。アイデアには、実践的なトレーニングや、サービス体でメンター制度を実施する方法が含まれます。	5
2.	新しいサービス基本資料／小冊子：フェローシップデベロップメント。アイデアには、アウトリーチのベストプラクティス、FDの概要、コミティ向けのガイドラインなどが含まれます。	4
3.	新しいサービス基本資料／小冊子：バーチャルサービス。アイデアには、バーチャルプラットフォームのガイドライン、広報、バーチャルエリア・リージョン、バーチャルグループをサービス構造に結びつける方法、バーチャルまたはハイブリッド形式のサービス会議などが含まれます。	3
4.	新しいサービス基本資料／小冊子：ソーシャルメディア。アイデアには、広報業務におけるAIの活用や、ソーシャルメディアにおける伝統の適用などが含まれます。	1
5.	新しいサービス基本資料／小冊子：GSRオリエンテーション／ワークショップガイド	4
6.	新しいサービス基本資料／小冊子：グループの棚卸し／年ごとの振り返り用グループ小冊子	4
7.	新しいサービス基本資料／小冊子：エリアサービスの基本	4
8.	新しいサービス基本資料／小冊子：グループおよびサービス体の電子資金管理ツール	6
9.	新しいサービス基本資料／小冊子：信頼される僕 トラステッド・サーヴァント育成	5
10.	新しいサービス基本資料／小冊子：政府・刑事司法向けPRツール	2
11.	新しいサービス基本資料／小冊子：あらゆるレベルでのサービス協力	4
12.	新しいサービス基本資料／小冊子：サービスにおけるローテーションと継続性	5
13.	新しいサービス資料はなし	

	既存サービス資料の改訂（最大2点まで選択）	目標
1.	『地域サービスの手引き』の改訂。アイデアには、『地域サービスの手引き』に代わる現代的なサービスツールの作成、古い情報の削除、地方・遠隔地のエリアやリージョンに関する情報の追加、ゾーンに関する情報の追加、ベストプラクティスの追加などが含まれます。	4
2.	『The Group Booklet』の改訂。アイデアには、捕食的行動への対応方法の追加、メンバーを歓迎する方法、バーチャルNA、伝統および概念WSの重要性、共通のニーズを扱うミーティング、トラステッド・サーヴァントの役割に関する情報の拡充などが含まれます。	7
3.	SP『妨害的および暴力的行動』の改訂。アイデアには、捕食的行動に関するセクションの追加、オンラインミーティングへの対応、IDTからの文章の追加などが含まれます。	7
4.	SP『ソーシャルメディア』の改訂。アイデアには、オンラインミーティングに関する情報の追加、ソーシャルネットワーキングのガイドラインの更新、PRおよびH&Iに関する情報の追加などが含まれます。	1
5.	H&Iハンドブックの改訂	1
6.	PRハンドブックの改訂	1
7.	プランニングベーシックスの改訂	4
8.	改訂なし	

	課題ディスカッショントピック（IDT）（最大2点まで選択）	目標
1.	メンバーをサービスに引きつける方法	5
2.	意思決定／委任 — アイデアには、コンセンサスに基づく意思決定や、NAサービスにおける責任と権限の明確化が含まれます。	4
3.	妨害的・捕食的行動 — アイデアには、保護方針、サービス会議での攻撃的行動、人種差別、性的捕食、安全で包括的な環境の構築、法的判断とグループ判断の境界、携帯電話の使用、ミーティングにおける子どもの扱いなどが含まれます。	7
4.	一体性 — アイデアには、外部の政治的影響にもかかわらずNAの一体性を維持することが含まれます。	7
5.	アディクトがNAを見つけやすくする — アイデアには、テクノロジーを活用してアディクトをミーティングや他のメンバーとつなぐ方法が含まれます。	7
6.	資金の使用、資金の流れ、および資金調達 — アイデアには、50/50ラッフル、資金の流れの滞り、電子資金での匿名性などが含まれます。	6
7.	ソーシャルメディア — アイデアには、グループでの活用やPRツールとしての利用などが含まれます。	1
8.	オールドタイマーを定着させるには	7

ディスカッション・クエスチョン

これらの質問には、CARサーベイとは別に、na.org/surveys から回答することができます。

ジェンダー中立でインクルーシブな言語

このトピックの詳細については、**CARの30ページ**をご参照ください。

これらの質問において私たちが焦点を当てたいのは、CARエッセイで説明されている NA文献におけるジェンダー中立な言語です。つまり、人（メンバーや将来のメンバー）を表す言葉に関する変更であり、ハイヤー・パワーを表現する言語は対象としていません。たとえば「男性と女性」を「人々」といった表現に置き換えるような言い回しの変更は、文献に込められたメッセージの意味を変えるものではありません。むしろ、より多くの人々がそのメッセージに自分自身を重ねられるようにするためのものです。

ステップや伝統の文言そのものに関する問題については、将来の議論のテーマとします。

私たちは皆、（……に関係なく）誰もが回復できる、安全で、歓迎的で、インクルーシブなフェロウシップを提供したいと願っています。

その前提に立ったとき、メッセージをより効果的に運ぶために、文献におけるこのような変更を検討する意志はありますか？もしないとすれば、それはなぜでしょうか。

NAにおけるDRT/MAT：メンバーが根を張るのを助ける

このトピックの詳細については、**CARの33ページ**をご参照ください。

あなたのグループやエリアでは、メンバーがクリーンタイムを祝うために前に出るときや、サービスに立候補・引き受けるときに、MAT（薬物補助治療）を受けているかどうかを尋ねていますか？

もし尋ねている場合、その後どのような対応をしていますか？

私たちの違いを認め合いながら、一体性を育み、メンバーそれぞれの回復のプロセスを尊重するために、どのようなことができるでしょうか。

また、自分自身のためらいや個人的な抵抗感を乗り越え、より新しいメンバーがローカル・コミュニティに根を張れるよう、どのように手助けできるでしょうか。

用語集

エリアサービスコミティ（ASC）

エリア委員会は、地域のNAコミュニティのサービスを管理する主要な手段です。ASCは、グループサービス代表者（GSR）、管理役員（議長、副議長、書記、会計）、サブコミティ委員長またはプロジェクトリーダー、およびエリアの地域委員会メンバー（RCM）で構成されます。

ASCは、自らの役員、サブコミティ委員長またはプロジェクトリーダー、およびRCMを選出します。

キャンディデイトプロフィールレポート（CPR）

ヒューマンリソース委員会がWSC選挙候補として指名した各候補者に関する情報（個別報告書）を含む書類一式。

これらの報告書は、CPが候補者を評価する際に参考とすることを目的としている。機密扱いであり、CP専用である。

コンセンサスベースドデシジョンメイキング（CBDM）

合意に基づく意思決定。合意とはグループの同意を指し、グループ全員が決定を推進する意思があることを意味する。会議では、検討中の決定に関わる全ての人への尊重に基づくCBDMの形態を採用するが、最終決定が必ずしも全員一致を意味するわけではない。意思決定の目的上、WSCにおける合意とは、参加者の80%が同意することを指す。

カンファレンスアジェンダレポート 会議議題報告書（CAR）

WSC会議で審議される業務事項と議題をまとめた刊行物。

CARは会議開始の最低180日前までに公開され、翻訳版は最低150日前までに公開される。

CARは全言語版ともna.org/conferenceで無料で閲覧可能。

カンファレンスアプローバルトラック 会議承認対象（CAT）

世界サービス会議の90日前までに会議参加者の審議のために掲示される項目を指す用語。

通常、WSC出席者報告書、予算案、次期会議サイクルの提案プロジェクト計画、サービス資料承認プロセス下で審議に付される資料、会議審議のために提出された地域案などが含まれる。

カンファレンスアプローバル 会議承認済み

NA資料には3種類の承認トラックがある：会議承認、フェローシップ承認、ワールドボード承認。会議承認資料には、特定のサービス分野に関するNAの基本理念を伝える傾向のあるNAハンドブックやサービス小冊子が含まれる。

これらの資料は、WSCに提出されたプロジェクト計画の具体的内容に基づき、事前レビュー

や意見募集が行われた場合もあれば行われなかった場合もある。

会議承認済み資料は、次のWSCでの承認対象として会議承認トラック資料に含まれる。ただし、理事会が当該資料を会議議題報告書に含める十分な関心があると判断した場合は除く。会議承認資料は、次期WSCでの承認対象となる「CAT資料」に含まれます。ただし、理事会が当該資料を会議議題報告書に掲載する十分な関心があると判断した場合はこの限りではありません。会議承認資料とワールドボード承認資料の双方は、NAの中核理念およびフェロシップ承認文献によって確立された原則をいかに実施・実践するかを示すことを目的としています。

（詳細は付録Eの文献・サービス資料リストを参照）52会議サイクルワールドサービス会議（WSC）間の期間を指します。現行の会議サイクルでは、2023年7月1日から2025年6月30日までの3会計年度を指します。

（詳細は付録Eの文献・サービス資料リストを参照）

カンファレンスサイクル

世界ワールドサービス会議間の期間。現行サイクルでは2023年7月1日から2026年6月30日までの3会計年度を指す。

カンファレンスパティシペント 会議参加者（CP）

意思決定の目的上、参加者は地域代表、ゾーン代表、およびワールドボードメンバーと定義される。会議議題報告書に掲載された項目について投票権を持つのは代表のみである。

カンファレンスレポート； 会議報告書（CR）

この報告書は世界サービス会議直前に公開され、参加者がWSCに備えるための支援となる。地域報告書は会議報告書と共にオンラインで公開され、代表や地域も記事を掲載できる。

DRT/MAT

薬物置換療法／薬物補助療法（Drug Replacement Therapy/Medication-Assisted Treatment）の略称。今サイクルの議題討論トピックの一つは「NAに関連するDRT/MAT」（na.org/idt）であり、本CARにはこのテーマに関する論考と討論質問が含まれている。この用語は現在ほとんどの医療提供者によって使用されていないが、多くのNAメンバーや信頼される奉仕者にとって馴染み深い表現である。

フェロシップアプローチド フェロシップ承認

『GWSNA』で説明されている通り：「すべてのNA回復資料はフェロシップ承認を受けています。これは、NAワールドサービスによって作成され、フェロシップに送られて検討と意見が求められ、最終的にフェロシップによって承認されることを意味します。これは、すべての回復文献、回復小冊子、回復パンフレット、および哲学的立場やNAの原則を確立または変更する資料に適用されます。」（詳細については、付録Eの文献およびサービス資料リストを参照してください。）

フェローシップ・デヴェロップメント フェローシップ開発 (FD)

フェローシップ開発 (FD) ワールドサービスは、メンバーに向けられた、あるいはNAコミュニティがNAのメッセージを伝え、私たちの主要な目的とビジョンを推進する取り組みを支援するために設計された、多種多様な活動に従事しています。ワールドサービスは、メンバー向け、および／またはNAコミュニティがNAのメッセージを伝え、私たちの主要な目的とビジョンを推進する取り組みを支援するために設計された、多岐にわたる活動に従事しています。これには、フェローシップの関心事に関するウェブ会議やウェビナーの開催、*Reaching Out*の出版、フェローシップ・ワークショップや広報活動への参加、メンバーからのメールや電話への対応、必要とするコミュニティへの無料または割引価格での文献提供などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。これらの活動はすべて、その目的がフェローシップの発展にあることから、フェローシップ開発と呼んでいます。一部の地域サービス機関には、フェローシップ開発委員会や作業部会も設置されています。

フェローシップ知的財産信託 (FIPT)

1993年4月にフェローシップが承認したNAの回復文献およびロゴ (商標) の保管機関として機能する法的信託。FIPTの目的は、NAの財産がNA全体のために信託され、私たちの主要な目的に沿って将来のメンバーのために安全に保持されることを保証することです。FIPTを創設する文書は信託証書と呼ばれ、NAの文献と商標がフェローシップ全体の利益のためにどのように管理・保護されるかを説明している。詳細はna.org/fiptを参照のこと。

WSCの未来

WSC 2023で承認されたプロジェクト。3年ごとの会議サイクルの実現可能性に関する構想開発に焦点を当て、CAR動議の審査とCAR調査の実施、対面での決定が必要な事項と仮想決定可能な事項の区別、各ミーティング間のコミュニケーション改善などを含む。

ジェンダーニュートラルな言語

英語においてジェンダーニュートラル (またはジェンダーインクルーシブ) とは、特定の性別を指さない言葉を使用することを意味します。例えば英語でのジェンダーニュートラルなアプローチは、「男性と女性」という表現の代わりに「人々」「アディクト」「メンバー」といった言葉を用いることです。2023-2026年度サイクルのIDTの一つは、NAの古い文献の一部を性別固有の表現からジェンダーニュートラルな表現に変更した場合の影響を探求しています。そしてこのCARにはこのテーマに関するエッセイとディスカッションの質問が含まれています。

ナルコティクス・アノニマス地域サービスガイド (GLS)

1997年に承認されたサービス手引書。NAグループ、エリア、地域およびその下部委員会が地域サービスを確立・提供する際の参考資料として意図されている。

ナルコティクス・アノニマス世界サービスガイド (GWSNA)

世界サービス会議 (WSC) で承認された方針決定事項の集成。WSCガイドラインを含む。詳

細は na.org/gwsna を参照。名称は2002年に *A Temporary Working Guide to Our World Service Structure (TWGWSS)* から変更された。前身となる *TWGSS* は、1976年に初版が発行された *NA Service Manual* (別名 *The NA Tree*) の暫定的な後継として、1983年に初めて発行された。

ヒューマンリソースパネル (HRP)

ワールドサービス会議に対し、ワールドボード、ヒューマンリソースパネル、WSC共同ファシリテーターの選挙候補者リストを提供する。WSCによって選出された4名のメンバーで構成される。HRPのプロセスに関する詳細は、na.org/hrpを参照のこと。

ハイブリッド

対面参加者と遠隔参加者の両方が参加する回復またはサービスミーティング。

IP

情報パンフレット (Informational Pamphlet) の略称。詳細は na.org/ips を参照。

イシューディスカッショントピック (IDTs)

フェローシップ全体に関わる特定の議題。会議サイクル中にフェローシップで議論される。詳細は na.org/idtを参照。IDTs は WSC が選定し、CAR 調査の結果に基づいて決定される。

課題

戦略計画の構成要素。会議参加者が集団的に今サイクルで最も重要と決定した要因。

キーリザルトエリア (KRA)

主要成果領域とは、NAサービスビジョンを実現するためにサービス努力を集中させるべき主要分野。NAWS戦略計画の四本柱であり、サイクルごとに変更はほとんどない。

NAWS

ナルコティクス・アノニマス世界サービス (Narcotics Anonymous World Services) の略称。

NAWSアニュアルリポート 年次報告書

各会計年度のNAWS活動と財務の概要を提供する年次刊行物。

NAWSニュース

世界理事会が年数回発行するニュースレターで、現在の活動を報告する。

英語、ペルシア語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語で発行され、na.org/newsnewsに掲載される。

オブジェクティブ 目標

戦略計画の構成要素である目標は、目指すべき方向性を示し、現在の状況に即した解決策の策定を支援する。計画サイクル終了までに何を達成したいのかを表現するものであり、どのように達成するかは対象外である。

プランニング インベントリ

インベントリは戦略的計画策定プロセスの一部である。

戦略計画策定の各サイクルに先立ち、達成可能な業務や優先的に取り組みたい業務に影響を与え得る内外の要因を検討します。WSC 2023以降、会議参加者はWSCでこの調査を共同で開始し、会議終了後のアンケート調査を通じてプロセスを継続しています。

プロジェクトプラン

ワールドボードが策定する、新規かつ非定型のワールドサービスプロジェクト向け計画書。プロジェクトの提案範囲、予算、スケジュールを含みます。CAT資料の一部として予算に組み込まれ、各会議の参加者に承認されます。

パブリック リレーションズ 広報 (PR)

プロジェクトの提案範囲、予算、タイムラインを含む。CAT資料の一部として予算に含まれ、各会議で参加者により承認される。回復のメッセージをより効果的に伝えるため、メンバー、潜在的なメンバー、一般公衆（専門家、家族、愛する人々を含む）との関係を構築・維持すること。

RBZs

リージョン、ワールドボード、またはゾーンがワールドサービス役職への候補者を推薦するプロセス。これらの候補者はヒューマンリソースパネルによる面接を受ける。

リーチング・アウト

ワールドサービスが四半期ごとに発行する刊行物。収監中のアディクトがNAプログラムと繋がり、H&I活動を強化することを目的とする。

リージョナルアッセンブリー リージョンの集い

グループサービス代表者 (GSR) とリージョナルコミティメンバー (RCM) が集まる会合。リージョンの問題や世界的なNAに影響する問題について議論するため、通常はWSC会議の準備として開催される。リージョン代表者 (RD) は総会で選出される場合がある。

リージョナル デリゲート リージョン代表 (RD)

NAリージョン（または同等のサービス機関）からWSCに投票権を持つ参加者として出席。会議サイクルを通じてリージョンとワールド・サービス間の連絡支援を担当。

リージョナルサービス委員会 (RSC)隣接する複数の地域のサービス経験を統合し、相互支援と地域サービスを行う機関。RCM、地域代表、補欠代表などで構成される。

リージョナルサービスコミティ (RSC)

隣接する複数のエリアのサービス経験を統合し、それらのエリアの相互支援とサービス提供を目的とした組織。RCM、地域代表、補欠代表、その他必要に応じて構成される。

サービスパンフレット (SPs)

NAのサービスに関連する特定のトピックを扱う、グループやサービス組織向けのリソースとして使用されるパンフレット。これらのパンフレットは作成後、90日間のボード役員のレビュー期間を経て必要に応じて改訂も行うワールドボードによって承認される。これらはボードが、デリケートまたは困難なトピックに対処する上で、私たちのフェローシップ内でより成功した実践例を収集する最善の試みである。詳細はna.org/spsを参照。

ソリューション 改善

戦略計画の構成要素であるソリューションとは、目標達成への道筋を指す。NA全体を代表してワールドサービスに遂行を望む業務である。ソリューションは目標進展に寄与し得る全ての要素を含む必要はなく、次期サイクルで実行可能な段階的な措置に焦点を当てる。目標達成に向けた大枠の方針を説明する。

ストラテジープラン 戦略計画

ワールドサービスが提供する新規・改善されたサービスと支援に関する長期的戦略。世界的なナルコティクス・アノニマス (NA) の継続と成長を促進する。プロジェクト計画は通常、戦略計画の目標から派生する。今サイクルでは、会議参加者が初めて協力してNAWS戦略計画を作成した。

ストローポール 予備投票 (投票も参照)

特定の議題やアイデアに対する会議全体の一般的な意向を測るために実施される投票。各動議および修正案の予備投票は、会議本会議開始前に実施される。ある議題の予備投票で合意（賛成または反対が少なくとも80%）が示された場合、その投票結果が決定となる。動議や修正案が予備段階で合意に至らない場合、投票実施前に複数回の予備投票が行われることが多い。ストローポールはまた、会議の閉会セッションにおいて、会議がその週の決定事項と議論について共通の理解を持っていることを確認するためにも使用される。

NAサービスのための12の概念

サービス活動において、私たちのグループ、理事会、委員会を導くNAの基本原則。1992年にフェローシップで承認され、エッセイと学習問題を含む同名の小冊子として出版された。NAサービスのための12の概念はna.org/literatureに掲載されています。

バーチャルミーティング

対面で行われないNAミーティング。オンラインや電話によるミーティングを含みます。詳細はna.org/virtualに掲載のバーチャルミーティング基本事項を参照してください。

NAサービスのビジョン

私たちのサービスが達成を目指している方向性。指針となり、私たちを鼓舞する役割を果たします。2010年WSCにおいて、その年の『カンファレンス・アジェンダ・レポート』に収録された後、満場一致で承認され、2023年WSCで改訂されました。

投票

投票とは、組織が議題について決定を下すことです。会議における意思決定セッションの一覧については、『NAにおけるワールド・サービスガイド』（na.org/gwsna）の9ページを参照してください。

ウェビナー／ウェブミーティング

ヴァーチャルミーティングまたはワークショップ。プレゼンテーション後に質疑応答を行う形式の場合もあれば、より双方向的な形式の場合があり、後者は「ウェブ会議」と呼称されます。ワールドサービスはPR、H&I、リージョナルサービスオフィス、進行中のプロジェクトに関連する定期的なウェブ会議を主催しています。仮想ワークグループもウェブ会議を通じて会合し、理事会は会議参加者向けのウェブ会議を開催します。

ワークグループとフォーカスグループ

ワークグループとフォーカスグループ特定の目的のために設立され、ワールドボードに責任を負う小規模な作業組織。フォーカスグループのボランティア申込書は、各サイクルの開始時にna.org/projectsの「進行中のプロジェクト」セクションに掲載されます。特定の目的のために設置され、ワールドボードに責任を負う小規模な作業組織。フォーカスグループボランティア申込書は、各サイクルの開始時にna.org/projectsの「進行中のプロジェクト」セクションに掲載されます。

ワールドボード

ワールドボードはワールドサービス会議のサービスボードである。ボードは、ナルコティクス・アノニマス（NA）のメッセージを伝えるというフェローシップの取り組みにおいて、ナルコティクス・アノニマス（NA）のフェローシップを支援し、NAワールドサービスの活動（主要サービスセンターであるワールドサービスオフィスを含む）を監督する。また、WSCの代議員を通じて表明されるフェローシップの意思に従い、NAフェローシップの物理的・知的財産（文献、ロゴ、商標、著作権を含む）の権利をフェローシップのために信託管理します。

ワールドボード アプローチド 承認

ワールドボードが承認・発行するサービス関連情報パンフレットおよびツール（90日間の代議員審査期間を経て）この資料は、NAフェローシップおよび会議承認資料に含まれる原則の適用方法について、フェローシップから収集した実践的経験を含んでいます（詳細は付録Eの文献・サービス資料リストを参照）。

ワールドサービスカンファレンス（WSC）

この会議は組織体であり、また世界中のNAフェローシップが集うイベントでもあります。リージョン・ゾーン代表者、ワールドボードメンバー、ワールドサービス事務局事務局長で構成され、ナルコティクス・アノニマス・フェローシップにとって重要な問題について協議します。WSCは、NAフェローシップにとって重要な問題について協議するために開催されま

す。この会議はフェローシップの意思疎通と結束の手段であり、私たちの全体の福利そのものが会議の議題となる場である。

ワールドサービスオフィス（WSO）

NAワールドサービスの中核となる世界的なサービスセンターの物理的所在地の名称。本部はアメリカ合衆国カリフォルニア州チャッツワース（ロサンゼルス）に所在し、カナダ、ベルギー、イラン、インドに支所施設を有する。WSOはNAフェローシップ・ワールドボード・会議承認の文献、サービスハンドブックその他の資料を印刷・保管・販売し、NAグループやコミュニティへの支援を提供するとともに、NAに関する情報の集約拠点として機能する。理事会、会議で承認された文献、サービスハンドブック、その他の資料を印刷、保管、販売し、NAグループやコミュニティへの支援を提供し、NAに関する情報の情報交換所としての役割を果たしています。「私たちのワールドサービスの基本的な目的は、コミュニケーション、調整、情報提供、そして指導です。」（GWSNA, p. 2）

WSCコファシリテーター

ワールドサービスカンファレンスにおけるCARおよびCAT関連の討論・決定セッションを主宰する2名の個人。ワールドサービスカンファレンスにより選出される。

ゾーン代表（ZD）

既存のNAゾーンから、議席を持たない地域またはコミュニティが2つ以上存在する場合に、投票権を持つ参加者としてWSCに出席する。会議サイクルを通じて、ゾーンとワールドサービス間のコミュニケーションを支援する責任を負う。ゾーンがWSCに出席する代表者を擁する資格を有しない場合、2名のゾーン連絡担当者を会議参加者のウェブ会議、電子メール配信、およびWSC対面会議間のその他の連絡手段に含めることができる。

ゾーンフォーラム

複数の地域で構成される、奉仕志向の共有および／または業務セッション。NAコミュニティが相互にコミュニケーションを取り、協力し、成長するための手段を提供する。

付録A

IP #21, 孤立状態でのクリーン維持

はじめに

孤独を感じた時、私はいつも思い出す。このフェローシップには、同じ瞬間に同じ孤独を感じている仲間がいるのだと。

ナルコティクス・アノニマスは繋がりプログラムだ—NAは「*Never ALONE* 決して孤独ではない」の略だとさえ言う人もいる。回復の道において、深い孤独や孤立を経験した者は多い。たとえ感情的、身体的、地理的に孤立していても、私たちはクリーンを保ち、新たな生き方を見出せる。孤立する理由は様々だ：NAミーティングから遠く離れて住んでいる、あるいはそこへ行く交通手段がない。身体的健康状態が制約となる。子どもや他の人々を介護していて一人にできない場合もある。長時間働いたり出張したりしているかもしれない。住まいや職場を簡単に離れられない状況にあるかもしれない。それでもNAのメッセージが私たちを見つけたのなら、私たちもそのメッセージへの道を見つけられる。

長時間労働や出張で忙殺される場合もあれば、住み慣れた場所を追われたり、容易に離れられない職場や生活環境に置かれている場合もある。それでもNAのメッセージが私たちを見つけたなら、私たちもそのメッセージへと至る道を見出せるのだ。

NAにおける回復とは、他者との繋がりと、自分より偉大な力との繋がりの両方を包含する。回復の過程で私たちは、様々な方法で孤立から繋がりへと橋を架けていく。ベーシックテキストは「回復するアディクトに共通の型はない」と私たちに思い出させ、私たちの経験は「どんな状況でも」クリーンを保ち、依存症という病から回復できることを示しています。今までにないほど、私たちは物理的・地理的その他の制約にかかわらず、連絡を取り合い、参加し、ステップを実践し、奉仕する手段を持っています。私たちの中には、他者との連絡が全く不可能な完全な孤立を経験した者もいます。ナルコティクス・アノニマス（NA）のプログラムは、そうした時期を乗り越えるための手段も与えてくれました。自身の状況を正直に認め、自分に効果的な方法に対して心を開き、プログラムへの新たな考え方を試みる意思を持つことで、孤立を障壁ではなく機会として経験できるのです。

依存症と孤立

依存症は孤立の中で増殖する病気です。NAメンバーから距離を置かれた時、たとえ長年NAコミュニティに属していたとしても、私たちは孤立を経験します。孤立は身体的、感情的、あるいは精神的に現れます。

NAをオンラインや印刷物で知り、直接ミーティングに参加できないメンバーにとって、バーチャルミーティングや遠距離スポンサーシップは「普通」に感じられるかもしれませんが。孤立は身体的、感情的、あるいは精神的に現れることがある。オンラインや印刷物でNAを知り、直接ミーティングに参加できないメンバーにとって、バーチャルミーティングや遠距離スポンサーシップは「普通」に感じられるかもしれない。

しかし、長年にわたり対面式のNAコミュニティに属していたアディクトが孤立した場合、同じ経験が深く疎外感をもたらすこともある。

私たちのうち、対面ミーティングから遠く離れて生活している者もいれば、ミーティングを立ち上げて地元のコミュニティにNAをもたらす立場にある者もいる。また、近くにミーティングがあっても、他の理由で直接参加できない者もいる。個々の状況にかかわらず、私たちは皆、何があってもクリーンでいなければならない。NAは私たちが苦闘する時にここにある。

バーチャルミーティングやソーシャルメディアを通じてNAを探し、ミーティングやイベントで出会った人に電話をかけ、手紙を書くことさえも、私たちに信じ、回復を助けたいと願う他のメンバー

と繋がる手段となります。電話をかけたり、リンクや文献を共有したり、送迎を申し出たりすることで、私たちは「私たち」を築き、他の人を受け入れられていると感じさせることができます。誰かの名前を覚えたり、ミーティング後に交流に誘うなど、相手に気づきと存在を認める小さな気遣いさえも、大きな違いを生むことがあります。

回復中の他のアディクトに手が届かない時もあります。あるメンバーは、クリーンな最初の冬を人里離れた荒野で過ごしました。彼女はこう語りました。「静寂の中で、私は自分が世界の一部だと気づいたのです。私は自分より大きな何かの一部なのです。夜、痛みに苛まれながら、私は思うのです。私と同じ気持ちを抱えながらクリーンを保っている人たちが、この世界にはいるのだと。昼間は木々を眺め、彼らと同じように生きてると実感できました。それは、彼らと同じように生きているという明快な確信でした」

クリーンを維持したいなら、誰もが使える手段がある。NAの文献はオンラインや郵送で入手可能だ。電話やオンラインで連絡を取り、バーチャルミーティングに参加したり、個人とシェアしたりできる。NAメンバーは私たちを支えるために存在する。

多くの者にとって、孤立した状態でのクリーン維持は、自分より偉大な力との関係を深める。隔離の時間は、スポンサーと共にステップワークに深く没頭し、指針となる原則を学ぶ機会を提供する。内省作業は、孤立を異なる視点で理解し、新たな解決策やより深い受容を見出す助けとなるかもしれない。とはいえ、それが容易だとは言えない。

危機

病や障害を抱える愛する人の介護中に孤立するNAメンバーもいます。孤立状態と「警戒態勢」が重なり、これほど困難な状況を経験しているのは自分だけだと感じることは非常に厳しい試練となり得ます。「夫が集中治療室に入院した時、私は見知らぬ町で誰一人知らない病院にいました」とあるメンバーは語った。「その時、私は身の回りの奇跡に気づく余裕が持てたのです。息を吸うことさえ奇跡。誰かが本当に病んでいる時、そのことに気づきやすいのです」

NAを必死に必要とする時でも、ミーティングに参加できない状況はあります。

オンラインや電話で繋がろうと、手を差し伸べようと孤立しようと、周囲に新たなNAコミュニティを築こうと、自らの内に新たな安全な場所を作ろうと——プログラムは常に私たちと共にあります。なぜならそれは私たちの内に生きているからです。

困難な時期に再発や破壊的行動を起こすと、病気が目覚め、さらなる問題を生み出し、目の前の危機から自分や周囲の注意をそらすことになる。対照的に、クリーンを保つとき、私たちは自らも気づかなかった優雅さと不屈の精神をもって立ち向かえる。ベーシックテキストはこう告げる：「人生の悲劇がどれほど痛ましくとも、一つだけ確かなことがある。いかなる状況でも、決して使用してはならない！」私たちの経験が示すように、使用に費やした努力の半分でもクリーン維持に注げば、回復を維持する絶好の機会を得られる。自分より偉大な力とのより深い関係、自覚していなかった強さ、他者には憧れつつも自分には想像もつかなかった勇気を見出すかもしれない。助けを求める時、私たちは成長を始めるのだ。

ベーシックテキストはこう説く。「我々は病の責任を負わないが、回復の責任は負う」孤立している時でさえ、繋がる手段は存在する。対面であれ、オンラインであれ、あるいは祈りや瞑想を通じて。

オンラインミーティング以外にも様々なりソースが利用可能です：回復文献はオンラインで入手可能、ベーシックテキストの音声記録は多言語で提供され、多くのリージョンウェブサイトにはミーティングや大会でのスピーカーの記録があります。これらはどこにいても学び成長するための不可欠

なツールとなり得ます。地域やゾーンのウェブサイトには、オンラインイベントや記録などへのリンクが掲載されていることが多いです。

NAにおける回復は、自らの経験を、他者を助けるための道具へと変容させるプロセスです。時には「私も同じ経験をしたが、クリーンを維持できた」と他のメンバーと共有するだけのシンプルなことかもしれません。また時には困難な時期をクリーンで乗り切ることで、全く新たな深みのある共感と理解を得られることもあります。時が経つにつれ、孤立を生む同じ状況が一体感の体験における要素となり得るのです。

助けを求めること

「アディクトは孤独な時こそ悪い仲間という」「NAは『決して独りではない、二度と繰り返さない』を意味する」——こうした言葉を何度耳にしたことか。孤立している時、私たちはこうした言葉に苦々しく思い悩むかもしれない。しかし、切実に必要とする帰属意をどう見出せるかについては考えない。病気や加齢による孤立を経験した多くのメンバーが、挫折感を共有している。「回復という輝かしい人生が足元から奪われ、その現実への準備は全くできていなかった」とあるメンバーは語った。「NAコミュニティにとって私がまだ大切な存在だと知らせるために、誰かに手を差し伸べてほしかった」「回復という大きく美しい人生が足元から引き裂かれ、その準備などできていなかった」とあるメンバーは語った。私たちは、他人が自分の気持ちや必要としていることを理解していると信じたいかもしれない。しかし実際には伝える必要がある。苦痛の中にある時、手を差し伸べることは特に困難だ。あるメンバーはこう語った。「溺れている人は声を上げない。手を差し伸べることは、私たちができる最も重要なことかもしれない」

私たちの中には、連絡を容易にする技術から隔離されている者もいる。収監中、あるいは非常に辺鄙な場所や電気のない場所にいる場合、私たちは別の方法でつながりを見つけます。新しい技術に慣れている私たちにとってさえ、昔ながらの手紙のやり取りや電話は欠かせない手段となり得ます。出版物『Reaching Out』は、収監中の多くの依存症患者に郵送またはタブレットで提供されています。NAワールドサービス事務局には、本パンフレット末尾のリソース欄に記載の住所宛てに、いつでも手紙やメールを送ることができます。『ベーシックテキスト』、『ホワイトブックレット』、『ホワイトブックレット記念版』に収録された個人の体験談は、メンバーの経験から学ぶ機会を与えてくれます。一部の地域のNAコミュニティでは、孤立した地域や自宅療養中のメンバーを支援するアウトリーチコミティを設置しています。隔離期間を予測できる場合、その期間を乗り切るためのリソースを事前に集めて準備できます。多くのH&Iコミティは、収監中のメンバーと、ステップの指導や支援を提供できる外部の人々との間をつなぐ役割を担っています。

NAミーティングの立ち上げ

孤立した環境での回復は、ミーティングを始める動機となる。準備不足や資格不足を感じるかもしれないが本当に必要なのは意志だけだ。『グループブックレット』、『地方・孤立地域におけるNAサービス活動』、そしてミーティング立ち上げ方法のウェブページは、情報とインスピレーションを提供する。グループスターターキットを入手できます（詳細は本号末尾の「NAミーティングの始め方」リンク参照）。

他のNAコミュニティのメンバーが支援に駆けつけることも珍しくありません。とはいえ、定期的に会場に居続け、参加者を待つ忍耐が必要です。継続性が鍵であり、情報を広めることも同様に重要です。ミーティング場所を地域の掲示板やソーシャルメディアに掲載するにせよ、地域の治療機関に働きかけるにせよ、人々が場所を知らなければミーティングは成長しません。ベーシックテキストの

「A Quiet Satisfaction 静かな満足」という物語で、地域でNA立ち上げを支援したメンバーは、ミーティングの場を守るために費やした時間についてこう語っています：「部屋に一人きりになるたびに、私の決意は新たになる——とはいえ最近のミーティングは最低でも4人（時には20人もの）メンバーが集まるが」言語の壁に阻まれているなら、母国語でのミーティング開始が地域の人々にメッセージを届ける助けとなるでしょう。忍耐と献身は必要ですが、NAが地域で根付く姿ほど心躍るものはありません。NAが地域で発展していく姿ほど心躍るものはありません。私たちの感謝の言葉は語りかけます——そしてそれは往々にして、私たちが聞く必要のあることを正確に伝えているのです。その日一日を生き抜くために。

バーチャルNAと孤立するアディクト

バーチャルNAは多くのメンバーの孤立体験を変えた。ベテランメンバーはこう語る「私は慢性疾患を抱え、40年以上クリーンを保っている。存在意義が必要だった。オンラインで再び奉仕し、繋がりを感じられるようになった」辺境の国に住むメンバーは感謝を共有した「テクノロジーは非常に僻地でも繋がりを可能にしてくれる。インターネットが不安定な時でさえ手を差し伸べ助けを求めるには十分だ」と。今や多くのメンバーにとって、奉仕活動を含むNAフェロシップとの関わり全体がオンライン上で行われている。自分に合う方法に心を開けば、たとえそれが望むものや期待するものと完全に一致しなくとも、必要なものは既に手に入っていると気づくことが多いのだ。オンラインや電話ミーティングは、直接NAに参加できない多くのメンバーにNAを届ける手段となった。ただしオンラインでは関わり方が異なるという声もある：ミーティング前後の会話は少し異なり、準備が整う前に「バーチャルで過ごす」よう頼んだり、電話を受け入れる姿勢が必要かもしれない。手を差し伸べることは常に勇気の行為であり、「仲間の一員」と感じるには、対面でも努力が必要です。リスクを冒して助けを求める覚悟があれば、それは自分自身と同じくらい、相手を助けることにもなります。

バーチャルNAは、好きな時にミーティングを見つけられるだけでなく、共感できる人々を見つける範囲も広げます。たとえミーティングが近くにあるのに孤立感や疎外感を感じている時でも、物理的に参加可能であっても、バーチャルミーティングは聖域となり新たな視点を提供します。オンラインでコミュニティやスポンサーシップ、サービスの機会、帰属意識を容易に見出す者もいれば、一方で、オンラインミーティングで居心地の良さを感じたり、集中力を保つことさえ困難な者もいます。対面ミーティングと同様に、奇跡が起こる5分前に退出してはいけません！新たな状況や技術に適應するには努力が必要ですが、私たちの命はそれを受け入れる意志にかかっています。

分かち合いの価値

ナルコティクス・アノニマス（NA）は、12のステップと12の伝統からなるプログラムであり、場所を問わずアディクトが回復を見出すことを目的としています。これらの精神的原則を実践することで、他者と接触しているか否かにかかわらず、活動的な依存症からの解放を達成できます。しかしベシックテキストは「二人のアディクトが回復を分かち合うとき、NAの心臓は鼓動する」と述べています。だからこそ私たちは創意工夫し、対面・郵便・電話・オンラインなど、他のアディクトと共有する方法を模索する。

私たちの一部にとって、孤立は地理的要因や病状とは無関係だ。そもそも人との関わり自体が困難な者もいる。メンタルヘルスやその他の課題が、対面ミーティングへの参加を過度にストレスフルに感じさせることもある。あるメンバーは、ルーム内での悪い別れやその他の関係性の困難が、NAが提供するものを切望しているにもかかわらず、継続的に参加することを困難にしていると共有しています。私たちのアイデンティティや意見が、現実においても、あるいは私たちの心の中においても、コ

コミュニティから私たちを孤立させることがあります。いずれにせよ、断絶が起こり、あるメンバーが共有したように、「私は突然、島に一人であることに気づいたのです」。暴力的な関係に陥ったあるメンバーは、対面でのミーティングへの参加は不可能だったが、バーチャルミーティングが命綱となったと語った。「工作中や家に一人である時にミーティングに参加できる。オンラインでスポンサーがいて、自由を得るための計画を立てているところだ」

言語と文化の問題はしばしば交錯し、たとえ一部の言葉が理解できても、母国語以外の言語で行われるミーティングでは居心地の悪さや共有への恐怖を感じる可能性がある。共有と参加の方法を見出すことは孤立感を和らげ、新たな一体感をもたらすこともある。NAが思っていた以上に大きく、たとえば孤独を感じていても自分の経験が特別ではないことに気づくかもしれない。

プログラムを生きる

孤立とは匿名性について深く学ぶことでもある。「軍隊では電話もメールも全て監視されていた。NAのメンバーであることは知られてはいけないし、NAの仲間には私の居場所や行動を知られてはいけない。時には聞き慣れた声だけで満足しなけりばならなかった。休暇でミーティングに行けるまで耐え忍んだ。その方法でクリーンでいられるか分からなかったが、できると学んだ。次のミーティングを待ちわびることもあったが、必ず来ることを知っていた。」

忍耐と信念は実践と共に育まれる。NAが私たちの内側に生きていると気づくのだ。NAは消費する商品でも、訪れる場所でもない。とはいえホームグループは繋がりを実感する中心地となり得る。プログラムを実践する中で、私たちはNAを創り出し、体験し、たとえ声に出せなくともそれが人生を変容させるのを目の当たりにする。地理的にNAコミュニティから隔絶された状況が、自らの経験をより積極的に発信する機会となったと語るメンバーもいる。回復を経験したことのない人々にとっての模範となることは、メッセージを伝える強力な方法となり得る。「私は学んだ——自分がどこにしようと、回復をそこに持ち込めるということを」とあるメンバーは語った。「どこにしようとサービスできるのだと。私は常に心に留めている——自分が誰かにとって唯一の『ベーシックテキスト』となり得るということ」。ほとんど誰もが依存症に苦しむ誰かを知っており、世界中で多くの人々がこの病によって大切な人を失っている。悲しいことに、回復が可能だと知る人はまだ十分ではありません。私たちがナルコティクス・アノニマス（NA）のプログラムを生きる時、ただ自分らしくあること自体が力強いメッセージを伝えるのです。

「NAは繋がり方を教えてくれました。孤立した経験が、NAの外の人々とも共感できると気づかせてくれたのです」心から分かち合い、周囲の人々のいる場所に寄り添い、サービスできる場を探すこと——サービスの精神：こうしたスキルは広い世界でも通用し、フェロシップにいない時でも恩恵を受けられる」と語りました。別のメンバーはこう共有しました。「孤立した状態でクリーンを維持することは矛盾ではない。それは私が生きてきたことを裏付けるものだ——沈黙の中に明晰さが鍛えられ、夜のミーティングのデジタルな光の中に助言が見出され、生きる意志が戻ってくるということ」

私たちのベーシックテキストはこう述べています。「NAは、孤立と絶望と破壊的な混沌の海に浮かぶ救命ボートのようなものだ」と。なぜなら、孤立と疎外感は活動的な依存症の重要な要素であり、回復の途上にあるときに孤立を感じることは痛ましいほど馴染み深いものだからです。しかし、その経験は全く異なるものとなり得る——そしてその違いは変容をもたらす可能性を秘めています。私たち自身、私たちのハイヤーパワー、そして周囲の世界との関係は変化したのです。私たちを信じ、回復を支えようとする人々がいます。人生が時にもたらす嵐を乗り越えるための精神的指針も持っています。嵐そのものが私たちの経験を定義するのではなく、それをどう乗り切るかが重要なのです。孤

立した状態でもクリーンを保ち、その経験から精神性と回復への決意に新たな、あるいは再燃した強さを見出すことができます。今日一日だけ、恐れるものは何もないのです。

リソース

当ウェブサイト na.org には多くのリソースがあります。

NAの文献はオンラインで読んだり聴いたり、購入したりできます：

na.org/literature

na.org/elit

na.org/webstore

na.org/audio

na.org/asl

na.org/daily-meditations

ミーティング検索とミーティング開始リソースはこちら：

na.org/meetingsearch

na.org/virtualmeetings

na.org/how-to-start-a-meeting

na.org/virtual

na.org/ruralは、地方や孤立した地域でサービスする方々へのガイダンスとツールを提供します。

ナルコティクス・アノニマス全体の活動情報や奉仕活動への参加については、以下をご確認ください：

na.org/subscribe

na.org/nawsnews

ソーシャルメディア：

Facebook: [@naworldservices](https://www.facebook.com/naworldservices)

Instagram: [@narcoticsanonymous](https://www.instagram.com/narcoticsanonymous)

収監中のNAメンバーによる、収監中のメンバーのための季刊誌『Reaching Out』はこちらから入手可能です：

na.org/reachingout

郵送先住所：NA World Service Office, PO Box 9999, Van Nuys, CA 91409

付録B

NAワールドサービス 戦略プラン



NAワールドサービス 2026-2029年戦略計画

多くのメンバーには馴染みがないかもしれませんが、NAWS戦略計画は新しいものではありません。NAワールドサービスは20年以上にわたり戦略計画に基づいて運営されてきました。毎回の会議サイクルで計画は改訂・更新され、新たな計画はCAT資料に含まれ、計画内の優先事項が今後の活動の指針となってきました。今回初めて、NAWS戦略計画がカンファレンス・アジェンダ・レポートにフェローシップ承認のため掲載され、また計画全体がカンファレンス全体によって作成された初めての事例となります。

WSC 2023において、カンファレンスは試験的に3年サイクルを承認することを決定しました。

（2000年から2020年まではカンファレンス周期は2年でした。）より長いサイクルにより、真に協働的な計画策定プロセスに十分な時間が確保されました。フェローシップのRD（及びAD）は、この計画を共同で創り上げる全段階に関与してきました。会議参加者（CP）の関与がこれまでにない水準に達したことは、この計画がNA全体のニーズを代表し、集団的に作成されたものであることを意味します。

計画の構成要素：

- **主要成果領域（Key Result Areas）**：主要成果領域とは、NAサービスのためのビジョンを実現するために、私たちのサービス努力を集中させる必要がある主要な領域です。これらは私たちが共に構築する計画の四本の柱です。サイクルごとにほとんど、あるいは全く変化することはありません。
- **課題（Issues）**：課題とは、会議参加者が集団的に決定した、このサイクルで最も取り組むべき重要な要素です。
- **目標**：目標は目指すべき方向性を示し、現在の状況において意味のある解決策を構築する助けとなります。目標は、計画サイクル終了までに何を達成したいのかを表現するものであり、どのように達成するかは対象外です。
- **解決策**：解決策とは目標達成への道筋です。NA全体を代表してワールド・サービスに実施を依頼する作業です。解決策には目標達成に寄与するあらゆる要素を含める必要はなく、優先順位が付けられたプロジェクトにおいて、次のサイクルで実行したいステップのみを明記します。目標達成の方法を大まかに説明します。
- **説明文**：計画書全体にわたり、読者の疑問やコメントへの対応、計画内容の背景にある考え方の明確化を目的とした説明文を挿入しています。計画全体にわたり説明文を挿入しました。これは皆様が抱く可能性のある疑問やコメントへの対応、および計画内容の背景にある思考の明確化を目的としています。
- **プロジェクト計画**：成果物、タイムライン、媒体など、解決策の詳細はプロジェクト計画に明記されています。

本計画は個々の情熱を全て反映しているとは限りませんが、私たちの集合的なニーズと優先順位を確実に反映しています。個人（あるいはグループ、地域）として、特定の箇所の表現や目標・解決策の重点に若干の差異を望む場合もあるでしょうが、ご安心ください。計画のあらゆる部分は、CP—RD、AD、ボードーによって議論されています。この計画作成には数多くの議論を重ねてきました。これは真に合意形成に基づくプロセスでした。『世界サービスガイド』が述べるように、「合意形成は、各人が真実の一端を保持し、誰もその全てを独占しないという信念に基づいています（たとえ自

分こそが真に最善を知っていると信じたい誘惑に駆られても！）。

合意形成プロセスとは、グループが合意に達するために経る道程です。これは『一人では成し得ないことも、共にあれば可能となる』という理念をサービス環境において具現化する方法なのです」

（『GWSNA』WSCにおける意思決定セクションより）。したがって、私たちはこの計画を、それが創り出された誠実な精神をもって提示します。

本計画及び策定プロセスに関する詳細は、本会議議題報告書本文内の論考をご参照ください。

2026–2029年 NAワールドサービス戦略計画

主要成果領域KRA：広報

NAサービスのビジョンは、「ナルコティクス・アノニマスが回復プログラムとして普遍的な認知と尊重を得る」時代を展望しています。この主要成果領域はその志向に奉仕するものです。NAメンバーシップサーベイによれば、NAメンバーの約40%が治療プログラムやカウンセリング機関から当プログラムへ辿り着き、さらに17%が刑事司法システムを通じて参加しています。私たちの広報活動が優れているほど、私たちを必要とするアディクトが紹介される可能性が高まります。

課題：NAの信頼性

目標1：メッセージの伝達、ビジョンの達成、フェローシップの発展において効果的な広報活動の重要性について、内部のフェローシップの認識を高める。

解決策：

- ・ 広報活動への関与の重要性に焦点を当てた内部NAサービスキャンペーンを実施する。
- ・ メンバーの広報活動への参加を支援するため、フェローシップ向けの広報トレーニングとツールを拡充する。

目標2：4つの外部対象層向けに広報ツールを作成し、NAが有効な回復プログラムであるという認識を高める。

一般市民（家族を含む）

一般市民（家族を含む）

政府機関（刑事司法・政策部門を含む）

依存症治療機関

医療専門家

解決策：

- ・ 各対象層向けの広報キャンペーンを構築する。
- ・ パンフレット『NA：あなたの地域社会におけるリソース』を更新する。
- ・ 専門家向けプレゼンテーションを更新する（DRT/MATに対するNAの立場とプログラムの精神的性質を明確化）。

これらの目標は1サイクルで達成可能な範囲を超え、NAの広報ニーズを満たすための網羅的リストではなく始まりに過ぎない。目標1はNA内部の広報サービスに焦点を当てる。目標2については、他にも重要な対象層は多数存在するがこれら4つが、アディクトがNAを見つける最も一般的な経路である。各地域コミュニティが独自の対象層を特定し、開発されたツールを活用して地域のニーズに対応することを期待します。ここでツールという用語を用いるのは、特定された対象層に効果的に到達し、フェローシップが容易に利用できる方法を柔軟に決定できるようにするためです。繰り返し言及された手法には、マルチメディア、動画、ソーシャルメディア専用で作成された資料が含まれます。

主要成果領域KRA：サービスシステム支援

私たちのビジョンは、「世界中のNAサービス機関が団結と協力の精神で連携し、回復のメッセージを伝えるグループを支援する」未来と、「回復という贈り物に触発された全てのメンバーが、奉仕を通じて霊的成長と充実を経験する」未来を描いています。サービスシステム支援とは、つながりと団結を強化し、メンバーが関与し続けられるよう促すことに尽きます。

課題：バーチャルNAの台頭による影響

目標3：バーチャルグループとサービス機関がサービスシステムに完全に参加し、NAフェローシップの良心の一部としてその声が届く能力を向上させる。

解決策：

- バーチャルグループとエリアがNAサービスに参加するためのベストプラクティスを収集する（例：グローバルセンターサービス機関；既存の地域ベースシステム）。

WSC 2023は合意により、定期的に対面またはバーチャルで集まるNAミーティングが、グループブックレットに記載された基準（NAグループの6つの要件を含む）を満たし、我々の伝統に示されるNAの理念と整合する場合、NAグループとして認められることを決定した。我々は今、主に我々の集合的経験に基づいて、それが具体的に何を必要とするかを明らかにしなければならない。当初、私たちのサービスシステムは地理的位置に基づいて構築されました。バーチャルグループや地域に権利を付与するには、創造性と適応力が求められるかもしれません。最終的には、ベストプラクティスを収集することで、バーチャルミーティングの基本、グループブックレット、および/またはローカルサービスガイドへの新たな追加や改訂につながる可能性があります。

課題：サービスシステムにおける結束力の欠如課題：

目標4：サービスシステム内における調整と協力の概念を推進し、NAのビジョンに向けた補完的な役割と貢献への理解と評価を深める。

解決策：

- 『ローカルサービスガイド』に代わる、NAにおける現代的なサービスガイドを作成する。『ベーシック』シリーズと同様の形式で、モジュールベースのアプローチを検討する。サービスシステムへのバーチャルグループの組み込み方法に関するガイダンスと、ゾーンに関する情報を含める。リソース作成時には、将来的な代替形式（例：動画）でのコンテンツ展開も検討する。

計画立案はこれらの取り組みを確実に支援し、ゾーンとの連携強化を継続する意向である。本目標は単に連携を増加させることなく、連携の概念を深化させることに焦点を当てる。NAワールドサービスは計画立案や新ツール開発を通じて連携を模範化し促進できるが、実際の調整と協働の大部分は地域レベルで達成されるためである（『地域サービスガイド』に代わる新ツール開発は、現行の成功事例を捉える一助となり得る）。

課題：信頼される奉仕者の育成と組織化 課題：信頼される奉仕者の育成と組織化目標5：メンター制度、研修、ツールを通じて、奉仕活動の継続性を高め、あらゆる年齢層や回復段階のメンバーが奉仕活動に参加するよう促す。

解決策

- 既存の信頼された奉仕者が、メンバーに奉仕を促す環境を構築するためのメッセージとツールを作成し、継続的に信頼された奉仕者を育成するパイプラインを確立する。
- 若年層（年齢および回復歴において）のメンバーが奉仕活動に参加するよう促すメンターシップの指針とリソースを作成する。

参加者から頻繁に言及されたのは、過去および現在の信頼される奉仕者をメンター役として引き付ける方法の利点であり、これには新規メンバーの参加を促すことも含まれる。NA奉仕のビジョンに示された理想が実現し、「回復という贈り物に鼓舞された全てのメンバーが、奉仕を通じて精神的成長と充実を経験する」日が来ることを期待している。最近のNAメンバー調査では、奉仕役職を一切持たないと回答したメンバーが22%増加した。本計画全体を通じて、メンバーがより多くの動画リソースを望んでいることを認識している。優先解決策の具体的な達成方法については、最近の『NAメンバーシップサーベイ』では、奉仕役職を一切持たないと回答したメンバーが22%増加した。本計画全体を通じて、メンバーがより多くの動画リソースを望んでいることを認識している。優先課題の解決策を具体的にどのように達成するかは、策定されるプロジェクト計画に盛り込まれる。

課題：資金の流れの混乱

目標6：グループやサービス機関がメンバーに便利な寄付手段を提供し、サービスシステムの全構成要素を通じた資金分配を促進・奨励するためのツールを創出する。

解決策：

- ・ 電子寄付の手順をグループが参照できるリソースを作成する。
- ・ 寄付の意義、重要性、資金の使途に関するメッセージとリソースを作成する
(例：ユニティ・デイ、ウェビナー、ソーシャルメディア、リーディングカードなど)。

この目標は、資金の流れ全般と電子資金の普及拡大の両方に対処するものである。2023年WSCの会議参加者は、財務リソースに関するこれらの課題をフェロシップ全体の課題として特定した。

主要成果領域KRA：フェロシップ支援

「私たちのビジョンは、いつの日か世界中のあらゆるアディクトが自らの言語と文化で私たちのメッセージを体験し、新たな生き方の機会を見出せるようになることです」この主要成果領域はNAを見つけたあらゆるアディクトが、居続けられるほどに安全で尊重され、価値ある存在と感じられるよう働きかけ、その後に入ってくる人々を歓迎する基盤を整えることにあります。

課題：安全と帰属感

目標7：多様なフェロシップにおける包括性に関する意識を高め、対面およびオンラインのミーティングにおいて、全てのメンバーおよび潜在的なメンバーが安全で歓迎され、受け入れられていると感じられるよう、グループを支援するツールを開発する。

解決策：

- ・ NA文献における性別固有の表現から、性別中立的かつ包括的な表現への変更および／または追加文言を検討する。
- ・ NAにおける安全対策および捕食的行動への対処に関するサービスパンフレットを更新するか、新たなパンフレットを作成する
- ・ グループブックレットを更新し、安全と包括性に関するガイダンスを追加する。
- ・ オンラインMTにおける妨害的・不適切な行為への対応ツールを作成する。
- ・ 目標8の解決策を参照のこと。

本目標の範囲は広く、捕食的行為、ジェンダーニュートラルな言語などを含む。サービス資料や回復文献に関するプロジェクトの多くは、フェロシップ全体を対象とした何らかの調査から始まる。これにより、メンバーがプロジェクトに含めてほしい内容や考慮してほしい点を把握する。そうすることで、フェロシップ全体が戦略計画の解決策に列挙されたアイデアの焦点を絞る助けとなる。上記の解決策で言及された二つのトピック——妨害的・捕食的行動への対応と、NA文献におけるジェン

ダーニュートラルかつ包括的な言語——は、いずれも今サイクルの議題討論トピックとして選定された。妨害的・捕食的行動に関する意見は、新規・改訂資料で対処すべき多くの課題を示していた。破壊的および略奪的行動に関する意見は、新規・改訂資料で対処すべき多くの課題を指摘した。ジェンダーニュートラルかつ包括的な言語に関する意見は、次期サイクルでこのテーマについてより焦点を絞った議論を推奨する根拠となる。本戦略計画で提案された解決策は、優先順位付けされれば次期サイクルで実施可能な今後の取り組みの一部に過ぎない。

課題：薬物補助療法（MAT）

目標8：第三の伝統の精神に基づき、NAメンバーであることの意義と、NAとの出会いの経緯に関わらず、アディクトがメンバーシップを選択できる場をいかに創出するかについて、フェローシップ全体で共通理解を達成する。

解決策：

- ・メンバーや潜在的なメンバーに歓迎されていると感じてもらう方法に関するグループ向けリソースとワークショップを開発する。

薬物補助療法の普及と拡大は、ますます多くのアディクトが「使用をやめたいという願望」が自分にとって何を意味するのかを理解せずにNAに到達していることを意味する。薬物代替療法や薬物補助治療とNAの関係については、ここ数年議論が続いており、この話題はNA内で最も意見が分かれるものの一つとなり得る。関連する多くの問題でメンバーの見解は異なるものの、フェローシップとして第三の伝統の原則と、アディクトを歓迎し彼らが望むならNAメンバーシップを選択する余地を与える必要性については合意が得られているようだ。で寄せられた意見には、明確な立場表明を求める声が多数ある一方、ほぼ同数の反対意見も含まれています。ワールドボードは議論を主導しますが、私たちの慣行はフェローシップの経験を反映した内容を公表することです。これは広報目的ではなく、フェローシップの支援とNA内の文化に関わるものです。

課題：世代間・文化的多様性課題：世代間・文化的多様性

目標9：多様なメンバーの関与形態の好みに応えるため、コミュニケーション手法と技術の適応を継続する

解決策：

- ・若年層メンバーを意図的に惹きつけ、コミュニケーションの理解・拡散を容易にする戦略的アプローチを、新技術を活用して構築する。

具体案：

若年層メンバーからの直接意見収集

公式ワールドサービス通信手段としてWhatsApp/Telegram等のメッセージングアプリ導入

報告書内の情報伝達にインフォグラフィックや動画を活用

WhatsApp/Telegramなどのメッセージングアプリを公式ワールドサービス通信手段として導入

報告書内の情報伝達にインフォグラフィックや動画を活用

目標9の解決策は、あらゆる文化的・世代的差異に対応することを意図したものではない。これは変化する世界への適応に向けた一歩です。戦略計画は各会議サイクルごとに改訂され、一部の課題や目標は複数サイクルにわたり計画に残ります。高齢者メンバー、先住民メンバー、退役軍人など、他の層やコミュニティに働きかけるためのアイデアは数多く存在します。将来の戦略計画は、会議参加者

が選択する方向性に依拠して、これらのアイデアを活用できます。*communication methods*（コミュニケーション方法）という用語は、伝達手段だけでなく、内容の種類、使用言語などを含む。

主要成果領域KRA：ワールドサービス機構と運営

NAワールドサービスは、精神的使命と慈善目的を持つ法人である。この主要成果領域は、ワールドサービスの財政的責任とNAの精神的原則のバランスを取ることを目的とする。NAWSの持続可能性に関する課題は、ワールドボードとワールドサービスオフィスの経営陣の責任である。

課題：3年ごとの会議サイクル

目標10： 主要な会議、方針、計画プロセス、締切、ガイドラインを含む3年ごとの会議サイクルをさらに精緻化し、説明することで、参加者が3年サイクルを恒常的に採用するか否かについて十分な情報に基づいた判断を下せるようにする。

解決策：

- ・ 2サイクル実験の経験を基に、3年会議サイクルの提案説明とガイドラインを起草し、GWSNA草案に含め会議の決定に付す。中間WSC会議の定義を明確化し、対面会議期間中および会議間の時間を最適に活用する方法を検討する。
- ・ 地域およびゾーンにおける、代議員任期を3年会議サイクルに適合させるベストプラクティスを収集する。
- ・ 継続的な実施に向けた共同計画プロセスの評価と改善を行う。

目標10は、WSC2029での審議に向け、3年ごとの会議サイクルに関する包括的な構想を提示するという世界理事会の決意を示すものである。3年ごとの会議サイクルは、共同作業の計画立案、財政的責任の遂行、意思決定、そしておそらくより重要なこととして、会議間において私たちのフェローシップに貢献する活動をより多く行うための効果的な方法と思われる。私たちの現在の計画プロセスは、技術と3年ごとの会議サイクルの活用により、史上最も協働的なプロセスとして良好に機能しています。このプロセスでは、ゾーンフォーラムと会議参加者が直接関与します。私たちはこの経験を基盤に継続的に発展させる計画です。WSC 2026では、このサイクルの取り組みを評価し、将来に向けたアイデアを提示します。当初は計画プロセスのみを対象とした別の目標を設定していましたが、3年サイクルとの関連性が強いため、両目標を統合しました。

2029年には、会議参加者がこのサイクルの継続継続するか否かの選択を迫られることになります。当初は計画プロセス専用の別目標を設定していましたが、三年間サイクルとの関連性が強いため、両目標を統合しました。2029年には会議参加者が三年間サイクルの継続可否を判断する必要があり、本目標はその判断を情報に基づいた形で可能にすることを目的としています。1998年にフェローシップがワールドサービス再編を決定した際、採用を求められた変更点を詳細に記した『ワールドサービスガイド』草案が決定の助けとなりました。三年間サイクルの決定にも同様のアプローチを想定しています。2029年までに、WSCが今後の会議サイクル期間について十分な情報に基づいた決定を下せるよう、多くの作業が必要です。

議題：世界大会の将来について

目標11： 第11の概念に沿い、変化する世界におけるグローバル・フェローシップのニーズと期待に応える、財政的に持続可能な世界大会（WCNA）モデルを構築する。

解決策：

- ・ WCNAを5年ごとに開催し、開催地の柔軟なローテーションと参加者数の上限設定を検討する。
- ・ バーチャル参加者に財政的貢献を求める方法を模索する。

世界大会は回復を祝うグローバルな祭典であり、その規模と性質から世界理事会が計画・運営の責任を負う。世界理事会は2026年CARにおいて、収支均衡イベントの計画を望む意向を含むWCNAに関する提言を行っている。大規模イベントの計画はますます困難になっている。開催地域が固定され、参加人数を予測できないことが課題を深刻化させている。上記の解決策はすべて財政的責任を果たすためのものだ。このCARにおける提案は、私たち全員が学び、実現可能かつフェローシップに資する形に適応していく過程の始まりに過ぎないと認識している。

課題：NAWSの持続可能性課題：NAWSの持続可能性

目標12：目標6に基づき、回復のメッセージを伝える上で十分な財政的資源の必要性和重要性に対する理解を深める。

解決策：

- ・ 財政的貢献者へ四半期ごとの「感謝」メッセージを送信し、ソーシャルメディアコンテンツへのリンクを添付する。
- ・ サービスシステム全体のイベントや大会で、フェローシップ発展の動画を上映するよう奨励する。

目標13：変化する世界においてNAワールドサービスの役割と機能を最大限に支援するため、NAワールドサービスの活動を継続的に評価・調整する。

解決策：

- ・ NAWSの業務運営において、変化する世界の現実に対し柔軟かつ責任を持って対応し続ける。
- ・ メンバーの意見と関与を求めるにあたり、包括性と説明責任を高める柔軟な手段として、フォーカスグループの活用を継続する。

目標12は、現在の実践下におけるNAWSの財政的持続可能性の重要性和課題について、フェローシップの認識を高めるという継続的な目標の延長である。その重要な要素は、フェローシップの貢献がメッセージの伝達をいかに支えているか、そして継続的な支援の必要性である。

目標13は、NAワールドサービスがパンデミックにより史上最も劇的な資源変化を経験したことを認めるものである。私たちは2020年以降、評価と調整を続けており、フェローシップの主要サービスセンターが可能な限り効果的かつ迅速に対応できるよう、今後も継続します。これには既存のプログラムや慣行の評価、NA内外の変革する世界への適応が求められます。

付録 C

提案されたワールドコンベンションガイドライン

(提案された) ワールドコンベンションガイドライン

目的

一体性はナルコティクス・アノニマスのすべての活動の基盤であり、ワールド・コンベンション・オブ・ナルコティクス・アノニマス (WCNA) はその原則を具体的に表す行事です。このイベントは世界中のメンバーが集まり、アディクションからの回復を祝います。

私たちのシンボルが回復するアディクトのあらゆる姿を包み込むように、WCNAは、私たちの仲間としての卓越した多様性、知恵、精神を際立たせ、共に自由の中で成長する機会を提供します。これは、NAメンバーが回復において見いだした喜び、希望、自由を分かち合う場でもあります。

WCNAはメンバーにとって力強い体験であるだけでなく、広報のユニークな機会としても機能します。専門家や地域社会、より広い世界に向けて、「どんなアディクトでも薬物使用をやめ、使用の欲求を失い、新しい生き方を見つけることができる」ということを直接示すことができます。

最終的に、WCNAは私たちの仲間を祝う場であり、希望のメッセージをまだ苦しんでいるアディクトに届けるために団結した、活気ある成長する国際的コミュニティです。

ワールド・コンベンション・ゾーンローテーションプラン

2028年以降、WCNAは5年ごとに開催されます。2028年のコンベンションはNAの75周年を記念してヨーロッパで開催されます。その後も5年ごとに開催される予定です。世界情勢が許す範囲で、イベントはローテーションで開催され、開催地の検討はワールドボードが担当します。(詳細は下記参照) 伝統的にWCNAは、アメリカのレイバーデー (9月初週) に合わせて開催されてきましたが、ワールドボードは各イベントに応じて適切と判断した日程を設定する権利を保持します。

開催地の選定

ワールドボードは、NAの国際性を反映しつつ、フェローシップの資金を慎重に使用する計画を立てることを約束します。開催地は、世界の現状の地政学および財政的状况に応じて、可能かつ慎重にローテーションを考慮して選定されます。同時に、少なくとも「収支中立」を維持することが求められます。収入が支出をカバーするイベントを計画するには、参加人数に上限を設ける必要がある場合があります。国際的な大型イベントにおける費用の増加や移動の複雑化に対応するため、開催地選定には柔軟性が不可欠です。

事前に厳格なローテーションプランを設定すると、実行が困難になり、計画自体が不可能になる可能性があります。コンベンションの開催地選定が始まる際には、ワールドボードはNAWSの出版物を通じてフェローシップに通知し、そのイベントで検討中の大陸を報告します。地域やゾーンも、特定の都市を検討してほしい場合、wb@na.org宛にメールでリクエストできます。すべての候補地は、通常、外部リソースを活用して初期選定を行う標準的な選定プロセスの対象となります。

ワールドボードは、すべての候補地の調査、交渉、承認を担当します。計画のタイムラインはイベントによって異なる場合があります。適格な都市には標準化された提案依頼書 (RFP) が送付され、実現可能性、費用、収容能力の評価が行われます。調査結果に基づき、交渉対象となる都市が特定されます。交渉に関する報告はボードレビュー用に作成され、その後ボードは最終決定を行うか、必要に応じて交渉を継続します。最終決定はフェローシップに報告されます。

慎重な計画には、ボードが事前にイベントの収容人数を設定・周知することが含まれます。また、過剰な費用や実現可能性の問題により、開催地が除外される場合もあります。

WCNAワークグループ

ワールドボードがWCNAに最終的責任を持つ一方で、WCNAワークグループは重要な支援的役割を果

たします。その目的は、計画や実施の特定分野でボードを支援し、意見やボランティア、その他のサポートを提供することです。ワールドボードは、ワールドサービスを通じて各コンベンションの方向性と焦点を設定し、WCNAワークグループに明確な責務リストを提供します。

フェローシップの一体性を表現すること

ワールドボードは、WCNAワークグループおよびフェローシップ全体の支援を受けつつ、各ワールドコンベンションが単なる大規模イベント以上のものとなるよう努めます。これは、あらゆる背景のアディクトが回復の中で集い、アクティブな依存からの自由を祝福し、まだ苦しんでいるアディクトに希望のメッセージを伝える、私たちの精神的原則の具現化です。

WCNAは、フェローシップの統一、多様性、回復を最も目に見える形で示すイベントのひとつです。慎重な計画、透明な情報共有、世界的な参加を通じて、WCNAは世界中のアディクトにとって希望の灯台として機能し続けます。

付録 *D*

現行ワールドコンベンションガイドライン

(現行) ワールドコンベンションガイドライン

目的

ナルコティクス・アノニマスワールドコンベンション (WCNA) の主な目的は、私たちの回復を祝う特別な機会を提供すること、フェローシップの多様性を示すこと、そして一体性の精神を示すことです。

ワールド・コンベンション・ゾーンローテーションプラン

2023年WSCで可決された次の動議の結果として、このローテーションプランは、新たな決定が下されるまで停止されます。

動議 #8：COVIDパンデミックの影響により、2024年以降のナルコティクス・アノニマスワールドコンベンション (WCNA) のローテーションポリシーを一時停止し、今後可能かつ実行可能な方針をワールドボードが決定したうえで、会議参加者の承認を得ること。

歴史的に、ワールドコンベンション (WCNA) は通常、アメリカのレイバーデーの週末にあたる9月の最初の週末に開催されてきました。しかし、ワールドボードは、コンベンションの日程を適切に設定する権利を保持します。WCNAは3年ごとに開催されます。

Year	Zone	Actual Site
2024	North America	Washington, DC 29 August–1 September 2024
2027	Europe	
2030	North America	
2033	Central and South America	

現在のローテーションプランは継続されるか、あるいは2036年のワールドコンベンション (WCNA) の会場計画に十分な時間をもって、新たなローテーションプランがカンファレンスに提示されます。北アメリカ、アジア・太平洋・中東・アフリカ、ヨーロッパ、中央・南アメリカにゾーンがあります。WCNAのローテーションは、北アメリカ以外で開催されるのが、毎回1回おきのコンベンションとなるように設定されています。

開催地の選定

特定のゾーンにおける会場選定プロセスの初期段階では、ワールドボードはワールドサービスの出版物を通じて会場選定プロセスが開始されたことをフェローシップに通知します。検討中の都市も報告されます。また、各リージョンは、自分のリージョン内の特定の都市をワールドボードに検討してもらうよう要請することができます。そのすべての都市は、本ガイドラインで説明されている会場選定プロセスの対象となります。

ワールドボードは会場選定プロセスの中で多くの要素を考慮します。ワールドコンベンションが地域のNAコミュニティに与える潜在的影響、地域コミュニティがワールドコンベンションを開催する意欲と能力、過去のワールドコンベンションの会場などが重要な考慮事項です。その他、会場選定時に考慮される要素として、コンベンション活動に使用可能な施設、都市がコンベンションに独自の地域色を加える要素、メンバーにとって魅力的な全体的な条件を構成するその他の要素があります。

ワールドボードは、ワールドコンベンションのすべての潜在的会場を調査、交渉、承認する責任を負います。ワールドコンベンションの計画期間はゾーンごとに異なります。選定プロセスの最初のス

トップは、以下の理想的で標準化された基準を満たすゾーン内のすべての都市を特定してリストアップすることです。

アメリカおよびカナダの都市の場合

- 大都市圏の人口が100万人以上であること
- リージョン内にグループ／ミーティングが100以上あること
- 国際空港があること
- 必要な期間に十分なホテル客室と会場スペースが確保できること

その他の都市の場合

- 大都市圏の人口が50万人以上であること
- リージョン／NAコミュニティ内にグループ／ミーティングが50以上あること
- 都市内にグループ／ミーティングが25以上あること
- 国際空港があること
- 必要な期間に十分なホテル客室と会場スペースが確保できること

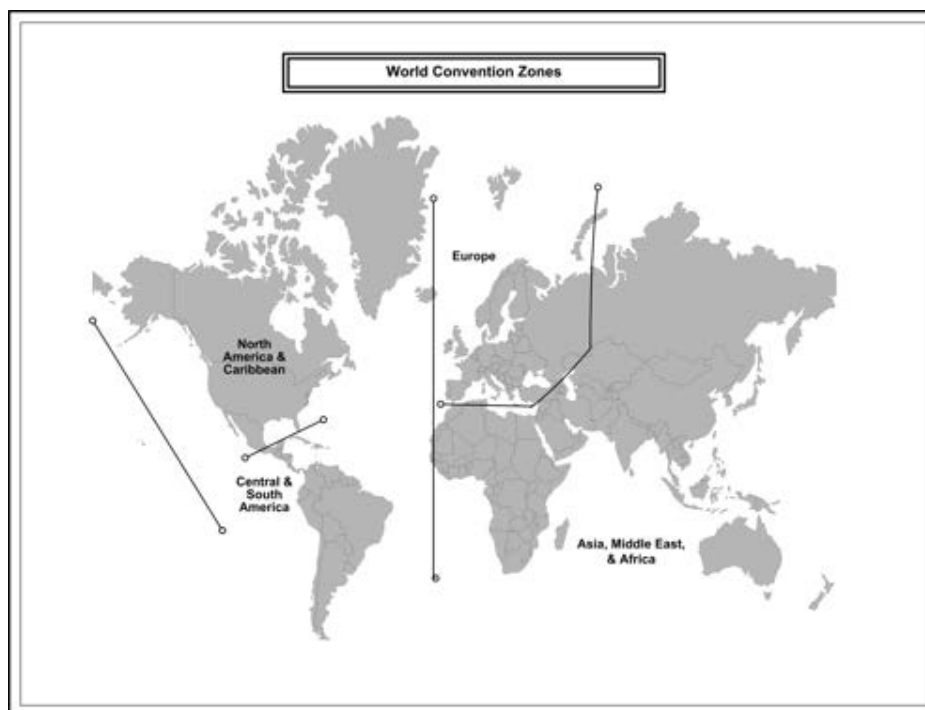
適格都市の初期リストは、その後、法人の目的達成およびイベントの想定ニーズに照らしてワールドボードが精査します。残った都市について実現可能性調査を行い、その結果に基づいて交渉対象の都市が特定され、交渉報告書がワールドボードに提出されます。ワールドボードは最終決定を下すか、必要に応じて追加交渉を行い、最終決定が下されフェローシップに報告されます。

WCNAワークグループ

目的

ワールドボードがワールドコンベンションの責任を負う一方で、WCNAワークグループはその成功に重要な役割を果たします。WCNAワークグループの目的は、計画および実施の特定の分野において、意見提供、ボランティア、支援を通じてワールドボードを補佐することです。

方向性と重点はワールドサービスが定めます。ワールドボードは各WCNAワークグループに対して責任範囲のリストを提供します。



付録 E

公開済み資料一覧

カテゴリーと翻訳済みを示す

Current List of Published Materials

	Fellowship Approved Recovery Material	Conference Approved	WB Approval and CP Review	Date of First Publication & Last Revision	Number of Languages	Languages Published as of 24 October 2025	
Basic Text	X			1983/2008	39	AF, AR, BG, BM, BR, CH, CR, DK, EN, FA, FI, GE, HE, HI, HU, ID, IS, IT, JP, LT, NL, NR, PB, PL, PO, SP, SW, TU, FR, GR, TH, LV, RU, FL, NE, KN, SH, KA, TA	
Just For Today	X			1992/2008	20	EN, SW, SP, RU, PO, NR, LT, JP, IT, HI, HE, GE, FR, FA, DK, PB, FI, GR, TU, LV	
It Works: How and Why	X			1993	22	EN, SW, SP, PO, PL, NR, JP, IT, HI, HE, GE, FR, FI, FA, DK, PB, AR, LT, HU, RU, NL, LV	
Introductory Guide to NA	X			1992	23	EN, HU, PB, CR, DK, FA, FL, FI, FR, AR, GR, TU, IT, LT, NL, NR, PL, SP, SW, GE, AF, ID, RU	
White Booklet	X			1976/1983	31	EN, JP, AN, ASL, BE, PB, FA, FL, FR, GE, GR, AF, IT, KO, LT, MT, NR, PO, RU, SL, SP, SW, TU, HI, IS, KA, KN, TA, AR, ZU, UA	
The Group Booklet	X			1990/2000	15	EN, SP, RU, PO, PL, NR, LT, IT, HU, HE, GE, FR, FA, DK, PB	
Twelve Concepts for NA Service	X			1992	16	EN, SW, SP, RU, PO, PL, NR, LT, IT, HU, GE, FR, FA, PB, GR, JP	
Miracles Happen		CA		1998/2002	4	EN, FA, PB, SP	
Behind the Walls	X			1990	16	EN, SW, SP, RU, PO, PL, NR, LT, JP, IT, HU, GE, FA, PB, SL, FR	
In Times of Illness	X			1992/2010	13	EN, SP, PO, NR, IT, HE, GE, FR, FA, DK, RU, PB, SW	
Working Step Four in NA	X			1988	20	EN, SP, RU, PO, PL, NR, MP, LT, IT, HU, GE, FR, FI, FA, DK, PB, SW, TU, TA, HI	
The Narcotics Anonymous Step Working Guides	X			1998	20	EN, IT, PB, DK, FA, FI, FR, HE, AR, HU, SW, JP, LT, NR, PL, PO, RU, SP, HI, LV	
Sponsorship	X			2004	10	EN, SP, RU, NR, IT, GE, FR, FA, PB, JP	
Living Clean	X			2012	16	EN, SW, SP, RU, NR, IT, FA, PL, HU, GR, PB, LV, DK, JP, LT, FR	
Guiding Principles	X			2016	7	EN, FA, SP, HU, IT, PB, RU	
60th Anniversary White Book	X			2022	1	EN	
A Spiritual Principle a Day	X			2022	3	EN, FA, SP	
NA Survival Kit	X			2024	4	EN, SP, PB, SW	
IP #1, Who, What, How, and Why	X			1976/1986	61	EN, FI, LV, KN, JP, IT, ID, IS, HU, HI, HE, GR, AF, FR, MT, FL, FA, ET, DK, CR, CH, BG, PB, BE, AR, AN, GE, SP, OR, SR, CS, CT, KO, AM, UR, UA, TU, TH, TA, LT, SH, BM, SL, SK, RU, PA, PO, PL, NR, NE, NL, MP, ZU, SW, BN, KA, ASL, SI, AZ, KK, RO	
IP #2, The Group (IP)	X			1976/1998	33	EN, MP, PB, CR, DK, FA, FL, FI, FR, GE, HE, ID, AF, LT, KO, NL, NR, PL, PO, RU, SL, SP, SW, TH, UA, IT, ZU, AR, TU, TA, HI, SK, AZ	
IP #5, Another Look	X			1985/1992	41	EN, FA, HU, HI, GR, GE, FR, AF, FL, JP, DK, CR, CH, PB, AN, AR, FI, PO, KO, UA, TU, TH, SW, SP, ID, RU, IT, PL, NR, NL, LT, LV, CT, SL, IS, KA, NE, TA, BN, SK, AZ	
IP #6, Recovery & Relapse	X			1976/1986	49	EN, AN, FL, AR, HU, HI, HE, GR, GE, IT, FI, JP, FA, DK, CR, CH, BG, PB, BE, FR, RU, CT, KO, UA, TU, TH, SW, ID, SL, ZU, PO, PL, NE, NL, NR, MP, LT, SP, BM, KN, TA, IS, AF, KA, LV, BN, CS, SK, AZ	
IP #7, Am I an Addict?	X			1983/1988	55	EN, FL, JP, IT, ID, IS, HU, HI, HE, GR, GE, AF, FI, LT, FA, ET, AN, DK, CR, CH, BG, PB, BE, AR, FR, SL, OR, CT, KO, UR, UA, TU, TH, TA, SW, KN, SP, LV, SK, RU, PO, PL, NR, NE, NL, MP, BM, ZU, SH, BN, KA, CS, SR, RO, AZ	
IP #8, Just For Today (IP)	X			1983	47	EN, FA, ID, IS, HU, HI, GR, GE, FR, AN, FL, LV, DK, CR, CH, BG, PB, BE, AR, FI, PO, KO, UA, TU, TH, SW, SH, SP, IT, RU, JP, PL, NR, NE, NL, MP, BM, LT, CT, SL, TA, AF, KA, BN, CS, SK, AZ	
IP #9, Living the Program	X			1983	36	EN, KN, AN, BE, PB, DK, FA, FI, FR, GE, HE, HI, HU, AF, IT, TU, LT, MP, NL, NE, NR, PL, PO, RU, SP, SW, TH, IS, AR, ZU, TA, BN, UA, ID, SK, BG	

Item	Fellowship Approved Recovery Material	Conference Approved	WB Approval and CP Review	Date of First Publication & Last Revision Date	Number of Languages	Languages Published as of 24 October 2025	
IP #11, Sponsorship	X			1983/2004	45	EN, FA, HU, HI, HE, GR, GE, FR, AF, FL, JP, ET, DK, CR, CH, PB, AR, AN, FI, PL, KO, UA, TU, TH, SW, SP, SL, ID, PO, IT, NR, NE, NL, MP, LT, LV, CT, RU, TA, IS, BM, SK, PL, BG, CS	
IP #12, Triangle of Self-Obsession	X			1983	35	EN, IT, AN, AR, PB, BG, DK, FA, FI, FR, GE, HE, AF, HU, TH, LV, LT, MP, NL, NR, PL, PO, RU, SK, SP, SW, HI, TU, ID, KA, NE, TA, BN, UA, CS	
IP #13, By Young Addicts, for Young Addicts	X			2008	28	EN, LT, PB, DK, FA, FI, FR, GE, HE, HU, AN, IT, KO, NL, NR, PL, PO, RU, SP, SW, TH, TU, IS, AR, TA, GR, UA, SK	
IP #14, One Addict's Experience...	X			1983/1992	42	EN, FL, AN, IS, HU, GR, GE, IT, FI, JP, FA, DK, CR, CH, PB, AR, FR, PO, KO, UA, TU, TH, SW, ID, RU, CT, PL, NR, NL, MP, LT, LV, SP, SL, AF, BM, NE, TA, BN, CS, HI, SK	
IP #15, Pl and the NA Member	X			1991	28	EN, MP, BE, PB, DK, FA, FR, GE, HU, IS, AN, LT, TH, NL, NE, NR, PL, PO, RU, SP, SW, IT, TU, AF, TA, BN, UA, CS	
IP #16, For the Newcomer	X			1983	49	EN, FL, AN, ID, IS, HU, HI, HE, GR, GE, JP, FI, KN, FA, ET, DK, CR, CH, PB, BE, AR, FR, PO, CT, KO, UA, TU, TH, SW, SH, SP, IT, RU, ZU, PL, NR, NE, NL, MP, BM, LT, LV, SL, TA, AF, KA, SK, CS, BG	
IP #17, For Those in Treatment	X			1991	17	EN, SW, SP, RU, PO, PL, NR, LT, IT, ID, HU, GE, FA, DK, PB, FR, NE	
IP #19, Self-Acceptance	X			1985	46	EN, FL, AN, HU, HI, HE, GR, GE, IT, FI, JP, FA, DK, CR, CH, BG, PB, AR, FR, PO, KO, UA, TU, SW, SH, SP, ID, RU, CT, PL, NR, NE, NL, MP, LT, LV, SL, IS, AF, BM, BN, KA, TA, SK, CS, BE	
IP #20, H&I and the NA Member	X			1986/2001	24	EN, LT, PB, DK, FA, FR, GE, HU, IS, AN, LV, SW, MP, NL, NE, NR, PL, RU, SP, IT, AF, TA, BN, ID	
IP #21, The Loner	X			1986	16	EN, SW, SP, RU, PO, PL, NR, IT, HU, GE, FI, FA, PB, BM, AR, TA	
IP #22, Welcome to NA	X			1986/1987	44	EN, FA, AF, IS, HU, HI, HE, GR, GE, FR, IT, FL, JP, DK, CR, CH, BG, PB, BE, AR, AN, FI, PO, CT, KO, UA, TU, TH, SW, SH, SP, ID, RU, ZU, PL, NR, NE, NL, MP, BM, LT, LV, SL, TA	
IP #23, Staying Clean on the Outside	X			1987/1988	39	EN, FL, HU, HI, GR, GE, AN, FI, LV, FA, DK, CR, CH, PB, AR, FR, PO, KO, UA, TU, TH, SW, SP, IT, RU, JP, PL, NR, NL, BM, LT, CT, SL, ID, IS, AF, NE, TA, BN	
IP# 24, Money Matters: Self-Support in NA	X			2010	24	EN, IT, AN, AR, PB, DK, FA, FI, FR, GE, HU, SW, LT, MP, NL, NR, PL, PO, RU, SP, HE, LT, AF, UA	
IP #26, Accessibility for Those with Additional Needs	X			1998	15	EN, SP, RU, NR, IT, GE, FA, DK, PB, FI, FR, HU, SW, AR, PL	
IP #27, For Parents or Guardians of Young People in NA	X			2008	20	EN, TU, SP, RU, PL, NR, NL, IT, HU, GE, FR, FA, DK, PB, PO, FI, TA, ID, AR, LT	
IP #28, Funding NA Services		CA#		2010	19	EN, TU, SP, RU, PO, PL, NR, NE, NL, IT, GE, FR, FA, DK, PB, AR, AF, HU, SW	
IP #29, An Introduction to NA Meetings	X		SP in 2008	2014	21	EN, TU, SP, RU, PO, PL, NR, IT, HE, DK, CH, PB, AR, AF, JP, FA, TH, FI, FR, HU, SW	
IP #30, Mental Health in Recovery	X			2020	12	EN, DK, FA, FI, FR, HU, ID, PB, SP, SW, PL, RU	
Public Relations Material							
NA: A Resource in Your Community*		CA		1991/2025	16	EN, TU, SW, SP, RU, PO, PL, NR, LT, IT, FR, FA, BG, PB, FI, TA	
Narcotics Anonymous and Persons Receiving Medication-Assisted Treatment			X	2016	9	EN, DK, SP, SW, FA, NR, IT, RU, FR	
Membership Survey**			X	2006/2025	11	EN, SW, SP, PL, IT, ID, HU, GE, FR, PB, FA	
Information about NA**			X	2006/2025	19	EN, CT, SW, SP, NR, IT, ID, HU, GR, GE, FR, CH, AR, FA, PB, PL, SL, FI, RU	
European Membership Survey**			X	2010/2025	1	EN	
Russian Membership Survey**			X	2019	1	RU	

Item	Fellowship Approved Recovery Material	Conference Approved	WB Approval and CP Review	Date of First Publication & Last Revision Date	Number of Languages	Languages Published as of 24 October 2025
Service Tools						
Hospitals & Institutions Handbook		CA#		1987/1989	2	EN, FA
A Guide to World Services in NA		CA#		2000/2018	2	EN, SP
A Guide to Local Services in NA		CA#		1997	4	EN, GE, SP, FA
Public Relations Handbook		CA#		2006	4	EN, SP, FA, PB
Literature Committee Handbook		CA#		1983/1987	1	EN
Handbook for NA Newsletters		CA#		1985	1	EN
A Guide to Phoneline Service		CA#		1986	2	EN, FA
Treasurer's Handbook		CA#		1985/2003	3	EN, IT, SP (DRAFT)
Group Treasurer's Workbook		CA#		1988, 2003	3	EN, LT, SP
Outreach Resource Information		CA#		1998	1	EN
Institutional Group Guide		CA#		1998	2	EN, PB
Additional Needs Resource Information		CA#		1998	1	EN
Group Business Meetings, SP			X	2007	16	EN, SW, SP, PO, PL, NR, IT, HE, FR, FA, FI, RU, AR, HU, PB, TU
Group Trusted Servants: Roles and Responsibilities, SP			X	2007	16	EN, SW, SP, RU, PO, NR, LT, IT, FR, FI, FA, PB, AR, HU, TU, RU
Disruptive and Violent Behavior, SP			X	2007	21	EN, IT, PB, FA, FI, FR, GE, AR, HE, SW, LT, NR, PL, PO, RU, SP, GR, DK, HU, TU, ID
NA Groups and Medication, SP			X	2007	16	EN, SW, SP, PO, NR, IT, HU, HE, GR, GE, FR, FI, FA, DK, RU, PL
Principles and Leadership in NA Service, SP			X	2008	10	EN, SP, NR, IT, GE, FA, PL, RU, FR, SW
Social Media and Our Guiding Principles, SP			X	2011	14	EN, SP, RU, PO, NR, IT, GE, FR, FI, DK, FA, PL, PB, HU
PR Basics			X	2010	7	EN, GE, SP, PB, FA, SW, PL
H&I Basics			X	2010	4	EN, GE, SP, PB
Translations Basics			X	1999/2018	3	EN, SP (draft), FR
Phoneline Basics			X	2018	3	EN, SP, FA
Planning Basics			X	2011	3	EN, SP, FA
Local Service Toolbox <ul style="list-style-type: none">• CBDM Basics• Serving NA in Rural & Isolated Communities• GSR Basics• Virtual Meeting Basics			X	2018 2019/2025 2020 2022/2024	6 2 4 6	EN, NR, FA, IT, PL, SP EN, SP EN, SP, FA, IT EN, SP, FA, FR, HU, IT
Conventions & Events Toolbox <ul style="list-style-type: none">• The Program Committee and Developing the Program• Money Management• Contracts and Negotiations			X	2018 2019 2020	2 2 2	EN, SP EN, SP EN, SP

* Statistics and local information for these items can be amended with notification to NAWs. These items are routinely updated with WB approval and without CP review.
+ Items approved with only WB approval
Indicates "adaptable" for local needs in translations

Code	Language
AF	Afrikaans
AM	Amharic
AN	Anglicized
AR	Arabic
ASL	American Sign Language
AZ	Azerbaijani
BE	Bengali
BG	Bulgarian
BM	Bahasa Melayu
BN	Bengali/Bangladesh
BR	Braille
CH	Chinese
CR	Croatian
CS	Czech
CT	Chinese Traditional
DK	Danish
EN	English
ET	Estonian
FA	Farsi
FI	Finnish
FL	Filipino
FR	French
GE	German
GR	Greek
HE	Hebrew
HI	Hindi
HU	Hungarian
ID	Indonesian
IS	Icelandic
IT	Italian
JP	Japanese
KA	Georgian
KK	Kazakh
KN	Kannada
KO	Korean
LT	Lithuanian
LV	Latvian
MP	Manipuri
MT	Maltese
NE	Nepali
NL	Netherlands
NR	Norwegian
OR	Odia
PA	Punjabi
PB	Portuguese/Brazil
PL	Polish
PO	Portuguese
RO	Romanian
RU	Russian
SH	Swahili
SI	Sinhala
SK	Slovak
SL	Slovenian
SP	Spanish
SR	Serbian
SW	Swedish
TA	Tamil
TH	Thai
TU	Turkish
UA	Ukrainian
UR	Urdu
ZU	Zulu